

四 日中関税協定交渉關係

240 昭和5年1月5日 在上海重光總領事より
幣原外務大臣宛（電報）

小幡公使任命問題に關し我が方希望貫徹困難
により同公使に代る適任者を選び時局に対応
した交渉方急務なる旨意見上申

上海 1月5日前發
本省 1月5日後着

第一六號（極秘）

小幡公使任命問題ニ關スル我方ノ希望貫徹ハ遺憾乍ラ少ク
トモ當分ハ困難ト認ムルノ外ナキ處駐支公使ノ手ニ依リテ
行ハルヘキ條約改正及之ニ關スル問題ハ猶豫出來難キ狀態
トナリ居リ若シ之等大筋ノ交渉開始ナクテハ他ノ幾多ノ交
渉案件モ圓滿ニ動キ出サヌ有様ナリ他方各國ノ態度今日ノ
如クナルニ於テハ支那側ノ態度ハ益々無遠慮トナルヘク法
權撤廢ノ宣言後國定稅率ノ問題ノ如キ殘りタル日本一國ノ
ミヲ顧慮シテ其ノ施行ヲ躊躇スルトハ考ヘラレス若シ支那

ニ代リテ貨物ヲ密輸シ一度關員ニ查出詰問セラル、時ハ現
場ニ於テ抵抗シ又ハ關内ニ闖入シテ兇暴ヲ働キ或ハ事後群
ヲナシテ關員ニ對シ報復的殴辱ヲ加ヘ然カモ日警ハ此レヲ
見サルカ如ク裝ヒ關員ノ報告ヲ受クルモ亦言ヲ左右ニ托シ
テ協助ヲ為サス故ニ鮮人ハ恃ム處アリテ悍然自由行動ヲ為
スカ如シ如斯情況ナルヲ以テ本年六月關員撫恤章程ヲ作成
報告シ置キタル處ナルカ其ノ後又々關員ノ生命ニ危險ヲ及
ホス事件發生セシハ衆知ノ處ニシテ今次ノ罷業ハ公務上ヨ
リ論スレハ之ヲ許サレサルモ情實ヲ以テミレハ寛恕スヘキ
モノナリ然レトモ此ノ種ノ行動ハ却テ鮮人ニ密輸ノ好機ヲ
與フルモノニシテ決シテ根本的解決ノ策ニ非ラサルヲ以テ
友蘭ハ各關員ニ對シ無畏ノ精神ヲ持チ從前ノ如ク執務シ以
テ國体關稅權ヲ保持スヘキ論告スルト共ニ一方日本領事
ニ對シ積極交渉ヲ為シタルモ依然トシテ毫モ誠意ナク只管
海關巡緝隊ノ將來棍棒ヲ携帶セス以テ日警ノ干渉ヲ誘致ス
ルカ如キコト無キ様トノ要求ノミヲ爲シ公理蕩然トシテ憤
慨ニ勝ヘス此ノ情形ヨリ推測スルニ現地ニ於テハ解決スル
コト能ハサルカ如ク且新稅率實施モ間近ニ迫リ密輸ハ旧ニ
倍シ暴行モ一層激増スヘキヲ豫想セラル、ニ付貴會（部）

239 昭和5年12月27日 币原外務大臣より
太田関東長官宛（電報）

安東密輸取締り規則公布について

本省 12月27日後9時49分發

第四七號

貴電第七一號ニ關シ

米澤領事へ左ノ通
拓務省ト協議ノ結果關東廳警務局長發拓務省管理局長宛二
十日附關機高發第三一三五九号別紙廳令案ヲ公布セシムル
コトトナリタルニ付右御含アリ度尙支那側ニテ輸出ヲ禁止
シ居ル金塊ニ付テハ疑問アリ得ベキモ右ト雖往電第三四号
ノ通り正規ノ手続ヲ經スシテ輸出ヲ企ツル場合ハ密輸出ト
シテ本廳令第一条ニ包含セラル、コト勿論ナルヘシ
安東ヘ轉電セリ

ヨリ中央政府ヲ經テ日本側ニ向テ嚴重交渉ヲ提出スルニ非ラ
サレハ其ノ効果ハ收メ難シ右御詮議ノ上何分ノ指令相仰度
安東海關監督代理 李友蘭

十二月六日

又黨部及政府ニ於ケル決定ハ徹底的ノモノアリ且飽ク迄一
方的若ハ自主的ニ斷行スル國民黨ノ立前ヲ取り事實外國關
係ノ如キ餘リ顧慮セス外交部ノ如キハ單ニ中央ノ決定ヲ如

何ニシテ巧妙ニ施行セムカノ機關ニ過キス外國側ハ支那ノ病的状態ヲ取扱フニ大ナル實際的苦心ヲ拂フ所以ナルカ各地交渉員ノ廢止ノ如キモ右支那側遣口ノ一例ニシテ之力爲中央政府トノ交渉案ハ從來ニ比シ益々繁多トナルヘキハ勿論ナリ

然ルニ近キ將來ニ新公使ノ任命モ見込薄キ今日公使力相當ノ「スタッフ」ヲ以テ南方ニアリテ通商ヲ開始セラルノ立前ニテ出來居ル現在ノ組織ニテハ此ノ重大ナル時局ヲ支フルノ甚タ不満足ナルハ御賢察ノ通ニ付速ニ相當ノ手當ヲ施派シ英斷ヲ以テ重要ナル諸問題ヲ相當支那ノ満足スル程度ニ於テ解決シ凡テノ空氣ヲ一新スルノ態度ニ出テラルハ或ハ第一策トモ思考セラル然ラサレハ事實公使二代ル適任者ヲ他ニ物色シ交渉ヲ進メテ時局ニ對應スル様ニ取計フモ已ムヲ得サルヘク何レニシテモ前記ノ事態ニ適應スル組織充實ノ方法ヲ講セラルノ急務ナルヲ感ス

南京ニ暗送セリ

中国国定税率導入の延期に努力すべく本省で
詮議方意見具申

論ナリ

上海

發

本省 1月6日後着

第一八號（極秘）

往電第一六號冒頭ニ關シ

目下差迫レル問題タル關稅問題ニ關シテハ支那側力所謂國定稅率實施ニ付テハ我方ノ諒解ヲ得ントスル意向アルコトハ客年往電第一四六九號宋子文ノ内話ニ依リ略推知シ得ル處ナルカ二月一日ヨリ右國定稅率實施ニ付テハ支那政府筋ハ既ニ一般ニ發表シ居リ（往電第一四七四號）又蔣介石モ特ニ新聞記者ニ對シ日本ノ反對アルモ斷然國定稅率ヲ實施スヘキ趣旨ヲ聲明セルカ右ハ最近南京政府ノ財源漁リノ結果ニテモアリ單ニ主義ノ問題ニ止マラサルコトテ支那側トシテ拔キ差シナラヌ破目ニ陥リツツアルカ如シ然ルニ國定稅率實施ニ付テハ日本以外ノ各國ハ條約上問題ナク單ニ日本ノ諒解ヲ得レハ足ル次第ナルカ支那側ハ客年ノ關稅協

定ヲ以テ日本カ支那ノ關稅自主權ヲ承認シタルモノナリト宣傳シ居リ現ニ責任アル地位ニ在ルモノ迄カ折ニ觸レ右様ノ言ヲ洩シ居ル實情ニテ（客年ノ關稅協定ニ對スル支那側ト我方トノ解釋ニハ相當大ナル開キアリ從テ此ノ點ニ關シ議論スルコトトモナラハ再ヒ條約ノ效力問題ニモ及フコトトナリ議論別レトナリ結局得ル所ナキニ至ルヘン）結局二月一日前ニ適當ノ方法ヲ以テ本件ノ交渉ヲ進メ若シ期日迄ニ協定ニ達セサルニ於テハ交渉進行中國定稅率ノ實施ヲ延期セシムル様努力スルコト必要ナリト思考スルニ付御詮議ヲ請フ

南京へ暗送セリ

242 昭和5年1月10日 常原外務大臣より
在南京上村領事宛（電報）

小幡アグレマン問題と切離して重光を臨時代理公使に就任させた旨王部長へ申入れ方訓令

本省 1月10日發

貴官ハ王部長ニ面会シ左ノ通り口頭ヲ以テ申入レラレ度

243 昭和5年1月10日 常原外務大臣より
在上海重光總領事宛（電報）

「在支公使ノ後任トシテ小幡大使ノ「アグレマン」ヲ求メ置キタルモ未タ国民政府ノ同意ヲ得サル処右ハ支那側ノ誤解ニ基クモノニシテ帝國政府トシテハ何レ事態判明ノ時期アルコトヲ確信スル次第ナルモ一方條約改訂問題其他日支兩國間ニハ種々急交渉ヲ要スル懸案アリテ此併ニ放置シ置クコトハ日支國交ノ大局上好マンカラスト思考スルカ故ニ帝國政府ニ於テハ「アグレマン」問題ト切放シ此際重光參事官ニ代理公使ヲ命シ全權ヲ附与シテ條約改訂問題等交渉ノ任ニ当ラシムルコトトシタリ」

付記 一月十一日付通商局作成
「日本國及支那國間開稅條約案」

第四号

241 昭和5年1月(6)日 在上海重光總領事より
常原外務大臣宛（電報）

中国国定税率導入の延期に努力すべく本省で

詮議方意見具申

上海

發

本省 1月6日後着

第六号 貴電第一八号ニ関シ

御承知ノ通我方ニ於テ條約改正ノ進捗ヲ計リタル所以ノ一ハ支那側ニ於ケル必至ノ勢タル閑稅自主ノ實行前ニ閑稅問題ニ關スル事態ノ調整ヲ爲サントスルニアリシ義ナルモ其ノ後彼我ノ間ニ種々ノ偶發ノ事故發生シタル結果條約ノ交渉モ豫期ノ如キ進捗ヲ見シテ今日ニ至レル次第ナルヲ以テ本問題ニ關スル支那側ノ意嚮ニシテ果シテ客年貴電第一

四六九号宋子文ノ大村ニ對スル内話ノ通ナリトセハ我方トシテハ彼我ノ間ニ本問題ニ關シ更ニ事態ノ紛糾ヲ重ヌルヲ避クル意味ニ於テモ此際急速ニ兩國間ニ閑稅ニ關スル暫行取極乃至正式條約ヲ締結スル「望マシキ義ト思考シ居リ之力爲ニハ條約改正ニ對スル我方從來ノ立場ト他方國民政府ノ内外ニ對スル立場トヲ調和スヘキ妥協點ヲ發見スル」ニ付テモ好意的考慮ヲ惜ムモノニアラス尚本件解決ニ關スル我方具体案ハ先ツ支那側ノ意嚮モ承知シタル上追テ申進スヘキモ差當リノ我方考案ハ別電第七号ノ通リナルニ付委細右ニテ御承知ノ上貴官ニ於テ至急王正廷ト會見セラレ新

右ニ依リ正式閑稅條約締結スルヲ得ハ最モ好都合ナルヘキモ右困難ナルニ於テハ豫テ支那側ノ解決ヲ希望セラルル輸出附加税問題ヲモ併セ何等カノ暫定的取極ヲ締結スルモ差支ナキ旨ヲ述ヘ王ヲシテ本件取極交渉開始方ニ同意セシムル様御交渉アリ度結果至急電報アリタシ右交渉ノ前後ニ於テ從来ノ關係モアルニ付宋子文ヲ利用セラルルモ一策ナルヘク其辺ノ裁量ハ貴官ニ一任シ置キタン

尚本件交渉ハ双方極秘裡ニ行フコト交渉進捗ノ爲必要ナルニ付右交渉ノ当初ヨリ確約シ置カレ度又二月一日迄ニハ取極ノ成立到底不可能ナルヘキモ當方ニ於テモ極力交渉ノ促

進ニ努力シ交渉開始後可成短日月ノ中ニ解決シタキ意嚮ナルニ依リ貴官御來示ノ通取極成立迄ハ新税率ノ公布実施ヲ延期セシムル「ト致度右延期ハ支那側ニ於ケル内部ノ新税率制定準備整ハサルコト等ヲ理由トシテ國內ニ説明ノ途モアルヘキニ付此點併セテ適當ノ時機ニ御申入レ相成先方ヲシテ右応諾セシムル様御配慮アリ度シ

(別電)

本省 1月10日後7時30分発

第七号

往電第六号ニ關シ

閑稅問題ニ付支那側ト交渉開始ノ場合考慮スヘキ主要事項ハ(1)輸出入税率ニ關スル自主権ノ承認及最惠待遇(2)輸入税率ノ互恵協定(3)陸境閑稅ノ廢止前ニ於ケル短期間据置及(4)輸出入品ニ對スル内地通過稅ノ免除問題等ナル處我方トシテハ今次ノ交渉ニ於テ前記諸問題ヲ包含スル正式ノ閑稅條約ヲ締結シ追テ通商條約成立ノ上ハ之ヲ其ノ一部ト看做スコトトルモ差支無キ意嚮ナルガ前記諸問題中難交渉ヲ豫期セラルルハ互恵協約ナル見込ニシテ右ニ付テハ客年貴電

税率実施ニ對スル先方ノ意嚮ヲ突止メラルルト共ニ我方ハ條約改正ノ交渉スラ未タ進行セナル此際支那側ニ於テ一方のニ客年一月ノ閑稅協定ヲ破壊スルカ如キ措置ヲ強テ行フニ於テハ日支間ニ本問題ニ付紛糾ヲ重ネ彼我國交上何等裨益スル所ナカルヘキコトヲ説キテ先方ノ注意ヲ喚起セラレ更ニ閑稅問題ニ付テハ支那側ノ立場モ諒トセラルニ付支那側ニ於テ我方ノ立場及主張ニ付適當ノ考慮ヲ拂フニ於テハ我方モ日支國交ノ大局ヨリ此際直チニ交渉ヲ開始スルニ躊躇スルモノニアラス

右ニ依リ正式閑稅條約締結スルヲ得ハ最モ好都合ナルヘキモ右困難ナルニ於テハ豫テ支那側ノ解決ヲ希望セラルル輸出附加税問題ヲモ併セ何等カノ暫定的取極ヲ締結スルモ差支ナキ旨ヲ述ヘ王ヲシテ本件取極交渉開始方ニ同意セシムル様御交渉アリ度結果至急電報アリタシ右交渉ノ前後ニ於テ從来ノ關係モアルニ付宋子文ヲ利用セラルルモ一策ナルヘク其辺ノ裁量ハ貴官ニ一任シ置キタン

尚本件交渉ハ双方極秘裡ニ行フコト交渉進捗ノ爲必要ナルニ付右交渉ノ当初ヨリ確約シ置カレ度又二月一日迄ニハ取極ノ成立到底不可能ナルヘキモ當方ニ於テモ極力交渉ノ促

第一二一九号王正廷ハ經濟的利益ヲ日本ニ與フル代償トンテ支那ハ政治的ニ日本ノ援助ヲ受クルコトヲ要スル旨ヲ述ヘ居ル次第モアリ自然先方トシテハ前記互恵協定等ノ問題ニ關聯シ法權其他諸問題ノ併行解決ヲ希望スベシト思考セラルルモ如此一般的條約ノ成立ハ自然相當ノ時日ヲ要スル「明カニシテ之ニヨリ財政上焦眉ノ急ヲ救ハントスル閑稅引上問題ヲ速決セントスルコトハ支那側自身ニトリテモ不得策ナルヘク殊ニ我方トシテハ交渉ノ模様如何ニ依リテハ客年一月ノ取極ノ如ク自主権問題ニ觸レス當面ノ問題ヲ解決スル趣旨ニ於テ公文交換ニ依リ特殊事項ノミヲ解決スルカ又ハ支那側ノ出様ニ依リテハ自主権承認問題ヲ此際簡單ニ解説スル趣旨ニ於テ互恵税率協定問題ハ之ヲ後日ノ商議ニ譲リ我方ヨリ自主権ヲ承認シ之ニ對シ支那側ヨリ豫メ我方ノ内諾ヲ得タル新國定税率ノ実施ヲ通告スルト共ニ特定品目ニ對シテハ可成現行税率程度ノ税率ノ一定期間又ハ税率協定成立ニ至ル迄ノ据置方ヲ約スル公文ヲ交換スル等本件速決ノ爲出來得ル限り妥協的考量ヲ加ヘ度目下考案中ナルガ今回ノ事態ハ客年新税率承認當時ト異ナリ我國ノミ独リ之ガ解決ニ当ル等ノ事由モアリ前記孰レノ方法ニ依ルモ

支那側ノ同意ヲ得ルニハ相當努力ヲ要スヘキモ他方關稅問題解決ニ關スル我方々針ハ往年關稅會議當時ヨリハ一步ヲ譲リ自主權承認ニ付多クノ條件ヲ附セサルニアリ今次ノ關稅交渉ニ於ケル唯一ノ重要問題トモ云フヘキ稅率協定ニ付テハ關稅會議當時之力締結ニ關スル王正廷芳沢公使間公文往復ノ次第モアリ支那側トシテモ之ヲ否定スヘキ筋合ニ非サルノミナラス我方ノ希望スル處ハ單ニ特定ノ対支輸出品目ニ對スル現行稅率程度ノ据置ニ在リテ強テ其ノ引下ヲ要求スルモノニ非ス又要求品目ニ付テモ出來得ル限り削減ヲ容認スル用意アリ他方本邦輸入支那品ニ對シテハ成ル可ク多数品目ニ付稅率ノ措置乃至其引下ヲ認メムトスルモノニシテ如此ハ我内地產業ニトリ最モ困難トスル所ナルニモ不拘支那ノ稅率据置ノ代償トシテ難キヲ忍ンテ爲スモノナレバ王正廷等ノ所謂互惠協定力支那側ニトリテ何等利益ナシトノ言ハ事實ヲ明確ニ諒解セサルモノト云フノ外ナシ尚記陸境關稅問題ニ付テモ我方ハ單ニ現行制度ヲ短期間据置キ右期間後ハ之カ廢止ヲ認メ差支無ク更ニ厘金及類似内地稅ノ免除ニ付テハ支那側ニ於テ從來屢々同稅ノ廢止ヲ聲明シ居ル關係アリ何レモ其ノ解決ハ必シモ至難ニ非サルノ

多數品目ニ付稅率ノ措置乃至其引下ヲ認メムトスルモノニシテ如此ハ我内地產業ニトリ最モ困難トスル所ナルニモ不拘支那ノ稅率据置ノ代償トシテ難キヲ忍ンテ爲スモノナレ

支那側ノ同意ヲ得ルニハ相當努力ヲ要スヘキモ他方關稅問題解決ニ關スル我方々針ハ往年關稅會議當時ヨリハ一步ヲ譲リ自主權承認ニ付多クノ條件ヲ附セサルニアリ今次ノ關稅交渉ニ於ケル唯一ノ重要問題トモ云フヘキ稅率協定ニ付テハ關稅會議當時之力締結ニ關スル王正廷芳沢公使間公文往復ノ次第モアリ支那側トシテモ之ヲ否定スヘキ筋合ニ非サルノミナラス我方ノ希望スル處ハ單ニ特定ノ対支輸出品目ニ對スル現行稅率程度ノ据置ニ在リテ強テ其ノ引下ヲ要求スルモノニ非ス又要求品目ニ付テモ出來得ル限り削減ヲ容認スル用意アリ他方本邦輸入支那品ニ對シテハ成ル可ク多数品目ニ付稅率ノ措置乃至其引下ヲ認メムトスルモノニシテ如此ハ我内地產業ニトリ最モ困難トスル所ナルニモ不拘支那ノ稅率据置ノ代償トシテ難キヲ忍ンテ爲スモノナレ

(付 記)

*昭和五年一月十一日

日本國及支那國間關稅條約案

通商局

前文

第一條 関稅自主權ノ承認及輸出稅ノ廢止

第二條 協定稅率

第三條 輸出入品ニ對スル通過稅免除

第四條 國境貿易

第五條 関稅ニ關スル最惠國及內國待遇

第六條 本條約ノ用語

第七條 本條約ト新通商條約トノ關係

第八條 本條約ノ批准及實施期間

(稅率協定ニ關スル交換公文案)

同 乙号 (釐金其他通過稅廢止ニ關スル交換公文案)

日本國及支那國間關稅條約案

日本國皇帝陛下及支那共和國々民政府主席ハ幸ニ兩國間ニ存在スル良好ノ關係ヲ鞏固ナラシメ及其ノ通商關係ヲ容易ナラシメ且之ヲ拡張セムコトヲ欲シ是等ノ目的ノ爲ニ條件ヲ締結スル「ニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委負ヲ任命セリ日本國皇帝陛下

- • • • •

日本國及支那國間關稅條約案

日本國皇帝陛下及支那共和國々民政府主席ハ幸ニ兩國間ニ存在スル良好ノ關係ヲ鞏固ナラシメ及其ノ通商關係ヲ容易ナラシメ且之ヲ拡張セムコトヲ欲シ是等ノ目的ノ爲ニ條件ヲ締結スル「ニ決シ左ノ如ク各其ノ全權委負ヲ任命セリ日本國皇帝陛下

- • • • •

支那共和國々民政府主席

ミナラス前記我方考案ノ示スカ如ク此際強ヒテ一挙ニ全部ノ解決ヲ行ハントスルニアラス要ハ何等カノ方法ト形式トヲ整へ解決シ得ル程度ニ於テ問題ヲ解決シ以テ支那側ノ一方的措置ヲ阻止シ本件ノ合理的妥結ヲ計ルニ在リ之カ為ニハ我方ハ我方ノ立場ヲ毀損セサル次第ナルニ付貴官ハ前記我方ノ考案ヲ最初ヨリ其専先方ニ提示セラルヘキニ非ルハ勿論ナルモ大体右ノ趣旨ニ依リ本件解決ニ關スル何等カノ端緒ヲ見出ス様支那側ヲ可然説得方精々御尽力アリ度シ北京へ転電セリ南京へ転電アリタシ

支那共和國々民政府主席

關稅ヲ課セラルル「ナカルヘシ

註、本條挿入方ニ付支那側ノ同意ヲ得ル「困難ナル場合

ニハ別紙甲号公文交換ノ形式ニ依リ差支ナシ

第三條（輸出入呂ニ対スル通過税免除）

締約國ノ一方ノ領域内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ハ其ノ何レノ地ヨリ到ルヲ問ハス他ノ一方ノ領域内ニ輸入セラレタル後ニ於テ其ノ通過中課セラルルト发送又ハ最後ノ目的地到着ニ際シ課セラルルトヲ問ハス釐金、内地関稅、沿岸貿易稅其ノ他如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハス一切ノ通過税及同種ノ負擔ヲ課セラルルコトナカルヘシ

締約國ノ一方ノ領域内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニシテ他ノ一方ノ領域ニ輸出セラルヘキモノハ其ノ通過中課セラル

ルト發送又ハ最後ノ積出地ニ於テ課セラルルトヲ問ハス釐金、内地關稅、沿岸貿易稅其ノ他一切ノ通過税及同種ノ負

擔ヲ課セラルルコトナカルヘシ

註 釐金其ノ他内地通過税廢止ニ付テハ別紙乙号公文ヲ

第四條（國境貿易）

兩締約國ハ兩國間陸境ニ依ル輸出入物品ニ關シ支那國ノ領

第七條（本條約ト通商條約トノ関係）

前記第一條乃至第五條ノ規定竝ニ本條約附屬文書ハ兩締約國力成ルヘク速ニ締結スルノ希望ヲ以テ現ニ商議ヲ繼續シツツアル通商航海條約ノ調印セラルルニ至リタル場合ハ右通商航海條約ノ一部トシテ同條約中ニ収容セラルヘキモノ

第六條（本條約ノ用語）

本條約ハ日本語、支那語及英吉利語ヲ以テ正文トス

條文ノ解釈ニ相違アル場合ハ英文ニ依ルヘシ

第八條（本條約ノ批准実施期間）

本條約ハ批准セラルヘク且批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ本條約ハ批准交換ノ後二月ニシテ実施セラルヘク且右実施ノ日ヨリ前條ニ規定スル通商航海條約ノ実施ノ日ニ至ル迄其ノ効力ヲ有スベシ

右証拠トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ

別紙甲号

税率協定ニ關スル交換公文

（往翰案）

以書翰啓上致候陳者本日貴我兩國間ニ調印セラレタル關稅條約ニ關シ本使ハ日本國政府力左記取極ニ同意スル「ヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

支那國政府ハ日本國ノ領域内ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニシテ支那國ノ領域内ニ輸入セラルモノ、中本書翰附屬稅表第一号ニ列記スル物品种ニ對シ一年一月一日実施ノ支那國現行輸入稅率ヲ最高稅率トシテ前記條約実施ノヨリ五年間維持スヘキ「ヲ約ス

右申進旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ^{〔國カ〕}條 敬具

一年一月一日

日本國特命全權公使

外交部長・・・・・閣下

（來翰案）

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ本日貴我兩國間ニ調印セラレタル關稅條約ニ關シ本部長ハ支那國政府力左記取極ニ同意スル「ヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

中略（往翰同様）

右申進旁本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
一年一月一日 外交部長・・・・・閣下

日本國特命全權公使

域内ニ於テ現ニ實施セラルル特惠稅率ノ制度ヲ本條約実施後三年ヲ経テ廢止スヘク且右廢止ニ至ル迄ハ現行制度ヲ維持スヘキコトヲ約ス

第五條（關稅ニ關スル最惠國及内國待遇）

兩締約國ハ互ニ他ノ一方ノ國家、其國民及其ノ國ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニ對シ物品ノ輸出入ニ賦課スル稅、戻稅、通過稅及内地課金竝ニ之ニ關聯スル一切ノ事項ニ關シ自國民及自國ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニ、又ハ他ノ如何ナル國家へ其ノ國民及其ノ國ノ生産又ハ製造ニ係ル物品ニ付与スル待遇ニ比スルモ差別的トナラサル待遇ヲ付与スヘキコトヲ約ス

別紙乙号

釐金其ノ他通過税廢止ニ関スル交換公文案
(往翰案)

以書翰啓上致候陳者本日貴我両國間ニ調印セラレタル關稅條約第四條ニ關シ
爲ニハ貴國領域内ニ転運セラルル物品ニ對スル負擔ヲ成ル可ク輕クスル
実施ノ貴國輸入税率ニ關連シ貴國政府ガ同年一月十八日附閣下發堀臨時代理公使宛公文中ニ於テ右新税率実施後二年
以内ニ釐金廢止ノ意図アル旨陳述セラレタルコトニ對シ閣下ノ御注意ヲ喚起致候尚本使ハ此機會ニ於テ閣下ガ貴國政府ハ釐金ノ外常關稅、沿岸貿易稅及之ト類似ノ一切ノ内地通過税ヲモ成ルベク速力ニ廢止ノ意図ナル旨貴國政府ノ為確認セラレントヲ希望致候

右申進旁本使ハ茲ニ重ね閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
一年一月一日

外交部長 ・・・ 閣下

日本帝國特命全權公使

一年一月一日

要ノ措置ヲトルベキコトハ國民政府ノ意図ナル旨ヲ確認スルノ光榮ヲ有シ候
右回答申進旁本部長ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬具

一年一月一日 外交部長 ・・・

日本國特命全權公使 ・・・ 閣下

244 昭和5年1月11日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

重光の臨時代理公使就任につき王外交部長満足の意表明について

南京 1月11日後発
本省 1月12日後着

第三三號(極秘)
貴電第四號ニ關シ
十一日本官王部長ニ面會シ右貴電御訓令ノ次第ヲ申入レタ
ル處王ハ右案ハ自分ノ最満足スル所ニシテ殊ニ日本政府力

重光參事官ヲ特ニ代理公使トシテ條約改訂交渉ノ爲ニ全權ヲ附與セラレタルニ付テハ感謝ニ堪ヘス小幡大使ノ問題ハ實

(來翰案)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成
リ敬承致候

本日貴我両國間ニ調印セラレタル關稅條約第四條ニ關シ
本使ハ両國間經濟關係ノ增進發達ヲ計ル為ニハ貴國領域内ニ転達セラルル物品ニ對スル負擔ヲ成ルヘク輕クスル
「必要ナリトノ見地ニ基キ昭和四年二月一日実施ノ貴國輸入税率ニ關聯シ貴國政府カ同年一月十八日附閣下發堀臨時代理公使宛公文中ニ於テ右新税率実施後二年以内ニ釐金廢止ノ意図アル旨陳述セラレタルコトニ對シ閣下ノ御注意ヲ喚起致候尚本使ハ此機會ニ於テ閣下ガ貴國政府ハ右釐金ノ外常關稅、沿岸貿易稅及之ト類似ノ一切ノ内地通過税ヲモ成ルベク速ニ廢止ノ意図ナル旨貴國政府ノ為確認セラレントヲ希望致候

本部長ハ國民政府ガ中華民國十八年一月十八日附閣下發堀臨時代理公使宛本部長拙翰中ニ掲ゲタル新税率実施後二年以内ニ釐金廢止ノ意図ナル旨ノ陳述ヲ茲ニ再び確認スルト共ニ閣下ノ御要求通り前記釐金ノ外常關稅、沿岸貿易稅其ノ他之ト類似ノ一切ノ内地通過税ヲモ成ルベク速ニ廢止スル爲必

ニ不幸ナル出來事ニテ自分モ之力善後策ニ腐心シ居ル次第ナルカ愈重光代理公使トノ間ニ條約改訂交渉ヲ開始スルコトトナラハ自分ハ其ノ間にテ大使交換問題ノ話ヲ進メ大使ノ交換ト云フ事ニ依リ本件ノ片ヲ附ケン意向ナリ云々ト述へ更ニ談話ヲ交ヘタルカ本官辭去ニ當リ王ハ吳々モ幣原大臣ニ對シ自分ノ満足シ居ル次第ヲ御傳ヘアリタキ旨繰返シ述ヘタリ
上海ニ轉電セリ

245 昭和5年1月14日 在上海重光總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長との会談に際し關稅問題以外の懸
案につき我が方意向回示方請訓

上海 癸 本省 1月14日後着

第五五號

關稅問題ニ付テハ幸ヒ宋子文トノ間ニ内交渉ヲ進メ得ル「ヲナルモ王正廷ハ必スヤ條約全体ノ問題ニ付交渉セム」ヲ

主張スヘク殊ニ王ハ目下法權撤廢問題ノ解決ヲ急キ居ルニ
依リ最近ノ機会ニ於テ所謂法權撤廢ニ關スル具体的「プラ
ン」ヲ内示シ我方ノ意図ヲ微セントスルヤモ計ラレズ
本官トシテハ素ヨリ關稅問題ノ解決ヲ計ランコトヲ主張ス
ヘキモ條約問題ニ關シ右ハ支那側ヨリ既ニ草案ノ提出アル
等從来ノ關係モアリ強ヒテ關稅問題丈ヶヲ引離シ交渉ヲ進
メ難キ事情モアルニ依リ關稅以外ノ問題ニ付テモ至急何分
ノ御意図御回示相成様致シタシ

南京へ転電セリ

246 昭和5年1月15日 币原外務大臣より
在上海重光總領事宛（電報）

銀價下落の際の關稅率引上は中國にとり不得

策との本省側見解について

本省 1月15日発

第一八號 貴電第五六號ニ關シ

支那側ハ銀價暴落ヲ關稅引上ノ重大理由トナシ居ル模様ナ
ルガ御承知ノ通り銀價下落ハ目下ノ大勢ニシテ當分恢復ノ

見込薄ク銀下落ノ爲物價騰貴シ支那國民ノ購買力著ク減退
スルモノト思考スル處此際關稅ヲ引上クルコトハ益々國民
ノ負担ヲ増加シ一層購買力ヲ減殺スル所以ニシテ其結果貿
易減少シ關稅收入モ到底豫期ノ金額ニ達セサルヘク從テ銀
價暴落ノ今日關稅ノ一律引上特ニ必要品ニ對スル關稅ノ引
上ハ支那ニ取り不得策ト云フヘク此点ハ稅率交渉上支那ニ
対シ主トシテ必需品ヲ供給スル本邦側ノ強味ナリト思考セ
ラル

右ハ交渉上ノ御参考迄

南京へ轉電アリ度シ

247 昭和5年1月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

銀價暴落対策のため国民政府は海關金單位制

導入の旨明令發布について

別電一 大臣宛第五三號

海關金單位制を二月一日より実施との國民
政府明令

二 一月十六日着在南京上村領事より幣原外務
大臣宛第五四號

海關金單位制に関する總稅務司への中國財
政部訓令

南京 1月16日後発

本省 1月16日後着

南京 1月16日前発

本省 1月16日後着

第五三號（至急）

近日金價暴騰銀價低落シ金融ニ影響スル處甚シク殊ニ外債
償還ニ關シ損失ヲ被ムルコト測リ難キニ付至急法ヲ設ケテ
救濟スヘシ總テ海關輸入稅ハ一律ニ金建ニ改メ六〇、一八
六六厘ノ純金ヲ單位トスル計算標準ヲ作リ財政部ヨリ辦法
ヲ講シ海關ヲシテ本年二月一日ヨリ實行セシム

（別電二）

南京 1月16日後発

本省 1月16日後着

第五四號（至急）

十五日ノ政治會議ニ於テ財政部長ヨリ（一）銀價低落救濟辦法
(二)海關稅收金建採用實行案ヲ又工商部長ヨリ上海金業交易
所金塊騰貴取締具體案ヲ提出シ原則ヲ通過シタル後財政經
濟、外交三組ノ聯合審查ニ附シ右審查ノ結果即日國民政府
ハ大要別電第五三號ノ明令ヲ公布シ又財政部ハ總稅務司ニ
對シ別電第五四號ノ訓令ヲ發シタル外工商部ハ駐滬辦事處
ヲシテ上海金業交易所ニ對シ警告セシメタル趣ナリ
別電第五三號及第五四號ト共ニ支、上海、奉天、天津、青
島、濟南漢口、廣東、福州へ轉電セリ

（別電二）

南京 1月16日後発

本省 1月16日後着

第五四號（至急）

（別電一）

近日金價暴騰銀價低落シタル爲本年償還スヘキ海關擔保ノ
外債ハ支拂ニ不足スル虞アリ依テ根本的救濟辦法ヲ講スヘ
ク既ニ政府ニ於テ二月一日ヨリ海關輸入稅ハ一律ニ海關金
單位ノ計算ニ改メ徵收スル事ニ決定セリ政府ノ規定セル海
關金單位六〇、一八六六厘ノ純金ハ米貨四十仙、英貨十九片
七二六五、日本金八十錢二五ニ等シク二月一日ヨリ三月十

五日ニ至ル輸入税ハ關平銀一兩ニ對シ海關金單位一、五トシ（十八年末三個月ノ平均爲替相場規銀一兩ハニ志二片半ニ相當ス）三月十六日以降ハ關平銀一兩ヲ海關金單位一、七五トス（十八年一月ノ平均爲替相場、規銀一兩ハニ志七片ニ相當ス）但銀元銀兩及其ノ他流通ノ銀紙幣ハ引續キ納稅ニ使用スル事ヲ許シ之ト海關金單位トノ割合ハ總稅務司ニ於テ隨時三日以前ニ公布スヘシ

248 昭和5年1月16日 在上海重光總領事より
常原外務大臣宛（電報）

海關金單位制導入による对中国貿易への影響

につき横竹商務參事官報告

第六二號 横竹商務參事官ヨリ
（一）今回國民政府ノ發表セル輸入税海關金弗徵收ニ付輸入稅ニ關シ從量稅ノ稅率換算基礎ハ二月一日以後ノ分ハ日本向電信爲替約九十二兩半ニ當リ成行爲替相場九十八兩ト

シ現在稅率ニ較ヘ六「パーセント」增加又三月十六日以後ハ同シク七十九兩三錢ヨリ二三「パーセント」增加即チ夫々不利トナリ次ニ現行七種稅率ノ基礎タル一九二二年改訂ノ際ニ溯リ當時採用セル市價ノ平均爲替六十三兩四錢トシ夫ヨリ起算セハ二月一日以後ハ當時ニ較ヘ三二「パーセント」減少又三月十六日以後ハ二〇「パーセント」夫々減少即チ有利トナル見込ナリ

（二）更ニ支那輸入總額ニ對スル客年二月以後實行ノ輸入稅推定率ヲ見レハ平均從價八分五厘見當トナルニ付本年二月一日以後ハ平均約九分又三月十六日以後約一割〇分五厘見當トナルモノニシテ其レ丈我力商品ノ負擔增加セラル次第ナリ

（三）以上ノ如ク金單位制實行ニ依リ商品ノ負擔率ハ我對支貿易ヲ脅カス程度ニ大ナルモノ來ラスト考ヘラルモ關係當業者トシテハ從來海關兩ト上海兩並ニ弗ノ換算率大體一定セルニ反シ今後ハ時々海關ノ發表スル金單位ニ對スル銀價換算率ニ依リ納稅スルコトナル次第ニ付爲替ノ變動ト共ニ銀價變動スル爲輸入稅額ニ對スル爲替變動ノ危險ヲモ見込ム必要アリ即チ支那政府ノ外債支拂ニ對スル次第ナリ

王正廷が關稅問題は困難にあらず現行稅率を急激に変更する意向なく釐金の廢止方も講じつゝありと述べたことについて

上海 1月16日後発
本省 1月16日後着

（一）條約問題
其ノ中ノ最モ重要ナル三項目トシテ（イ）關稅問題（ロ）法權問題（ハ）沿岸貿易ノ問題

（二）團匪賠償金ノ問題
（三）損害賠償關係ノ問題即チ（イ）濟南事件（ロ）南京事件（ハ）漢口事件

（四）右海關金弗制ノ實行ハ實際銀價ノ暴落防止ニハ直接影響少ク寧ロ反對ノ結果ヲ招クコトナルヤモ知レス現ニ本日ノ當地爲替ニ金塊市場ハ案外平靜ナリ尤モ海關兩及兩ハ次第ニ廢止セラレ弗價統一ヲ促シ全體トシテ一時的多少トモ支那ノ銀需要ハ刺戟セラレ幾分ノ好影響ハアルヘシ

（五）尙海關兩廢止ノ曉我支那會社法ニ規定セル資本ノ海關兩極メハ此ノ際修正ノ要アラム

（四）右海關金弗制ノ實行ハ實際銀價ノ暴落防止ニハ直接影響少ク寧ロ反對ノ結果ヲ招クコトナルヤモ知レス現ニ本日ノ當地爲替ニ金塊市場ハ案外平靜ナリ尤モ海關兩及兩ハ次第ニ廢止セラレ弗價統一ヲ促シ全體トシテ一時的多少トモ支那ノ銀需要ハ刺戟セラレ幾分ノ好影響ハアルヘシ

（五）尙海關兩廢止ノ曉我支那會社法ニ規定セル資本ノ海關兩極メハ此ノ際修正ノ要アラム

（一）條約問題
其ノ中ノ最モ重要ナル三項目トシテ（イ）關稅問題（ロ）法權問題（ハ）沿岸貿易ノ問題

（二）團匪賠償金ノ問題
（三）損害賠償關係ノ問題即チ（イ）濟南事件（ロ）南京事件（ハ）漢口事件

249 昭和5年1月16日 在上海重光臨時代理公使より
常原外務大臣宛（電報）

南京にて臨時代理公使就任挨拶と共に懸案交渉の分離個別の解決方協議について

別電 一月十六日發在中国重光臨時代理公使より
常原外務大臣宛公第八号

ノ各項目アリトテ各項目ニ付別ニ電報スルカ如キ本官トノ

応答ヲ為シタル力更ニ租界問題ニ付テモ王ヨリ別電ノ如キ
説明ヲ為シタリ

此等諸項目ニ對スル応答ノ始メニ於テ本官ハ凡テノ交渉ハ

極メテ「ビジネスライク」ニ進行スルノ必要ヲ説キ先方ノ

賛意ヲ得タルカ前記各項ノ説明アリタル後ニ於テ本官ヨリ

此趣旨ヲ以テ各項目中重キヲ要スルモノヨリ結末ヲ付クル

コトトシ片ノ付キタルモノヨリ先ツ効力ヲ發生セシメ必要

アルニ於テハ最後ニ此等ヲ集メテ完全ナル条約ノ形式トス

ルモ一案ナラスヤト述ヘ例ヘハ開税ノ問題ノ如キハ貴方モ

急キ居ル次第ニ付此等ヨリ着手シ然ル可キ旨述ヘタルニ王

部長モ至極賛成ナリト述ヘ居タリ

尚又本官ヨリ交渉ノ成功ヲ期スル為ニハ交渉進行ノ模様ハ

外部ニ對シテハ極秘裡ニ行フ必要アリ外部ニ発表スル場合

ハ双方同意シタルモノ以外ハ發表セサルヲ要ス殊ニ會議ノ

進行ニ関スル無責任ナル新聞報道ニ依リ空氣ヲ害セサル必

要アリト述ヘタルニ王モ交渉ヲ極秘裡ニ行フコトハ全然同

感ナリ此ノ點ニ付テハ自分ハ日支ノ關係ノ為之迄共細心ノ

努力ヲ費シ居ル積リナリ例ヘハ日本力満洲方面ニ於テ輸出

附加税ヲ阻止シ居ルコトハ可成リ排日宣傳ノ材料トシテ用

ヒラレ兼ネ間敷キ理ナルモ自分ハ努メテ其ノ眞相ヲ秘シ居
ル次第ナリト云ヒ居タリ次テ宋財政部長ト別電ノ通リ話ヲ
為シタリ

本官林出ト共ニ土曜日朝上海ニ著更ニ王部長ト上海ニテ面
会シ又月曜日ニハ再ヒ宋財政部長ト会談ノ豫定ナリ

(別電)

公第八号 極秘

往電公第七号ニ閲シ

王正廷ハ列挙セル項目ノ第一條約問題中ノ關稅問題ハ餘り
困難ナル問題ニ非スト思考ス支那側ニテハ通商貿易ノ經
済上ノ關係ヲ十分研究シ頗ル穩和ナル意見ヲ有スル次第
ニテ極メテ些少ノ変更ハ別トシ現行稅率ヲ急激ニ変更ス
ルガ如キ意向無シ(二子分アキ)此點ハ特ニ日支ノ貿易ニ鑑ミ好都合
ナリト思考ス

尚釐金モ全國ニ亘リ撤廢スル方法ヲ講シツツアリ

ト述ベタルニ依リ

本官ハ

國民政府ニ於テ之等重要ナル經濟貿易ノ問題ニ付穩和ナ
ト述ベタルニ依リ

編注 本文書は憲政記念館所蔵『重光葵關係文書』より採
録した。

250 昭和5年1月17日 在中国重光臨時代理公使より
支間ノ空氣ヲ良クスル上ニ好結果アルベシ(二子分アキ)就テハ貴方
ニ於テハ右現行稅率ヲ变更セズトノ「アシユアランス」

ヲ我方ニ與フルノ方法ヲ御考置アリ度シ(二子分アキ)尚自分ノ最近

ノ前途の見通し良好と觀察について

南京 発

本省 1月17日前着

公第一四号

十六日南京ニ於ケル外交財政兩局長トノ會見ニ於テハ貴電

第六号及第七号ノ御趣旨ニ從ヒ我方ノ意嚮ヲ述ヘルヨリモ
(濟南事件等ノ賠償關係諸問題ハ別)先方ノ意向ヲ探査ス

ルニ重キヲ置キ且開稅問題ニ付テハ之ヲ引離シ速ニ解決ス
ヘク仕向クル様努力シタル次第ニテ此ノ點ニ付テハ果シテ

所期ノ結果ヲ得ルヤ否ヤハ尚今後ノ發展ヲ待ツノ要アルモ
モ大体ニ於テ見込ナキニ非スト考ヘラル全体ノ空氣モ大体

ニ於テ良好ト認メラレ支那側モ條約交渉ヲ急キ居ルニ依リ

ト述ベタルニ

王ハ

其ノ點ニ付テハ考究スベキモ何レニスルモ關稅ノ點ニ付

テハ支那側ニ於テ「ラディカル」ノ意嚮無シ

トノ趣旨ヲ繰返シ述ベタリ

本官ハ勉メテ稅率互惠協定ノ語ヲ避ケ事實上出来得ル丈ノ
税率ノ協定ニ導ク様努メ置キタリ

税率ノ協定ニ導ク様努メ置キタリ

此ノ機ニ前記貴電ノ趣旨ニ依リ関税問題ニ関シ具体的ニ話
ヲ進ムコトト致シタシ

北平へ転電セリ

251 昭和5年1月17日

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関税率について現行税率を大幅に変更しない
旨等宋部長談話について

南京 1月17日前着 発

公第一五号

王ト会見後約ニ依リ宋財政部長ト会見シタルカ宋ハ関税問題ニ先ツ釐金ノ問題ニ付テハ昨日中央政治會議ヨリ財政部長宛命令ニヨリ十月十日双十節ヲ期シ撤廢スル様準備スヘシトノ命令ヲ受ケ着々其ノ方ニ向ケテ準備シ居レリト述ヘタルニ依リ本官ハ右ハ至極結構ナルカ之ニ対スル「アソシュアランス」ヲ得ル方法アリヤト述ヘタルニ宋ハ何力考ヘ見ルヘシト答ヘ本官ハ進ムテ現行税率ヲ変ヘル氣アリヤト尋ネタルニ其ノ「ナカルヘキ旨ノ返答ナリシニ付本官

ハ若シ現行税率ヲ余リ変ヘル意思ナキニ於テハ日本貿易業者ノ空氣モ良クナル訳ナルカ他方我々ノ調ニ依レハ支那ノ日本ニ對スル輸出モ鮮カラサル現状ニ付相互ニ必要ナル品目ニ付税率ヲ或程度迄現状維持トセハ好都合ナラムト述ヘタルニ宋ハ夫レモ出来ヌ「アルマジ一体如何ナル品目ニ依リ本官ハ早速調査スヘシト述ヘ置キタリ次ニ本官ハ陸境関稅ニ付佛トノ關係ハ實際如何ニナリ居ルヤト尋ネタルニ宋ハ豫告期間ノ問題アル様ナリト答ヘタルニ付本官モ本件ハ地方的影響モアリ少クトモ充分ノ豫告期間ヲ要スト考ヘラルト述ヘ深入リヲ避ケタリ尚宋ハ輸出稅ハ之ヲ統一シタク自分ノ考ニテハ輸出稅ハ支那貿易關係ヨリ言フモ出来ル丈少クスル方好マシキ次第ナレハ今後モ現実五分以上ニハ決シテ出テサル様シタシ然シ現在ノ如ク本稅ニ附加稅ヲ附加スルガ如キコトヲセス「フラット・タックス」トシ而モ現在ノ本稅ニ附加稅ヲ附加セルモノト余リ差ナキ様ニシタキ考ナリ何レニスルモ急ニ多額ノ増額ヲ為スカ如キ意嚮ナシト述ヘタリ本官ハ更ニ日本トノ相談前ニ税率ヲ変更スル力如キコトナカルベシト念ヲ押シタルニ宋部長ハ日本トノ話

ヲ付ケ總テノ問題ニ進ミタキコトハ自分モ希望スル処ナリ尤モ輸入稅金貨標準ノ問題ハ自ラ別問題ニシテ既ニ決定セリトテ追電ノ如キ説明アリタリ、
本官ハ更ニ債務整理ノ問題ニ言及シタルニ宋ハ約束ノ五百万元ハ積ミ居ルカ債権者會議ヲ開ク「ハ種々ノ事情ニテ今日迄出来スト答ヘ本官ハ何トカ實際的方法ヲ講シ債権者ニ安心ヲ与フル方法ヲ今後共考ヘテ貴ヒタクサスレハ日本ノ実業家ノ感情ヲ緩和シ好結果ヲ齎ラスヘシト述ヘ置キタリ、
支ヘ転電セリ

252 昭和5年1月17日 帪原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

関税問題を治外法権問題等と分離して交渉方
訓令

本省 1月17日発

我方ノ建前ハ條約問題ノ討議ヲ不取敢關稅問題ヨリ開始シ順ヲ追フテ他ノ一般條約問題ニ入ルニアルト共ニ關稅問題
貴電第五五号ニ関シ
公第一號

南京ニ轉電アリタシ

253 昭和5年1月18日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

濟南事件等の日本側賠償額過大評価に対する

王外交部長抗議および至急解決方意見具申

本省 1月18日後着 上海 発

*
公第一二号

往電公第七号ニ閑シ、

王部長ハ更ニ交渉事項ノ第三ナリトテ賠償問題即チ濟南、南京、漢口ノ三事件調査委員会ノ件ヲ擧ケ濟南事件ノ調査委員ハ支那政府ハ既ニ任命シタルニ拘ラス日本ハ調印以来既ニ半歳ニ及フニ拘ラス解決ノ條項ニアル調査委員スラ未タ任命セラレサル狀況ナリト述ヘ尚南京事件ニ付テモ仕事遅々トシテ進ミ居ラサル狀況ナルカ本件ニ閑スル日本側要求ノ実ニ過大ナルニ驚キ居ル次第ニテ米ヨリモ亦南京ニ多大ノ利害ヲ有スル英ヨリモ提出額大ナリ而カモ個人要求ノ内容ヲ見ルニ殆ント要求額ヲ立證スル証拠ナキ有様ニテ而

モ日本委員ノ態度ハ多少此ノ要求額ヲ弁護スル弁護士ノ立場ニ立チ「ジヤツヂ」ノ立場ニ立タス英國ノ委員ノ如キハ各個人ノ提出セルモノヲ充分ニ審査シ削減シテ支那側ニ提出セルカ日本委員ハ單ニ要求額ヲ取次キテ之ヲ辯護シ居ルヲ常ニ聞キ居レリ一体如何ナル額カ適當ナル賠償額ナルヤハ日支ノ「ジョイント・コンミッショソ」ニテ定メル訳ニテ其ノ額カ適當ナリヤ否ヤニ付テ共同ニ調査決定スヘキ性質ノモノナラスヤ然ルニ支那側委員ハ誠意ヲ以テ共同調査ヲ進メル態度ニ出テスシテ何等具体的ノ意見ヲ述ヘス單ニ外交部ニ取次キ居ル狀況ナリト聞ク

一体証拠アリヤ否ヤヲ深ク糺明シ證據ナキモノハ取上ケサル様訓令シタリトノ御話ナルカ之ハ行過キタルニ非スヤ例へハ南京ニモ店ヲ持チ上海ノ租界ニモ店ヲ有スル一ノ会社アリ南京ノ「ビジネス」ニ付上海ニモ「レコード」アル場合ニハ(英ノ如キハ大体然リ)或ハ南京ニ於ケル損害ニ就テ證據出来ルヤモ知レス併シ南京丈ニ営業所ヲ持チ其ノ店力全部掠奪サレタル場合如何ニシテ之ヲ舉證シ得ルヤ一々

證明セサル(脱?)建前ハ調査ノ進行ヲ不可能ナラシムルモノナリ自分ノ考ニ依レハ自ラ物ニハ常識ニ依ル標準アリ誰カ觀テモ之ナラバト云フ標準アルヘシ之ヲ見出ス「共同調査委員ノ仕事ナリ依テ自分ハ日本側委員ヲシテ斯ル標準ヲ見出ス様努力セシムル為委員ニ対シテ訓令スル」ハ承諾シ差支ナキヲ以テ貴方ニ於テモ同様ノ趣旨ニ依リ速ニ本件ヲ解決スル様セラレ度シト述ヘタルニ王部長ハ結局之ニ賛成シ其ノ通ニ取計フヘキ旨述ヘタリ尚ホ亦漢口事件ニモ談及シ本官ヨリ交渉貰ハ無クナリタルカ尚引續キ同一委員ヲシテ仕事ヲ繼續セシメ居レリヤト尋ネタルニ王部長ハ全ク其ノ通リナリト述ヘタルニ依リ漢口ニテモ同様訓令スルコト可然ト述ヘタルニ先方モ承知セリ

更ニ濟南事件ニ閑シテハ本官ハ日本側ニ於テハ委員ヲ任命スル「ハ既ニ規定セラレアレハナリ併シ自分ハ本件ヲ取扱フハ夫レノミニテハ濟マヌコトト思フ即チ委員会ノ仕事ハ如何ナルモノナリヤ考フルヲ要ス右委員会ノ仕事ノ結果ハ互ニ賠償ハ取ラヌニナリ居リ之亦紙ノ上ニ書キアル」御存知ノ通ナリ從テ問題ハ折角解決シテ日支雙方ノ関係カ今日迄改善シ居ル此ノ際而モ過去ノ悲シムヘキ事柄ヲ忘レ

ツツアル今日ニ於テ古瘡ヲ吹キ起スカ如キ處置ヲ執ルコトハ果シテ適當ナリヤ否ヤ即チ爰ニ新ニ委員会ヲ任命スルノ「ウイズドム」如何ノ問題ナリト述ヘタリ之ニ対シ王部長ハ委員会ノ仕事ノ結果ニ就キテハ紙上ニ規定シアリト言ハルモ必シシモ然ラサル可ク其ノ矣ハ尚調査ヲ爲シ見ル餘地アル訳ト思フ実ハ南京事件漢口事件ハ兎ニ角進行シ居ルモ夫レ以前ニ解決セル濟南事件ノ委員スラ任命セラレ居リスト喧シク攻撃セラレ居リ

例へハ悲慘ナル死ヲ遂ゲタル蔡公時ノ夫人ニ泣キ込マレ困リ居レルニ付何トカ委員ノ任命丈ケハシテ戴カサルヲ得ス其ノ代リ委員会ノ仕事ニ付テハ目立タサル様ニシ我々カ良ク解シ得ル結果ニ達スル様嚴重ニ訓令スレハ可ナリト思フト述ヘタルニ依リ本官ハ更ニ委員会ノ仕事ノ結果ニ閑スル我々ノ間ノ取極ハ明々白々ノニテ此種ノ諒解ナクシテハ濟案ハ「デツド・ロツク」ヨリ救ハレサリシコトハ我々カ良ク知リ居ルコトナリ蔡公時遺族ニ対スル同情ハ暫ク別トシ其ノ死ニ対シ今日調査ヲ開始セハ一々古瑕ヲ出スコトトナルモノナリ今更委員ヲ任命シ調査スル如キハ将来幾多ノ交渉問題ヲ進ムルニ当リ輿論煽動者ニ対シテ一ノ材料ヲ與フル

ニ過キスト思フト述ヘタルニ王部長ハ実ハ此ノ問題ハ他ノ大問題ヲ進メテ行ケハ小事件トシテ世間ノ注目ヲ惹カス進行セシメ得ト思フ特ニ支那委員ノ崔ハ濟南問題解決當時ノ事情ヲ良ク知リ居ルニ付都合良ク取計フト思フ自分トシテハ任命ノ是非ノ點ヨリモ任命ノ必要ニ迫ラレ居ル狀況ナリ且亦南京、漢口事件ノ最終的決定モ之ニ懸リ居ル狀況ナリト云ヘルニ依リ

本官ハ右ハ賛成シ得ス總テノ問題ハ「ビジネス、ライク」ニ取扱フ必要アリ或ル事件ヲ他ノ事件ニ関聯セシメ行ケハ限リナシ日本ニモ現ニ領事館掠奪及多数人命ノ慘殺サレタル
璉春事件ノ如キ未タニ解決サレズ之等ヲ皆関聯セシメ行クニ於テハ限リナン一事件毎ニ最善ノ努力ヲ爲シ進捗セシムルヨリ外ニナシ漢口南京ノ両事件ニ付テハ前述ノ通リノ経過ヲ取り進行ヲ計リ濟南事件ニ付テハ雙方更ニヨク研究シテハ如何ト言ヘルニ王部長ハ問島問題モアルヤモ知レサルガ濟南事件ハ南京漢口ト殆ンド同時ニ解決サレ濟南事件ノ委員任命ヲ見ナルニ漢口南京ヲ解決スルハ困難ニテ精神ニ於テ両事件ノ進捗ヲ計ルハ賛成ナルカ自分ノ立場ハ良ク諒解セラレ度ク支那ノ輿論ハ実ハ自分ニ於テモ誤算シタル

漢口へ転電シ南京へ暗送セリ
コトナキ積リナリトテ種々説明ヲ爲シタリ要スルニ先方ニテハ三問題ヲ關聯シテ考ヘ居ルコトハ明カニシテ本官トシテハ南京漢口事件ノ進捗ヲ極力懲諭シ置ケル次第ナルカ或ル時期來レハ濟南問題ニ付テモ委員ノ任命ヲ爲シ之ニ充分嚴重ナル訓令ヲ與ヘ形式的ニ仕事ヲ終ラシムルト言フカ如意措置ヲ執ラサルヲ得サルヤニ至ルヤ^(モ)知レス右ハ將來ノ進行如何ニ依ルモ本省ノ御意向ノ大体ニテモ早目ニ知ラセラレタシ

254 昭和5年1月20日 币原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

中国側に債務整理促進のため債権者會議開催
要求方訓令

本省 1月20日発
*公第二號

今回ノ日支關稅交渉ニ當リ債務整理ニ付テモ支那側ヲシテ何等力具体的の弁法ヲ立テシムルヲ以テ好都合ト思考スル處債務整理ニ付テハ客年一月ノ交換公文以來何等實質的ニ歩

255 昭和5年1月20日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

南京ニ転電アリタシ 北京ニ転電セリ

南京ニ転電アリタシ 北京ニ転電セリ

関稅協定急速妥結のため宋子文と具体的な交渉
に入る旨報告

公第
第二六号（極秘）

往電公第二五号ニ關シ

宋子文ハ我方ニ於テ關稅問題ニ付急速妥結ノ意向ヲ有シ今直ニ具体的の交渉ニ入ル用意アルニ於テハ本件解決上頗ル結構ナリト考ヘ居ル旨突キ止メタルヲ以テ此際直ニ關稅問題ニ付宋トノ間ニ具体的ノ話ヲ進メ後適當ノ機會ニ王正廷ニ對シ正式ニ提案スルコトハ支那側ノ空氣及王ノ心理等ヨリ見テ最モ適當ナリト認メラルニ付本日午後四時宋トノ會見ニ於テハ前記往電ノ通り措置スルト共ニ引続キ（都合好クハ明日位ヨリ）大体ニ於テ堀内携帶ノ條約案文（未定稿）ニ基キ協定品目ハ右附屬稅表第一案ヲ基礎トシテ直ニ宋トノ間ニ具体的ノ交渉ニ入り得ベキ見込ナリ

右ノ如キ方法ハ何人モ氣付カサル位ナレバ本件急速妥結上相成度

頗ル好都合ナリト認メ居ルニ付右ニ對シ御意見アラバ貴電

公第一号前顯關稅條約確定案文ト共ニ大至急何分ノ儀御回

示ヲ請フ

尚本件具体的交渉ノ開始ハ前記ノ事情ニ鑑ミ外部ニ對シ絶

對秘密ト致シ度キニ付右ニ御含置ヲ請フ

南京へ暗送セリ

品目表

三 一月二十一日着在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛公第三一号

四 一月二十一日着在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛公第三二号

基礎項目説明

基礎項目に対する宋部長意見

編注 本文書ハ憲政記念館所蔵『重光葵關係文書』より採
録した。

256 昭和5年1月21日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

關稅問題のみ分離して解決することに日中間
で意見一致の旨報告

別電一 一月二十一日着在中国重光臨時代理公使よ
り幣原外務大臣宛公第二九号

陸境關稅債務整理等關稅協定基礎六項目

二 一月二十一日着在中国重光臨時代理公使よ
り幣原外務大臣宛公第三〇号

公第二八号

上 海 1月21日前發
本 省 1月21日後着

累次往電ニ依リ御承知ノ通關稅問題丈ヲ先ツ解決スル事ニ
付テハ大体ノ地均モ出来支那側特ニ宋子文ハ出来ル丈速ニ
日本側ノ意思表示ヲ待タントスル狀況ニテ此ノ機ヲ逸シテ
ハ支那側ニモ種々故障起ルヘキ事ヲ想像セラレタルヲ以テ
豫テ打合セタル通り本二十日宋部長ニ面会シ具体的ニ話ヲ
進ムル事適當ト認メ特ニ宋ノ私宅ニ於テ午後四時ヨリ一時
間会談セリ

右ハ本官ヨリ十八日王部長ト會見シタル際王モ關稅協定ヲ
先ツ作ル事ニハ贊成ノ模様ナリシカ自分ノ考ニヨレハ先ツ

關稅ニ關スル協定ヲ遂ケ成ルヘク速ニ之ヲ實施シ而シテ後
他ノ問題ニ移リ一ツ一ツ片附ケ行ク事適當ナルヘク尚必要
アラハ之ヲ全体ノ條約ニ籍込ム様スルモ差支ナカルヘシ特
ニ關稅問題ノミヲ分離シ之カ協定ヲ急ク理由ハ種々アリ雙
方共速ニ之ヲ解決シ日支間ニ蟠レル空氣ヲ一新スルノ必要
ナルハ勿論ナルカ又他ノ理由ノ一トシテハ金單位拂制度ノ
問題有之自分ノ研究ニ依レハ實際的方面ハ暫ク別トシ理論
的方面ヨリ言ハハ右ハ明カニ條約違反ニテ特ニ日支間ノ現
状維持ノ約束ニ反スル次第ナリ右ニ對シ日本政府力如何ナ
ル処置ヲ執ル事トナルヘキヤハ未タ訓令無ク自分ニ於テ承
知セサル處ナルカスカル問題モアル事ナレハ速カニ關稅問
題ヲ解決シ兩國間ノ空氣ヲ緩和スル事ハ極メテ必要ノ事ト
思ハルト述ヘタルニ、

宋ハ關稅協定ヲ分離シテ締結ヲ急ク「ニハ全然同感ナリト
答ヘ種々支那側ノ立場ヲ説明シタル後更ニ何カ具体的ノ話
ヲ伺ヒ度シト述ヘタルヲ以テ
本官ハ南京ニ於テ會見ノ節大體貴部長ヨリ伺ヒタル所見即
チ現行税率ヲ甚シク変更スルノ意向ナキコト釐金撤廃ノ用
意アルコト其ノ他陸境關稅、債務整理等ニ關スル事項ヲ基

礎トシテ簡單ナル項目ヲ作製セリトテ別電公第二九号ノ五
項目及別電公第三〇号品目表（但シ本表ハ別電公第二九号
ノ一項説明ノ後ニ先方ノ要求ニ依リ提示セリ）ヲ示シ之ニ
別電公第三一号ノ通説明ヲ加ヘタリ右ニ對シ宋ハ別電公第
三二号ノ如キ意見ヲ當座ノ思付トシテ述ヘ之等ノ所見ニ付
種々意見ヲ交換シタル處宋ハ自分ハ出來ル丈本問題ヲ速ニ
纏メ日支關係好転ノ第一步ニ手ヲ染メタシト思フニ付今夜
南京出發ノ豫定ヲ变更シ話ヲ繼續シタシト述ヘタルヲ以テ
本官モ之ヲ承諾シ明廿一日モ午后四時ヨリ本官々邸ニテ會
見スル「トセリ尙其際本官ハ品目ノ詳細ノ説明ニ付テハ專
門家ヲシテ行ハシムル必要アルヲ述ヘタルカ宋モ亦張福運
ヲ帶同致シタシト述ヘタルニ付之ヲ承諾シ置ケリ又宋ハ自
分等ノ話合ヒハ王正廷丈ニ話スハ差支ナキモ新聞記者其ノ
他ニハ一切秘密トスルコトシ度シト述ヘタルニ依リ本官
ハ其ノ点ハ全然同感ナレハ絶対秘密ト致スヘキモ王部長ト
聯絡ヲ取ラルコトハ貴方ノ義務ナレハ充分諒解ヲ取り付
ケ置ク様セラレ度シト答ヘタルニ宋ハ其ノ點ハ御心配御無
用ナリト述ヘタリ

Shanghai,
Rec'd., Jan 21st, a.m. 1930

Gaimudaijin, Tokio
Ko No.29 (Urgent gokuh)

1. Reciprocal engagement for the maintenance of the present rates of Import Tariff on certain articles for at least five years.
2. Assurance for the abolition of likin, and similar internal taxes in the respective territories of articles of either party to be exported to or imported in to the other.

3. Assurance for the abolition of the Export Duty and maintenance of the present rates of Import Tariff until its abolition.
4. Grant of certain period (say three years) of notice for the relinquishment of the present reduced rates of duties of articles of the land frontier trade between the two countries.

Shigemitsu.

(丙圖 II)

Shanghai,
Rec'd., Jan, 21st, a.m., 1930.

Gaimudaijin, Tokio.
Koo No.30(Urgent Gokuh)

1. Cotton and Cotton Goods.
2. Cotton and Silk Mixtures, Rayon Piece Goods and Rayon Mixtures.

Shigemitsu

(丙圖 II)

3. Cloth made of remanufactured Wool and Cotton; Woollen Piece Goods, and another products made entirely of Wool or Hair, specified in Tariff No.104.
4. Fishery and Sea Products(including Canned Awabi).
5. Wheat flour.
6. Mushrooms.
7. Sugar. White, over No.10.Dutch Standard(including refined sugar).
8. China ware and Enamelled Iron ware.
9. Buttons.
10. Umbrellas and Sun shades, all Cotton.
11. Mirrors.
12. Shoes and Boots, Rubber, and Foot—gears made partly of Rubber.
13. Clocks and Parts or Accessories thereof.
14. Hats and Caps of Felt made with other materials than Beaver or Hair.
15. Medicine, Patent.
16. Thermostatic Containers and Parts or Accessories

17. Tools and Machinery ; Electrical machinery, materials, and Fittings.Machinery for Textile Industries.
18. Toys, Games, and Sporting Requisites.
19. Vehicles: Velocipedes (e.g. Bicycles, etc.,) and Parts or Accessories thereof.

Shigemitsu

(丙圖 II)

上海
本省
一月二日後着

*
△第II-1項

別電ハ第II九取引関シ本件ノ説明第一項ニ付トヘ如く日本政府ノ特ニ重キヲ置ク処ニシテ御承知ノ通り日本國間ハ此ノ喫川閣ハ完全ナル約束モアル次第ナレハ日本側ニ於テハ其ノ実現ハ予期シ既ル処ナリ而シテ右実現ノ暁リハ日本間ノ貿易ノ安定ニ資スル處アリ日本本業家ノ好感ヲサセ得テ萬事ニ好都合ナルシムヘ趣旨ヲ敷衍説明シ
第一項ニ付トヘ其ノ子釐金ノ撤廢ハ一般的問題リト御口出

義ノ点ナルカ之モ支那側ニ於テハ從来ヨリ声明シ居ラル

処ナリ然ルニ相互ニ釐金其他ノ國內税ヲ課セストノ約束ハ
實際問題ニテ假令兩國ニ於テ通過税等ノ制度實際上存続ス
ル場合ニモ日支兩國間ノ貿易ニ關スル限り相互ニ之ヲ免除
スルコトヲ約セントスルモノニテ別段特異ノ規定ニハ非ス

ト説キ

第三項第四項及第五項ニ對シテハ簡單ナル説明ヲ与ヘタル
処先方ハ直ニ諒解セリ

第六項ニ付テハ既ニ貴部長ト矢田氏トノ取極メ中ニモ明確
ニ記載シアルモノナルカ本問題ハ其ノ後ニ進展セス日本
政府ノ立場モ困難ナルモノアルニ因リ此ノ際何トカ本件ニ
付テモ實際的解決方法ヲ講スル必要アル次第ニテ然ラサレ
ハ兩國間ニ又復面白カラサル空氣ヲ釀ス惧アリ其ノ方法ニ
付テハ自分モ研究スヘキ力貴方ニ於テモ充分御考慮置アリ
タシト説明シ置キタリ

(別電四)

上 海 発
本 省 1月21日後着

*
公第三二号

別電公第二九号ニ對スル宋ノ意見

第一項ニ付テハ宋ハ税率ノ据置等ノ約束ハ他ノ諸國トハ行
ハサルコトトナリ居リ日本トノミ之ヲナスハ甚タ困難ナル
ノミナラス日本ト協約セハ他ノ國ヨリモ均霑方ヲ要求シ來
リ甚タ厄介トナルヘキニ付若シ之ヲ爲ストセハ秘密協約ノ
如キ方法ニヨリ得ヘキヤ否ヤ尚据置ヲ希望セラル具体的的
品目アラハ示サレタシト述ヘタルニ付本官ハ別電公第三〇
号品目表ヲ示シタル處宋ハ熱心ニ之ヲ見タル上右ハ關係當
業者等トモ充分打合セタルモノナリヤト尋ネタルヲ以テ本
官ハ右品目ハ永年研究ノ結果ニテ正式ニ當業者等ト相談シ
タルヤ否ヤハ承知セサルモ結果ニ於テハ相談シタルモ同然
ナリト思考ス從テ日本政府トシテハ之ヲ秘密協定トセス当
業者ニモ示シ事態ヲ諒解セシムル道具トシタシトノ意嚮ア
ルヘシ又日本ト他國トノ支那ニ對スル經濟貿易ノ關係頗ル
異レルモノアルニ付必シモ日本ニ与フルモノヲ凡テ他國
ニ与フル要モナカルヘント答ヘ置ケリ

宋ハ更ニ當座ノ思付トシテ種々意見ヲ述ヘタル後品目ノ多
キコトヲ「コンプレーン」シ本件ニ付テハ支那ノ内政關係

ヲ顧慮セサルヘカラサルコトヲモ説明シ尚現行税率ノ据置
ト云フモ目下財政部ニ於テハ僅カ乍ラ之ヲ平衡シ度希望ヲ
有シ居ルヲ以テ其ノ併行税率ヲ基礎トシタキ次第ヲモ述ヘ
又据置キ期間ハ三年トシタシ三年アラハ日本ノ工業家貿易
業者ノ方面モ充分ノ準備ヲナシ得ヘキ訳ナリト思フ尚相互
主義ト云フモ支那側ヨリハ要求スヘキ何等ノ品目ヲモ有セ
サルニ付其ノ點ハ日本政府ニ報告セラレ差支ナント述ヘタ
リ

而シテ宋ハ品目ノ問題ニ付話ヲ進メ度シトノ意嚮頻リニ動
キ居ル様見受ケラレタルヲ以テ此ノ機ヲ利用シ協定税率問
題ノ解決ニ努ムルコト然ルヘシト存シ之ヲ承諾シ置キタル
ハ別電公第三〇号後段ノ通ナリ

第二項ニ付テハ宋ハ支那側ニ於テハ日本ノ希望ヲモ尊重シ
既ニ釐金廢止ノ決定ヲナシタルニ依リ原則ノ點ニ關シテハ

日本ノ要求ハ達成セラレタルモノナリト述ヘタルニ付本官
ハ原則ノ點ニ付テモ保障ヲ得タキ」勿論ナルカ實際上存在
スル限り通過税等ノ國內税ヲ免除セラルルコトハ特ニ必要
ナルニ付其ノ點ハ頭ニ置カレタシト述ヘ置ケリ

第三項ニ付シ宋ハ輸出税ノ撤廢ハ不可能ナリ特ニ釐金ヲ撤
稅

257 昭和5年1月21日 帶原外務大臣より

在中国重光臨時代理公使宛(電報)

關稅率に関する交渉方につけ訓令

本省 1月21日後6時30分發

貴電公第二六号ニ關シ、

堀内携帶ノ我方関税條約案ニ付テハ目下折角詮議中ニテ趣旨ノ変更ハ無キ見込ナルモ多少字句ノ修正ヲ要スル箇所モアルニ付右草案ヲ至急支那側ニ内示スル必要アラハ右ノ趣旨ニテ提出セラレ差支ナシ
尚同条約案附属公文及税率表ニ付テハ左記御承知ノ上御交渉アリタシ

一、附属公文甲号ハ本條約案第二條ニ付スル第二案タルノミナラス税率据置期間ニ付テモ尚考慮ノ要アルニ付先方ニ提示スルコトハ成ルベク差控ヘラレ度シ

二、附属公文乙号ハ其ノ中段ニ於テ釐金廢止ニ関スル客年ノ協定確認ヲ要求シ更ニ後段ニ於テ「常関税、沿岸貿易税其ノ他之ト類似ノ一切ノ内地通過税」ノ廢止ヲ要求スルコトナリ居ル処前段釐金中ニハ統稅、落地稅等釐金類似ノ一切ノ内地通過稅ヲモ包含スルモノナルニ付後段「一切ノ内地通過稅」トアル箇所ヲ「一地^切ノ内地稅」ト修正シタル上本公文ノ要旨ヲ箇條書トシテ提示セラル様致シ度シ而シテ右ノ如ク「内地稅」ナル字句ヲ使用シタル理由ハ将来支那側ガ何等カノ名義ヲ以テ所謂釐金以外ノ常關稅、沿岸貿易稅ニ類似スル

一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一一〇	
銅		真鍮		メリヤス衣類		肌衣及股引		綿帆布		綿織糸(二十三番手以下)	

内地稅ヲ設クル「ヲ阻止スルト共ニ前段釐金ノ意義ヲ廣義ニ解セシメントスル趣旨ニ外ナラズ
三、附属税率案ハ第一案ヲ其ノ併提示スルニ於テハ從来各省ヨリ要求アリタル品目ヲ相當省略スルコトトナルニ付此等ノ夷ヲ考慮シ最初ノ提案トシテハ第一案ニ左記品目ヲ追加シタルモノヲ提示セラレ度

三六 綿帆布

五一 綿織糸(二十三番手以下)

五四 ブランケット皮地

五八 メリヤス衣類

五九 肌衣及股引

一二〇 銅

一一九 真鍮

一一八 メリヤス衣類

一一七 肌衣及股引

一一六 真鍮

一一五 メリヤス衣類

一一四 肌衣及股引

一一三 真鍮

一一二 メリヤス衣類

一一一 真鍮

一一〇 銅

○、一一、一二、一五、一七、一八(sporting requisits一ヲ除ク)ニ付テハ其ノ中或ルモノハ多少ノ増率ヲ爲シ審議ヲ進メ得ヘキモ〔三〕同シク二、三、七、八、一三、

一四、一六、一七、sporting requisits及一九ニ付テハ同意シ難キ旨ヲ述ヘ尚番号一綿糸布ノ範囲ヲ承知シ度シト言ヘルニ付我方ヨリ條約草案附属稅表第一案ノ稅番ヲ提示シ支那側ハ之ヲ研究シタル上意見ヲ述ヘタシト約シ我方ニ於テハ前記〔三〕各項目ニ付我方主張ノ理由ヲ詳説シタルカ支那側反対ノ理由ハ番号二ニ付テハ交織物及人絹ハ支那國內絹布業者ノ反対強ク七砂糖ニ付テハ直ニ増率ノ意嚮ナキモ將來財政上ノ目的ヨリ多少増率スル必要ニ迫ラルコトアルヤモ知レサルニ付之カ據置乃至協約ヲ約シ難ク又支那ニハ砂糖ヲ生產セサル爲多少増率スルトモ日本ノ貿易ニ影響ナカルヘシト言フニ在リ我方ハ之ニ對シ充分ノ説明ヲ加ヘタルモ先方ヲ納得セシムルニ至ラス其ノ他ノ項目ニ付テハ日本ノ貿易額他國ニ比シ少キカ又ハ日本品多額ナルモ日本ノ對支貿易ノ重要品ニアラサル爲之ヲ除外スルモ大ナル支障無カルヘク又支那側トシテハ國民ニ對スル閑

258 昭和5年1月22日

在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

関税協定税率をめぐる交渉状況につき報告

上海 発

本省 1月22日前着

往電公第二八号ニ閑シ
公第四〇号

一、廿一日午後四時本官々邸ニ於テ本官宋部長ノ外横竹、堀内及張福運ヲ加ヘ品目ニ閑スル意見交換ヲ行ヒタルカ冒頭宋ヨリ往電公第三〇号我方提案ニ付スル意見トシテ〔一〕右提案番号五及十七ノ内織布機ニ付テハ大体異存ナク〔二〕同シク一、四、六、八(陶器ヲ除ク)九、一

係上成ルヘク品目ヲ少クスル「必要ナレハ之ヲ認メ難シト云フニ在リ」

之ニ対シ我方ヨリ日本カ重大ナル利害関係ヲ有スル品目ハ頗ル多キモ右支那側ノ立場ヲモ顧慮シ充分自制シテ少數ノ重要品目ヲ提出シタル次第ニシテ例へハ約八百ニ近キ税番中僅カニ四、五十ヲ要求スルニ過キサレハ支那國民モ必シモ之ヲ以テ多過キルトハ思ハサル

ヘシト説明シタルカ支那側ハ納得セス唯此ノ種品目ニ付テモ更ニ我方ノ立場ノ説明ヲ聞クコトヲ承諾シ明日引續キ前記(二)ノ項目ニ付意見ヲ交換スルト共ニ税番別綿糸布ニ対スル支那側ノ意見ヲ聞クコトトシテ散会シタリ

二、右意見交換ニ際シ先方ハ我方提案ニ対シ充分考慮シタル上卒直且眞面目ニ意見ヲ述へ居ル次第ナレハ綿糸布ニ対スル先方ノ意見ヲ聞く迄ハ的確ニ豫断シ難キモ是迄來リタルコトナレハ本件審議ノ前途必シモ悲觀スルノ要ナキヤニ思ハル

三、尚支那側ハ財政上ノ爲近ク綿糸布ノ或ル物ニ付二分五厘乃至五分ノ輸入税増率ヲ行ヒ度キ旨述ヘタルヲ以テ

我方ヨリ右増率ニ当リテハ我方ノ関係品ハ比較的必要品多キカ爲増率ヨリ除外スヘキモノ多ク又増率スルモ二分五厘以上ニ堪ユルモノハ尠カルヘキカ故ニ此ノ矣充分考量ヲ請フ旨述ヘ支那側ハ右増率案ハ既ニ完成シ居ル故明日我方ニ提示スヘシト約束シタリ、

南京へ暗送セリ

259 昭和5年1月(22)日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

国民政府工商部容喙の可能性もあり関税問題の早期妥結で宋部長と合意について

上海 本省 1月22日後着 発

*
公第四三号

往電公第四〇号ニ閏シ

廿一日会見後宋子文ノ間接ニ傳言シ来レル処ニ依レハ日本側ニ於テ誠意ヲ以テ交渉ニ当ラレ居ルコトヲ認メ其ノ點ハ非常ニセビヒ居ルモ税率協定ノ問題ニ付テハ実ハ國民政府トシテハ甚タ困難ナル立場ニアリ從テ現在ノ如ク財政部及外

交部ノミカ之ニ當リ居ル間ハ差支ナキモウツカリスレハ工部邊リモ交渉ニ割込ミ兼ネマシキ勢ニテ斯クナレハ問題ハ非常ニ複雜トナルニ付本件ハ一日モ早ク纏ムル必要有り就テハ日本側ニ於テモ交渉ヲ成ルヘク取急ク様セラレタシト申越セリ依テ本官ハ之ニ対シ税率協定ノ問題ハ實ハ日本

政府ニ於テ非常ニ重キヲ置キ居ル処ナリ何トナレハ協定税率締結方ニ付テハ既ニ大正十五年一月北京ニ於テ現外交部長王正廷ト芳沢公使トノ間ニ交換公文ニ依リ約束セラレ居

ル次第ニテ日本國民モ之ヲ知悉シ居ルノミナラス本問題ニ付相当ノ成績ヲ舉クル事ハ將來ノ日支ノ関係ニ付テ日本実業家方面ノ意見ヲ纏ムル上ニ於テモ絶対ニ必要ナレバナリ本官ニ於テモ同時ニ支那ニ於ケル困難ナル内情ハ充分諒解シ居リ從テ此際双方トモ難キヲ忍ヒテ妥協的態度ニ依リ交渉ヲ一日モ早ク成立セシメントスル趣旨ニハ全然同感ナルカ故ニ必要アルニ於テハ更ニ会合ヲ頻繁ニスルモ差支ナント答ヘ前記先方ノ會議促進方ノ申出ヲ承諾シ置キタリ
南京ニ暗送セリ

260 昭和5年1月22日 在奉天林總領事より
幣原外務大臣宛(電報)
奉天商工会議所では海關金單位制の導入を重
要視していない状況について
奉天 本省 1月22日後着 発
第二五號
貴電合第二五號ニ關シ(支那關稅金建制度ノ件)
當地支那新聞ハ中央政府及中央黨部側ノ情報トシテ海關金建納稅ハ外債償却上已ムヲ得サル事情ヲ記述シ居ルモ商民ニ對スル影響等ニ關シテハ何等記事論評ヲ見ス一般支那商民ニ於テモ當地ハ直接輸出入港ニ非サル關係モアリ本件ノ影響ニ對シテハ比較的冷淡ニシテ餘リニ問題ト爲シ居ラサルカ如シ
我商工會議所ニ於テハ非公式ニ少數貿易商ノ意図ヲ微シタルニ銀貨暴落ノ甚シキ今日金建關稅ヲ徵收スルコトハ同情ヲ以テ迎フ可シトノ穩健說ヲ有スル者アル位ニシテ邦商中ニモ未タ之ヲ重大視シ居ラサル傾キアリ最近ノ機會ニ議員ヲ召集シ審議ノ上會議所ノ意見ヲ發表スル趣ナリ

北平、上海、南京へ轉電シ安東、哈爾賓、長春、吉林、牛莊、關東長官へ暗送セリ

261

昭和5年1月(23)日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

開税協定税率をめぐる 一月二十二日交渉報告

別電一 一月二十三日着在上海重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛公第四八号

開税協定税率をめぐる 中国側意見

二 一月二十三日着在上海重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛公第四九号

中國側税率引上げに対する応答報告

上 海 発
本省 1月23日前着

公第四七號(至急、極秘)

往電公第四〇號ニ關シ

二十二日午後四時ヨリ前回ノ通會合我方ニ於テ前回ノ話合

ニ基キ支那側ニ於テ審議ニ異議ナキモノノ項目及税率(稅
番ハ a、b共我方第一案ニ依ル)ヲ纏メタルモノヲ a表ト

(別電一)
上 海 発
本省 1月23日前着

公第四八號(大至急、極秘)

支那側ノ説明

南京へ轉電セリ

シ同シク支那側ニ於テ考量シ得ストスルモノヲ同様 b表ト
シ支那側ノ要求品目ヲ同様 c表ト爲シタルモノニ基キ審議
ヲ進メ別電公第四八號ノ通支那側ノ説明アリ之ニ對シ別電
公第四九號ノ通我方ノ説明及彼我ノ應酬アリ右ヲ攻究ノ上
次回打合ヲ行フコトセリ貴電公第三號ノ品目ニ付テハ今
日ノ會合ニ於テ我方ニ於テ更ニ政府ヨリ之力考量方ヲ申入
ルヘントノ訓令ニ接シタリトテ右ノ趣旨ヲ申入レタル處支
那側ハ右品目ハ本件据置品目中ニ加フルコトハ累次説明ノ
通到底不可能ニシテ承諾ノ餘地ナキモ其ノ中人參ハ二分五
厘「ビール」ハ他ノ種類ニ比シ僅少ノ引キ上ケヲ行フ豫定
ノ外其ノ他ノ品目ハ凡テ普通品ナレハ税率引キ上ケノ意向
ナキ内定ナリト述ヘタリ

(別電二)
上 海 發
本省 1月23日前着

公第四九號

一、綿糸布ニ付税率番一乃至九ハ二分五厘其ノ他ノ税率ニ付
テハ五分ヲ引上クルヤモ知レス右ハ必スシモ直ニ引上
クル譯ニ非サルモ將來財政上ノ目的ノ爲引上ケ得ル餘
地ヲ存スル意味ニテ右引上ケタルモノヲ最高税率トシ
テ協定セサルヘカラサル立場ニアリ綿糸ニ付テハ輸入
稅ヲ引上ケル意味ナキモ之ニ對シテハ輸入品及内國品
ノ兩者ニ對シ等シク同額ノ綿系統一稅(consolidated
tax)ヲ課スルコトトナルニ付此ノ點ハ御含ミ置キヲ
請フト尙右統一稅ノ歩合ハ自然將來綿糸ニ課スル國稅
増率ト釣合フ様ニスル譯ナリト言ヘリ

二、海產物ニ付テハ税率二一七、二一八ヲ据置キトスルモ
其ノ他ノモノニ付テハ綿布ト同様税率一九六、二〇二、
二三一二ニ對シ五分其ノ他ノ税率ニ對シテハ一律二分五
厘ヲ引上ケタシ

其ノ他ノ品物ニ付テハ税率二八〇、六四七、六五一、
(b)六八五、七〇九ハ据置キ同シク五六七、五六八、六
〇三、六〇四、六〇五、(a)ニ對シテハ二分五厘同シク
六一二ハ五分同シク七一〇ハ一割丈引上ケタシ

(一)我方トシテハ現行税率ヲ基礎トシテ据置キノ約束ヲ得ン
トスルノ建前ナレハ一般的ノ引上ケヲ爲シ之力据置ヲ認ム
ルコトハ困難トスル処ナルノミナラス本邦ノ最重キヲ置ク
綿布ハ殆ント税率表ノ全部ニ亘ル訳ナルカ支那側ノ立場ヲ
モ考ヘ特ニ重要ナルモノ丈ヲ提示シタル次第ナルヲ以テ提
示品目ハ多ク普通品ニシテ此ノ上ノ増税ニ堪ヘサルニ付現
状維持トシテ措置スルコトシタク支那側ノ提案ノ如ク大
部分ニ對シ五分ヲ増スカ如キハ夢想タモセサル処ナリ本邦
綿布生産並輸入等ノ関係業者ノ利益ノmarginカ僅少ナレ
ハ二分五厘ノ増率ニテモ貿易ヲ阻止スルニ至ルヘシトテ現
状維持ヲ主張シ之ニ對シ支那側ハ右ハ將來ノ財政上ノ目的
ニ備フルカ爲ニシテ今直ニ引上クル訳ニハアラス又二分五
厘乃至五分ハ左シタル障礙ニアラサルヘシトシ種々議論
ノ末我方提出ノ綿布中日本ガ特ニ重要視スルモノヲ承知シ
タシト言ヘルニ付我方ハ提示品目ノ全部ヲ重要視スル勿

論ナル力強テ区別スレハト前置シテ税番九、三二、及四七ヲ除キ第二案ニ包含セラルル税番ノ全部ヲ指摘シ之ニ特ニ重キヲ置ク旨ヲ述ヘ右ノ點ヲ更ニ考究スルコトトナレリ

(二) 海產物ニ付テハ其ノ税率ニ付我方ヨリ綿布ト同様ノ主張ヲナシ我方ノ特ニ重キヲ置ク税番二〇五、二一三及二一六ニ付テハ更ニ考究スルコトトナレリ

(三) 其ノ他ノ品物ニ付テモ同様税番六〇五(a)六一二、七一〇ニ付更ニ考究スルコトトナレリ

(四)(b) 表ノ品物ニ付テハ我方ヨリ sporting requisits ヲ除キ全部再考方ヲ力説シタル結果時計、帽子、魔法瓶及自転車ニ付テハ例へハ或ル價格以上ノモノトスル等ノ方法ニ依リ其ノ低級品タル「ヲ明記スル「トシテ更ニ考究スル「トナリタルモ毛織物、陶器、絹綿混織物、人絹及人絹混織物並ニ砂糖ニ付テハ我方ヨリ特ニ砂糖力内政上第二位ノ対支重要品ナル理由ニ依リ再考方ヲ力説シタルモ先方ハ前説ヲ反覆シ特ニ砂糖ニ付テハ宋ニ於テ政府ノ明確ナル訓令ヲ受ケ居ル旨人絹類ニ付テハ絹物業者ヨリ猛烈ナル請願アリ政治問題トナリ居ル」(之ニ対シ我方ハ人絹ト天然絹トノ競争カ杞憂ナルコトヲ例示シテ詳説セルモ其ノ効ナシ) 及陶器

本官発南京宛電報^{〔一章タクセキ〕}第一〇〇号

関税問題ニ付宋部長ト本官トノ間ニ交渉進行中ノ次第八御承知ノ通ニシテ右ハ先方ノ強キ希望ニ從ヒタル形トナリ居ル次第ニシテ交渉ノ正否ハ別トシ今後支那側ノ都合ニ依リ交渉遲延ノ場合ニモ其ノ責任ハ日本側ニ非サル事トナリタルノミナラス関税問題ヲ引離シ交渉スルコトモ大体可能トナリタル訳ナルカ茲ニ特ニ注意ヲ要スルハ王正廷及外交部方面トノ関係ナリ宋子文ハ本件交渉ニ付テハ王正廷ト完全ニ聯絡ヲ採リ居ル旨述ヘ又本官モ外交部長ト完全ナル聯絡ヲ採ルハ支那側ノ義務ナル事ヲ絶エス注意シ居レル処王部長ハ廿一日迄当地滯在ヲ延期シ居タル由後ニ至リ聞知セルモ知レス少クトモ宋子文ハ当地ニ於テ王部長ト打合セヲ爲ス機会アリ又打合セ居タル事ハ本官ニ明言シタル所ナルニ付少クトモ王正廷ハ交渉内容ヲ充分承知シ居タル「ト思ハル」併シ本官ハ曩ニ今週中ニ南京ニ赴クヘキ事ヲ王部長ノ他ニ洩ラシ居タル次第モアリ王トノ直接聯絡モ成ルヘク速ニトリ度考ヘ居ルモ宋トノ話ノ具合ニ依リテハ其ノ一段

ニ付テハ國民的感情ノ問題ナリトテ毫モ讓歩セス結局先方ニ於テ前記一乃至四ノ各點ニ付我方ノ意図ヲモ参照シテ更ニ考究スヘキ旨ヲ約シタリ

(五)c 表ニ付支那側ヨリ右品目ニ対スル我方ノ税率ヲ質シ之右ハ目下請訓中ナレハ回訓アリ次第回答スヘシト答ヘタル處先方ハ之等品物ニ付テハ支那商人力高率ノ爲商賣出来ストテ工商部ヨリ特ニ依頼モアリ又日本ノ奢侈税ハ震災後ノ応急措置ナレハ今日トナリテハ之カ廢止又ハ引下ケ方考慮ノ余地アルヘク旁々先方ノ希望ヲ容レラレタシト述ヘタリ尚支那扇ニ対スル我方税率御回示アリタシ

262 昭和5年1月23日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)
宋子文との関税問題交渉進行に際し外交部の動向に留意しつつある旨南京領事宛通報
上 海
本省 1月23日後着
公第五二号

落付ク迄南京行ヲ延ハス方可ナルヘント思考セラルルノミナラス目下健康上ノ関係ニテ少クトモ數日間ハ旅行ニ堪ヘス旁旧正月ノ點ヲモ考慮シ或ハ旧正月^(月次)ニ南京ニ赴ク事トル方宜シカラント考ヘ居レリ就テハ本件交渉ト王正廷其ノ他外交部側トノ関係ハ頗ル機微ナルモノアルヲ以テ貴官ハ以上ノ事情御含ノ上御裁量ヲ以テ王部長及周司長辺リニ健康上ノ理由ヲ以テ本官ノ南京行ハ幾分遅延スヘキモ成ルヘク速ニ行キ度キ旨述ヘ居ル旨適宜挨拶シ置カレタシ大臣ヘ転電セリ

263 昭和5年1月24日 閣議決定

関税問題に関する日本側交渉方針

* 昭和五年一月廿四日閣議決定

支那トノ通商條約改訂問題ノ商議ハ在支重光代理公使ヲシテ王外交部長ト打合ノ上不取敢彼我共ニ緊急処理ヲ必要トスル関税問題ヲ解決セシムル「トシ既ニ同代理公使ト國民政府当局間ニ交渉ヲ開始シタル処右交渉方針ハ大体左記ニ拠リタシ

一、支那トノ間ニ至急開税ニ関スル條約又ハ取極ヲ成立セシメ追テ一般通商條約成立ノ上ハ之ヲ該通商條約中ニ包含セシムヘキコト

二、開税ニ關スル支那ノ自主権ヲ認ムルコト

三、我國ノ對支輸出品中綿糸布、綿製品、海產物及各種雜貨類等重要輸出品ノ成ルヘク多數ニ付支那ヲシテ一定期間税率拘束ヲ約セシムル「之力為必要ニ応シテハ支那ヨリ我國へ輸入セラルル物品ニ付テモ我輸入税率ノ拘束ヲ認ムル」

四、支那ヲシテ本邦ヘノ輸出品及本邦ヨリノ輸入品ニ對シ釐金其ノ他一切ノ内地通過税ヲ免除スヘキ旨ヲ約セシムル」

五、支那ヲシテ成ルヘク速ニ輸出税ヲ廢止スル「並ニ右廢止ニ至ル迄大體現行税率（附加税ヲ含ム）程度ノ税率維持ヲ約セシムル」

六、鮮滿國境特惠税率ノ一定期間後廢止ヲ認メ右廢止ニ至ル迄ノ現状維持ヲ約セシムル」

七、開税及之ニ關聯スル一切ノ事項ニ付最惠國及内國待遇ヲ相互ニ約スルコト

廿三日宋子文ヨリ特ニ本官トノミ會談シ度シト申越シタルニ付午后五時ヨリ會見セリ
右ニ於テ宋部長ハ協定税率ニ對スル困難ヲ再ヒ繰返シ述ヘ何レニスルモ斯カル協定ヲ結ハハ一般ノ攻擊ハ免レス併シ其ノ點ハ自分ニ於テ責任ヲ採ルヨリ外致シ方無シト思フ次第ナリ實ハ昨日ノ會合以來工商部邊リノ専門家トモ協議ヲ重不タルカ自分ハ日本側ノ穩當ナル態度ヲ説明シ種々努力シタル結果最後案ヲ作ルヲ得タリ此ノ最後案ハ自分ノ讓歩シ得ル最終ノ案ニシテ自分ハ之ニ付bargainヲ行フ事ヲ欲セストテ別電公第五六號ノ内容ヲ有スル「リスト」ヲ手交セリ

本官ハ右ニ對シ貴方ノ有スル誠意ハ充分諒解スルモ實ハ自分ノ方ニモ非常ニ困難アリトテ從來説明セル諸點ヲ繰返シ特ニ綿糸布ニ付テハ日本ノ實業家ニ於テ増稅ヲ困難トスル次第ヲ詳シク述ヘタル上其ノ現狀維持特ニ稅番ノ一乃至九迄ノモノハ

支那側最初ノ提案通二分五厘トナリ居ル處之ヲ現狀維持トルヲ得サルヤトテ其ノ考慮ヲ促シタルカ宋部長ハ右ハ綿糸布全部一律ニ二分五厘トテモスルコトヲ主張シタル

尚開税問題ハ成ルヘクハ此際急速解決ヲ有利トシ之力爲ニハ極秘裡ニ交渉ヲ進ムルコト得策ナルニ付前記各項ノ内容ニ関シテハ外務省ニ於テ從來関係各省ヨリ申出アル意見ヲ適宜參照シテ支那側トノ交渉ヲ進メ尚今後交渉ノ進捗ニ從ヒ関係省ト打合ヲ要スル場合ハ隨時簡捷且急速ニ協議處理スルコトト致度シ

264 昭和5年1月(24)日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

開税協定税率をめぐりこれまでの譲歩は困難として宋財政部長最終案提出について

別電 一月二十四日着在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

開税協定税率に関する中國側最終案

公第五五號（大至急、極秘） 上海 本省 1月24日前着 發

系統一稅ノ關係モアリ如何ニスルモ二分五厘丈ノ餘裕ヲ置カサルヘカラサル狀態ナリトテ讓步ヲ難シトスル態度ヲ示セリ又宋ハ當方ノ提案ヨリ削除セラレタル四點即チ綿綱交織物（稅番八〇、(a)、八二、八五）毛織物（八七、一〇四）砂糖（三二八）陶磁器（五六六）特ニ綿綱交織物及砂糖ニ對スル稅率協定ノ困難ナルコトヲ繰返シ述ヘ砂糖ニ付テハ自分ヨリ日本ノ當業者ニ對シ非常ニ多額ノ增稅ヲナスノ意思ハナキモノナリトノ趣旨ヲ手紙ニ書キテ諒解ヲ求ムルカ如キ方法ヲ取ルモ差支ヘナシト述ヘタリ而シテ宋部長ハ更ニ若シ本最後案ニ依リ話ヲ進メ得サルニ於テハ自分トシテハ此ノ際話ヲ止メ他日ノ機會ヲ待ツノ外途無キ次第ナリト思フモ

若シ右案ニテ協議ヲ進メ得ルニ於テハ自分ハ舊年關ノ關係モアリテ多忙ヲ極メ居ルモ南京行ヲ二十七日月曜日ノ夜迄延期シ其ノ間ニ話ヲ進メ其ノ結果ヲ二十九日ノ外交委員會ニ持出スコトシテハ如何カト思フト述ヘタリ

本官ハ右先方ノ態度ニ顧ミ其ノ最後案ヲ根本的ニ覆スコトハ不可能ト認メタルニ付全部ノ表中五分ノ增稅ヲ豫期シアルモノヲ全部一律ニ二分五厘トテモスルコトヲ主張シタル

ニ宋ハ右ハ曲ケテ承諾スヘシト答ヘタリ

依テ本官ハ右最後案ハ自分ニ於テ政府ニ取次キ充分ノ考慮ヲ仰クコトトスヘキカ之ヲ全然變更不可能ノモノト断言ス

ルコトハ御互ニ避クルコトトシ度シト云ヘル處宋ハ其ノ精トハ充分政府ニ取次カレ度シト繰返シ述ヘタリ

神ニハ贊成ナルモ右カ自分ノ誠實ニ努力シタル結果ナルコ

トハ本官ハ日本側ノ追加品目（貴電公第三號御申越ノモノ）

ニ對スル貴方御説明ノ次第ハ詳細政府ニ電報シ支那側ハ人參、毛布及麥酒等ニ對シ僅少ノ增稅ヲ考慮シ居ル外ハ大體

据置ノ意向ナル旨ヲ報告シタルカ右ニテ間違ナキヤト述ヘタルニ宋ハ之等ノ品物ニ付條約上ノ拘束ヲ受クルカ如キ御約束ハ出來サルモ目下ノ處一、二ノモノヲ除キ增稅ノ意思ナキコトハ今日説明セル通ナリト答ヘタリ次ニ協定期間ノ

問題ニ付本官ヨリ日本ハ少クトモ五年ハ要求セサルヘカラサルコトヲ繰返シ述ヘタルニ右ニ對シ宋ハ本問題ハ始メヨリ申上ケ居ルカ如キ狀況ニテ實ハ内部ニ於テハ之ヲ二年トシ僅少ノモノニ付テノミ三年トスヘシトノ主張強カリシモ自分ハ全部ニ付三年トスルコト然ルヘキ旨ヲ說キ其ノ結果三年ト伸出テタルモノナレハ之ヲ更ニ延長スルコトハ到底

困難ナリト讓歩ノ色見ヘサリキ

南京へ暗送セリ

（別電）

上海
本省
1月24日前着

*
公第五六号

本省
1月24日前着

宋子文最終案ハ品目ノ範囲ハ大体ニ於テ堀内携行關稅條約草案附屬税表第一案ノ程度ヲ維持シ居リ即チ右案ニ對シ綿糸布ニ付テハ太糸（税番五一（イ）及（ロ））及「メリヤス」類（五八、五九）ヲ加ヘ其ノ他ノ品物ニ付テハ陶磁製及貝製「ボタン」（六〇三、六〇四）及織布機械（七〇九g）ヲ加ヘ絹綿交織物（八〇、八二a、八五）毛織物（八七、一〇四）砂糖（三二八）及陶磁器（五六六）ヲ除キタルモノニシテ税率ハ綿糸ハ据置キ（往電公第四八号一参照）綿布ハ全部二分五厘増率其他ノ品物ニ付テハ税番一九六、二〇二、二三一、六七七(c)七〇六、七一〇、七一五ヲ五分増率シ税番二〇五、二二三、二八〇ノ一部、三〇二、六四七、六五二(b)ノ一部六八五、七〇九ノ(f)及(g)ヲ据置トシタル外

總テ一律二分五厘ヲ増率シタルモノナリ

265 昭和5年1月24日

幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛（電報）

關稅協定税率をめぐり中國側態度緩和の兆あ

るも從前からの方針にて交渉方訓令

本省 1月24日後6時発

*
公第一二号

貴電公第四四号ニ關シ

來我ヨリ与フル政治的利益ノ代價云云トノ佐分利公使ヘ確言シオリタル事実ニ徴シ今後交渉ヲ或ル程度迄進捗シタル後法權問題其ノ他ニ付難題ヲ我ニ持チ掛クル前提ニ非ヤトノ懸念ナキニ非ズ此亦今ヨリ御用心ノ要アリト存ズ

尚宋トノ御詰合中（金建問題ニ對スル我方態度ハ一両日中ニ電訓スヘシ）税率据置期間ハ五年ヲ最小限度トスル「ハ極力固執セラレタク國定税率ト^雖一旦制定後三年位据置クハ普通ノ例ナレハ之レ位ノ短期間拘束ニテハ協定ノ利益ニ乏シトテ内地官廳間ニモ強キ反対アリト御承知アリ度ク

（三）税率ニ關スル協定ヲ秘密文書トスルコトハ可成之ヲ避ケ度シ殊ニ互惠的ニ我方ノ税率ノ即時輕減ヲ約スル「トモナラハ我方ノ法制上ノ立場ヨリモ秘密公文トナス」ハ不可能ノ義ト御承知置アリ度シ（四）輸出稅ハ主義シテ支那ヲシテシテハ附加稅ヲ含ム現行稅率ノ据置ニ重キヲ置ク事ト致度シ（五）同一品目ノ同一稅率据置ヲ我ヨリモ約スル「ハ余リニ支那側ノ面子ニ捉ラハレタル云分ニシテ支那トシテハ實益ナク且我トシテハ品目ニモ依ル「乍ラ急速ニ国内官廳ノ意見ヲ纏ムル」到底不可能事ナリ寧口實益本位トシ我方トシモ今日迄ノ貴電ニ依レハ可能ナリト察セラルモ取極ノ形式等ニハ例ヘハ交換公文トスルカ議定書式ノモノトスルカ又ハ條約的ノモノトナスカノ矣ハ尚充分考慮ヲ要スヘク殊ニ稅率協定ニ對スル支那側ノ態度ニ緩和ノ兆アルコトハ從

テ先方ノ二分五厘増率ヲ思止マラシムル材料トシテノ切札ニハ牛肉、高梁ノ無税乃至輕減ヲ先方ニ提示シ其考慮ヲ求ムル余地アリト思考ス若シ此等ノ無税乃至輕減ニヨリ棉布綿製品其他ノ現行税率据置ノ見込アラバ堀内携行第三案中ノ三角印ノ品目ノ輕減方関係省トモ協議スヘシ(六)協定税率ヲ金建ノ計算ニテ定ムル「モ先ノ税率引上ヲ防止スル一方策ト思考セラレ研究中ナルモ右ハ金建問題ニ対スル我態度決定ノ上申進ズベシ

南京ニ転電アリ度シ

266 昭和5年1月24日 常原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

関税協定成立に伴う釐金廢止に抵代税も含ま
れるよう明記方訓令

*本省 1月24日後6時30分発

往電公第一三号ニ閑シ

堀内携行ノ條約案第三条内地通過税免除ノ規定ハ現行抵代税ヲモ廢止セシムルノ趣旨ナリ右ニ関スル支那側ノ意嚮ハ

南京へ轉電アリタシ

267 昭和5年1月24日 常原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

関税協定品目数承認並びに据置期間延長方訓令

*本省 1月24日後6時40分発

貴電公第五七号ニ閑シ

貴官段々ノ御尽力ニヨリ宋部長トノ話合順調ニ進捗シ同部

長ノ所謂最後案ニ對シテモ品目數ノ関スル限りハ我方第一案ト大差ナキ程度故未タ関係各省ノ確認ヲ得オラサルモ此

際ノ協定トシテハ容認ノ外ナシト思考セラルモ(一)二分五

厘ノ増税ヲ認メテ据置ク品目余リニ多數ナルノミナラス支

那側ハ茲數ヶ月後ニハ直チニ右増税ヲナスモノト察セラレ

且又支那ノ復案タル國定税率案ノ一般品目ニ對スル増税歩合トノ振合如何ニヨリテハ協定ノ實質的價値著シク減殺セ

ラルル「トナリ我方トシテモ政府ノ内外ニ對シ説明甚タ困難ナリ(二)据置期間ハ宋ノ提案タル三年ニテハ余リニ短キニ

過クルハ往電公第一二号ノ通ナルニ付万策ヲ尽シテ五年案ヲ固執スル外ナシ就テハ貴地ノ情勢上右宋ノ最後案ハ纏メ得ヘキ最大限度トモ察セラレサルニアラサルモ此際貴官ニ

於テ難キヲ忍ヒ今一段ノ努力ヲ試ミ二分五厘増税据置品目ノ減少換言スレハ現行税率ノ据置品目ノ增加ヲ計ルト共ニ

据置年限ノ延長ヲ期シテ税率協定ニ関スル交渉ヲ進捗セシ

ムル様御取計アリタシ往電公第一二号ニヨリ當方ノ意嚮御察知ノ上已ニ御手配ノ「トハ存スルモ爲急電報ス尚先方ノ

復案タル一般新税率中ノ一般品目ノ現行税率ニ對スル増税歩合モ適當ノ機会ニ宋子文ニ御確メ電報アリタシ尚又貴電

未タ御報告ニ接セサルモ支那側ハ之ニ對シ財政上ノ減收並現行税率実施承認ニ閑スル昨年一月ノ交換公文ヲ據ニ釐金制度廢止迄ハ抵代税ヲ存置スヘキ旨ヲ主張スルヤモ岡ラレスアルノミナラス仮令今次ノ交渉ニ於テハ右交換公文ニ觸ルル「ナク我方條約案ヲ其ノ既承認セリトスルモ後日或ハ紛議ヲ生スルノ虞アルヘキニ付此矣御留意ノ上事前ニ於テ右兩規定ノ関係ニ付支那側ヲシテ明確ニ諒解セシメ本件條約成立ノ上ハ前記交換公文中抵代税ニ閑スル規定ハ自然効力ヲ失フヘキモノナル「ヲ撤底セシメ置ク様致度シ

右御氣付ト存スルモ爲念

南京へ轉電アリタシ

268 昭和5年1月24日 常原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛(電報)

陸境特惠関税につき最低三年据置主張方訓令

*本省 1月24日後10時30分発

貴電公第五号ニ閑シ

條約改訂ノ際ニ於ケル鮮滿國境關係ノ處理方ニ付テハ御承知ノ通当初我方ハ可成長期ニ亘ル本制度ノ存置ヲ希望シ之

力爲ニハ相互ニ極^(局)地的協定税率ヲ設ケントスル腹案ヲ有シ

タルモ支那側ノ立場ニモ十分ノ考慮ヲ加ヘ結局現行輕減税率ノ或期間据置ニ依ルコトシタルハ御承知ノ通ニテ鮮滿

國境貿易ノ重要性ニ顧ミ最短三ヶ年ノ据置ハ是非必要トスル次第ナル處他方支那側ノ支張タル華府會議ノ決議ニハ適

当ナル調整ヲ認メ居リ

又佛支條約附屬交換公文ニ於テハ佛國側カ仮領印度支那條約成立迄陸境輕減税率ノ存置ヲ希望シタルニ拘ラス支那側

ハ一九二九年三月末限り是ヲ廢止スヘキ旨ノ公文ヲ發送シ
佛國側ハ單ニ後日ノ爲之ヲ「テークノート」シタルニ過キ
シテ明確ナル承諾ヲ与ヘサリンモノト思考セラル節ア
リ（客年北京發本大臣宛一七五九号）從テ宋子文主張ノ如
ク佛國側力輕減税率ノ廢止ニハ三ヶ月位ノ豫告ヲ以テ足ル
コトヲ認メタリト言フハ俄ニ信ヲ置キ難キミナラス假令
印度支那國境貿易ノ保護ノ爲三ヶ月ノ豫告期間ヲ以テ足ル
リトスルモ右ニ比シ遙カニ重要ナル我鮮滿貿易ノ爲斯ル短
キ期間ヲ認メ得サルハ言ヲ俟タス

又英支條約附屬書第四ニ於テ新税率ノ海陸國境ニ於ケル一
律適用ヲ宣言シタルハ我方トノ陸境關稅ニ閔スル取極ヲ無
視シタル越權ノ措置ニシテ今日ニ至リ右附屬書ノ規定ヲ以
テ我ニ迫ルカ如キハ謂レナキ措置ト言ハサルヘカラス依テ
貴官ハ支那側ニ対シ本電前段我方本件處理方針ノ決定ニ至
リタル經緯ヲ説明セラルト共ニ前記ノ趣旨ニテ論駁ヲ加
ヘ此ノ上トモ支那側說得方御尽力アリタシ

南京へ轉電アリタシ

長ト要領左ノ通應答シタリ

第一條、宋ハ第一項ニ付テハ内容ハ兎モ角トシテ形式ハ相
互主義ノ形式トシタク大体米支條約第一條ノ規定ノ通ト致
シ度シト述ヘタリ第二項ニ関シテハスル規定ヲ存スルハ第
一項ノ自主権恢復ノ主義ニ反スルモノナリ規定夫自身力第
一項ト矛盾スルノミナラス此ノ「ハ内容如何ハ別トシテ之
ヲ條約ノ条文ノ形ニ於テモ其ノ他如何ナル形ニ於テモ紙ニ
書ク能ハスト言フハ支那側ニ於テ承諾スルノ望ハ全然ナシ
トノ「ナリシニ付本官ハ輸出稅ヲ存置シ居ル國ハ世界中ニ
殆ソントナシ加之現在ノ税率ヨリモ多クノ輸出稅ヲ課スルコ
トノ意向無キハ屢貴方ノ説明セラレタル處ナリ就テハ右ノ
點ニ関シ何等力保障ヲ与フルノ方法ヲ考ヘラレ然ルヘシト
ノ旨ヲ以テ説得ニ努メタル處宋ハ「支那ハ貿易ニ故障トナ
ル有ラユルモノヲ除去スルニ努ムル意志ヲ有ス從テ輸出稅
ニ就テモ速ニ之ヲ廢止シタキ意嚮ナリ尚現行輸出稅率ハ之
ヲ「アジャスト」スル爲ニ改正スルノ意嚮ヲ有スルガ何レ
ニスルモ現実五分以上ニ上ス意嚮ナキコト」ヲ自分力説明
ヲナシタリ（約束スル「ヲ得ス」トノ「ヲ必要ノ向ニ述ヘ
ラル」コトハ差支ナシト述ヘ

269 昭和5年1月(25)日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

開港協定成立に際し宋財政部長が内地税全廢
に難色を示したるについて

上海 発
本省 1月25日前着

*
公第六二号
往電第五八号ニ開シ

廿四日午後ノ会合ニ於テ本官ヨリ貴電公第三号ノ一ノ條約
案中ニ第二条ニ於テ「支那ハ本條約實施ヨリ・・・・年間
ハ本條約附屬別表第一ニ掲ケラレタル關稅率ヲ右別表ニ掲
ケラレタル日本製品カ支那ニ輸入セラル場合ニ課セラル
ヘキ輸入稅率ノ最大限トシテ維持スヘキ事ヲ約ス」又第二
項トシテ日本モ同様ニ別表第二ニ掲ケラレタル品物ニ付同
様ノ約束ヲ爲ス「ノ趣旨ヲ掲ケ尚第四条ハ「三年間」ノ
「三」ヲ除キ「・・・・年間」トシ尚附屬別紙乙号モ右貴
電第二号ニ依リ然ルヘク補足シタル上以上ヲ英訳案文トシ
テ宋子文ニ提出シ右立案ハ大体之迄ノ話合ヲ條約文體ニシ
タル積ナリトテ各条文ニ付一通リノ説明ヲ加ヘタル後宋部

第二條、稅率協定ノ趣旨ニハ宋ハ異存ナキ旨ヲ述ヘ
第三條、釐金ニ付テハ交換公文ノ形ニ於テ客年一月ノ協定
ヲ「リファード」シ其ノ後支那ハ如何ナル實際的処置ヲ釐金
廢止ノ爲ニ執ラレタルカヲ質問セラレ支那側ニ於テ釐金ノ
廢止ハ本年十月十日迄ニ行フ爲ニ必要ノ措置ヲ執ル様ニ政
府ニ於テ財政部長ニ訓令ヲ發シタリトノ事實ヲ告ケテ釐金
廢止ノ手段ヲ執リツツアルコトヲ明カニスル「ト致度シ
(案文ヲ起草スヘシ)而シテ日本側提案ノ第三條ノ如キハ
之ヲ條文若クハ交換公文中ノ中ニ入ルル事ハ到底支那側ノ
事情之ヲ許サス右第三條ハ英國トノ條約ノ第二條ト同様ノ
趣旨ノモノナラハ異存ナシトノ趣旨ヲ述ヘタリ

右ニ對シ本官ハ右日本側提案第三條ハ何等主義ノ問題ヲ包
含スルモノニアラス各國間ニ普通約束サレ得ヘキモノニシ
テ單ニ相互主義ニヨリテ兩國ノ輸入品ニ對スル通過稅ノ免
除ヲ約スルニ止マリ相互ノ便宜ノ爲ニスル規定ニシテ日本
側ノ特ニ重キヲ置ク處ナリトノ趣旨ヲ以テ説得ニ努メタル
モ、宋ハ如何ニシテモ之ヲ承諾セス他國トノ條約ニ全然規
定ナキコトヲ日本トノ間ニ約束シテ均霑ヲ爲サシムルコト
トナルカ如キハ今日支那側ノ到底承認スルコトヲ得サル次

第ナリト答へ尚實際上自分ハ江蘇省ヲ中心トスル附近ノ數省ヨリハ漸次ニ釐金ノ撤廢方ヲ計畫シ居ル次第ナルモ奥地ニ於ケル撤廢ハ漸ヲ逐ヒテ中央政府ノ勢力増大ト共ニ之ヲ爲スノ外ナケレハ條約文中ニ斯ル規定ヲ入ルコトハ其ノ趣旨ハ兎モ角實際上支那側各機關ヲ通過スルコト能ハスト述ヘテ此ノ規定ノ到底承諾シ能ハサル「ヲ固執セリ」

第四條、宋ハ陸境開税ニ付テハ王正廷ニ於テ即時撤廢ヲ頑強ニ主張シ居ルヲ以テ自分一己トシテハ意見ヲ述フル事ヲ得ストノ趣旨ヲ述ヘタルニ付本官ハ此ノ規定モ主義トシテハ陸境開税ヲ止ムル事トナリ居レルモ單ニ本邦商人力經濟上ノ建直シヲ爲スノ必要上豫告期間ヲ置カントスルモノナルカ右豫告ハ一年以上數年ヲ要スル事ハ商賣ノ關係上當然ナラント思考スト述ヘタルニ宋ハ之ニ対シ此ノ點ハ大ナル

稅額ノ差ニモ非サレハ經濟上ノ困難ハ左程大ナラサルヘシ此ノ點ハ外交部長ト協議ヲ爲スヘキモ自分ハ三個月以上ノ豫告期間ハ困難ナラント考フト述ヘ居タリ

第五條、宋ハ大体異存ナキモ英國トノ條約ノ第二條ノ如キ規定トシタシト述ヘタリ

第六條、第七條、（堀内携行訳文ノ alternative ）「for

which」以下「are actually in course of negotiation」迄ノ字句ヲ態ト削除シタルモノヲ提出シ置ケリ）及第八條ニ付テハ宋ハ字句上ノ異論ハ別トシテ趣旨ニ於テ異議ナシト述ヘタリ

~~~~~

270 昭和5年1月25日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

閥税品目数の協定率据置期間延長を提示によ  
り交渉遲延の虞ある故現状の日中間意見相違

を前提に最終案回示方請訓

上海 本省 1月25日前着

\*  
公第六九号

貴電公第一四号ニ閑シ

今日迄支那側ニ於テ承諾シタル稅率協定ニ閑スル事項ニ付テハ支那側トシテハ形式上ハ出來得ル限り其ノ体面ヲ保持スルニ努メタル「勿論ナルカ實際ニ於テハ本邦貿易品ノ四割四分ヲ占ムル品物ノ協定ヲ提出其ノ稅率モ先方ノ引上ヲ認ムルモ從價一割程度ニ止マリ閑稅特別會議ノ經緯ニ鑑ミ

左迄高率トハ思ハレサルノミナラス協定品目以外ニ就テ近キ将来ニ於テ現行稅率ヲ非常ニ増加スル意志無ント言フモ右ハ協定品目トノ釣合上支那側トシテハ已ムヲ得サル義ナルヤニモ認メラル

兎モ角支那側カ假令北京政府時代ニ稅率ノ協定ニ付日本ト約束シ居タリトハ言ヒ乍ラ英國等カ非常ニ強ク之ヲ主張シ

タルニ（英國公使ハ過日会合ノ際ニモ頻リニ稅率協定ニ付支那側カ贊意ヲ表シタルヤ否ヤノ矣ヲ本官ニ聞キ居タルモ

本官ハ態ト話ハ其處迄進ミ居ラスト述ヘタル位ナリ）遂ニ

承諾ヲ与ヘサリシニモ不拘日本トノ間ニ於テ之追話カ進ミ

タル事ハ実ハ想像スル「能ハサリン処ト言ヒ得ヘク此点ハ充分ニ之ヲ考慮スルノ必要アルヘシ

然ルニ今日御來示ノ點ヲ再ヒ持出スニ於テハ交渉ノ進行ヲ遲延セシムルノミナラス或ハ宋子文ニ於テ自然本件交渉ヨ

リ手ヲ引クカ如キ態度ヲ執ラストモ限ラス他方今日ノ会合ニ於テハ往電公第六二号ニ依リ御承知ノ通輸出稅問題及釐

金ノ問題ニ付他國トノ條約以上ニ日本カ有利ナル地位ニ立ツヘキコトヲ承諾セシムル「ハ之又至難ノ」「ナルハ明カト

ナリタル次第ナリ右ノ如ク稅率協定ノ點輸出稅ノ點釐金ノ

271 昭和5年1月25日 幣原外務大臣より  
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

閥稅率交渉より綿糸統一稅問題の分離方訓令  
付記 一月十八日喜多（又歲田辺輝雄）両氏持參  
「綿製品統一稅ニ閑スル契約草案」

本省 1月25日後9時1分発

公第二號（極秘、至急）

貴電公第六五號ニ關シ

宋子文最初ノ提案ハ内國製綿糸ト輸入綿糸トヲ區別シ内國綿糸ニ對シテハ從價一割輸入綿糸ニ對シテハ輸入稅ノ外ニ從價五分ノ統一稅ヲ課スヘキコトヲ定メアル處（客年貴電公第一〇三〇號參照）其當時ニ於テ本大臣ハ船津其他在華紡績側代表者ニ對シ本件ニ關シ當業者限リノ私的契約ニ於

テ支那財政當局ト適當ニ妥結スルコトハ當業者側ノ勝手ニシテ本大臣ニ於テ異存ナキモ輸入税ニ關シテハ條約交渉ノ關係モアリ且本邦内地ノ紡績業者ノ利害ニ影響スルニ付在華紡績ノミニテ之ヲ自由ニ措置シ得ヘキ筋合ニアラサル所

以ヲ申聞ケ置キタル經緯アリ一月十八日喜多及田邊力義ノ大臣ノ注意ニ基キ作成シタリトテ通商局長ニ内示シタル在華紡績ト財政部長トノ契約案ニ付之ヲ見ルモ輸入品ニ關シテハ何等觸レ居ラサル次第ナリ。而シテ客年十二月宋子文ヨリ船津ニ提出セル統一税施行手續草案第七ニ依レハ宋子文ハ曩ノ提案ヲ覆シ税率ノ標準ヲ内國產ト輸入品トニ區別スルコトナク統一税率ハ兩者一率ニ之ヲ適用セラルヘキ旨ヲ規定シアリタルカ右提案ニ對シテハ固ヨリ我方ニ於テ未タ嘗テ何人ニモ承認ヲ與ヘタルコトナキ次第ニテ今日先方ニ於テ本件ハ既ニ我方ニ於テ諒解濟ナリトノ口吻ヲナスハ受ケ取り難キ次第ナルニ付テハ此點宋ニ於テ誤解ナキ様御取計アリ度。

尙今次成立セントスル關稅條約ニ於テ貴官提出ノ草案第三條採用セラレサル場合我方ハ從來ノ抵代稅制度ヲ維持スルコトトナルヘク右ニ依レハ抵代稅納附濟ノ輸入貨物ハ一切シ拂戻ヲナスベシ。

第五、甲ハ乙ノ便宜ノ爲メ本稅ヲ毎月末ニ支拂フコトヲ承諾ス、之レニヨリテ不法ナル二重課稅ヲ受ケタル場合拂戻ヲ便宜ナラシム、又甲ハ常ニ各地方ニ官吏ヲ派シ二重課稅ヲ阻止スル爲メ充分努力スベシ。

第六、統一稅ヲ支拂ヒタル綿糸ヨリ製造セラレタル綿布其他ノ製品ニ對シテハ右積荷ニ明記セル送先ニ到着セル場合甲ハ統一稅ヲ拂戻スベシ、右ノ場合海關ニテ徵收スル現行稅金ハ支拂フヲ要ス。

第九、外國輸出ノ綿糸并ニ綿布ニ對シテハ凡テ免稅トス、若シ支拂ヒタル場合ハ之ヲ拂戻スベシ、又統一稅支拂タル綿糸及ヒ統一稅支拂濟ミノ綿糸ニテ製造シタル綿布其他ノ製品ニ對シテハ右積荷ニ明記セル送先ニ到着セル場合ハ同ジク其原糸ニ課シタル稅ヲ拂戻スヘシ。

第十、本稅ハ本稅施行區域内ニ於テ經營者ノ國籍如何ニ拘ハラズ一律平等ニ之レヲ賦課シ何等差別的待遇ヲ爲サムモノトス。

萬一部ノ經營者ニ對シ直接又ハ間接ニ形式ノ如何ヲ問ハズ特別ノ保護獎勵金ノ支給或ハ賦課金ノ免除減額、又ハ拂戻等ノ特典ヲ與フル場合ハ乙モ一律之ニ均霑スルモノトス。

第七、本稅ハ最初左ノ地方ニ限り施行セラルベシ

セラレタル場合ハ甲ハ乙ニ對シ其ノ再課セシ稅金ヲ拂戻スベシ。

湖南、河北、山東、陝西、山西  
特別三地方 河南、廣東、廣西

テハ何等觸レ居ラサル次第ナリ。而シテ客年十二月宋子文ヨリ船津ニ提出セル統一税施行手續草案第七ニ依レハ宋子文ハ曩ノ提案ヲ覆シ税率ノ標準ヲ内國產ト輸入品トニ區別スルコトナク統一税率ハ兩者一率ニ之ヲ適用セラルヘキ旨ヲ規定シアリタルカ右提案ニ對シテハ固ヨリ我方ニ於テ未タ嘗テ何人ニモ承認ヲ與ヘタルコトナキ次第ニテ今日先方ニ於テ本件ハ既ニ我方ニ於テ諒解濟ナリトノ口吻ヲナスハ受ケ取り難キ次第ナルニ付テハ此點宋ニ於テ誤解ナキ様御取計アリ度。

尙今次成立セントスル關稅條約ニ於テ貴官提出ノ草案第三條採用セラレサル場合我方ハ從來ノ抵代稅制度ヲ維持スルコトトナルヘク右ニ依レハ抵代稅納附濟ノ輸入貨物ハ一切シ拂戻ヲナスベシ。

第五、甲ハ乙ノ便宜ノ爲メ本稅ヲ毎月末ニ支拂フコトヲ承諾ス、之レニヨリテ不法ナル二重課稅ヲ受ケタル場合拂戻ヲ便宜ナラシム、又甲ハ常ニ各地方ニ官吏ヲ派シ二重課稅ヲ阻止スル爲メ充分努力スベシ。

第六、統一稅ヲ支拂ヒタル綿糸ヨリ製造セラレタル綿布其他ノ製品ニ對シテハ右積荷ニ明記セル送先ニ到着セル場合甲ハ統一稅ヲ拂戻スベシ、右ノ場合海關ニテ徵收スル現行稅金ハ支拂フヲ要ス。

第九、外國輸出ノ綿糸并ニ綿布ニ對シテハ凡テ免稅トス、若シ支拂ヒタル場合ハ之ヲ拂戻スベシ、又統一稅支拂タル綿糸及ヒ統一稅支拂濟ミノ綿糸ニテ製造シタル綿布其他ノ製品ニ對シテハ右積荷ニ明記セル送先ニ到着セル場合ハ同ジク其原糸ニ課シタル稅ヲ拂戻スヘシ。

第十、本稅ハ本稅施行區域内ニ於テ經營者ノ國籍如何ニ拘ハラズ一律平等ニ之レヲ賦課シ何等差別的待遇ヲ爲サムモノトス。

萬一部ノ經營者ニ對シ直接又ハ間接ニ形式ノ如何ヲ問ハズ特別ノ保護獎勵金ノ支給或ハ賦課金ノ免除減額、又ハ拂戻等ノ特典ヲ與フル場合ハ乙モ一律之ニ均霑スルモノトス。

第七、本稅ハ最初左ノ地方ニ限り施行セラルベシ

セラレタル場合ハ甲ハ乙ニ對シ其ノ再課セシ稅金ヲ拂戻スベシ。

湖南、河北、山東、陝西、山西  
特別三地方 河南、廣東、廣西

#### (付 記)

##### 綿製品統一税ニ關スル契約草案

支那政府（以下甲ト稱ス）ト在華紡績同業會々員（以下乙ト稱ス）トノ間ニ綿製品統一税ニ關シ左記ノ通り契約ス第一、乙ハ乙ノ生產スル綿糸及綿布ノ原糸ニ對シ左記ノ率ニ依リ甲ニ統一税ヲ支拂フ

綿糸 一捆（四拾玉）ニ付 海關兩 ○兩〇〇  
第二、綿糸及綿布ニ對スル特別生產稅（現行單一稅）并ニ手織綿布ニ對スル關稅ハ之ヲ免除ス

第三、第一項ノ統一稅ハ乙ノ其工場ニ於テ製造セル綿糸并ニ綿布ガ工場ヨリ搬出セラルヘ迄ハ本稅ヲ支拂フヲ要セズ賣買ニ在ラズシテ他ノ倉庫ニ保管セラルヘ場合又

ノ内地稅ヲ免除セラルヘキカ故ニ實際問題ハ別トシ内地稅タル統一稅問題ノ條約上ノ解決ハ之ヲ將來ノ交渉ニ讓ルノ外ナカルヘク又統一稅問題ヲ關稅交渉中考慮ニ入ルコトハ問題ヲ紛糾セシムル虞アリ旁々貴官ハ此際本問題ニ深入リスルコトハ之ヲ避ケ單ニ綿糸ニ關スル輸入稅率問題ノミヲ決定スルコトニ留メ置カレ度シ

第十一、本契約ノ有效期間ヲ實施ノ日ヨリ五ヶ年トシ期限満了後ハ再ヒ協定ス

(欄外記入)

一月十八日喜多、田辺両氏持參

\*\*  
公第七五号

上 海 癸 本省 1月26日前着

編注『日本外交文書』昭和期I第一部第三卷677文書別電

参照。

272 昭和5年1月(26)日 在中国重光臨時代理公使より 币原外務大臣宛(電報)

関税協定案文に関する宋・重光会談で宋財政部長が釐金沿岸貿易税等の廃止に同意について

別電一 一月二十六日着在中国重光臨時代理公使よ

り幣原外務大臣宛公第七六号

関税税率に関する合意案

二 一月二十六日着在中国重光臨時代理公使よ  
り幣原外務大臣宛公第七七号

釐金廃止に伴う交換公文案(1)

三 一月二十六日着在中国重光臨時代理公使よ

第一條、第一項ニ付テハ宋ハ米支條約ノ如キ形トシ貰ヒタキ旨ヲ固執セリ第二項ニ付テハ本官ヨリ右ハ特ニ支那ノ經濟及貿易上ノ利益ヨリ考ヘルモ又日支貿易關係ヲ盛ニスル點ヨリ見ルモ日本ノ甚タ重キヲ置ク點ニシテ佐分利公使モ右ハ是非トモ実現シタシトノ固キ主張ヲ持チ居ラレタル次第ナルカ此前ヨリ度々説明セラレタル處ニ依レハ支那側モ輸出税ノ廢止又ハ税率ノ増加ヲナササル意向ナル趣ニ付之ヲ何等カノ形ニテ声明サル位ノ事ハ出来得ヘキ様思ハルトテ各方面ヨリ説キタルカ宋ハ輸出税ハ一般經濟界ニモ甚タ不評判ナレハ之力撤廢ハ支那自分ノ爲ニモ必要ナル」勿論ニテ支那政府トシテモスル貿易上ノ障害ヲ除ク爲力ノ

及ブ限り努力シタキ意向ナリ唯釐金廢止ハ目下ノ急務ニシテ其ノ爲ニハ多額ノ收入ヲ失フ結果トナリ財政上ノ困難甚シキニ付右ト同時ニ輸出税迄ヲ撤廢スルコトハ不可能ナリ依ツテ先第一ニ沿岸貿易税ヲ撤廢シ釐金ハ十月十日ヲ期シテ出来得ル限り廣キ地域ニ於テ之力除去ニ力ムル考ナリ自分ノ見ル所ニテハ上海ヲ中心トスル十二省ニハ大凡之力実現ヲ爲シ得ヘク其ノ場合ニハ右ガ輿論トナリ他省ニモ事実

上之ヲ押シ及ホス事トナルヘシ尚釐金ノ次ニハ時期ヲ見計ヒ輸出税ヲ撤廢スルコトトナリ居レリ乍併今直ニ輸出税ヲ撤廢スルコトノ財政上不可能ナルハ初ヨリ御話シタル通りナリ又輸出税ノ増加モ税率ヲ「アジャスト」スル爲ニ之ヲナス「ハアルヘキモ現実五分以上ニ上ス意向ハナシ但シ斯カル矣ヲ書モノトスル」ハ政府ノ面目上到底不可能ナリトテ讓ラス

第二條、宋ハ大体ニ於テ我方案文ニ異存ナシト述ヘ(右ハ別電第七六号ノ通)但シ支那側ノ税率拘束ニ付テハ自分等ノ多大ノ讓歩ニ依リ話合付キタルモノト思ヒ居ルカ支那側ヨリ日本側ニ要求シ居ル三種ノ税率ニ付テハ如何ニナリ居ルヤト尋不タルニ付右ニ対シ本官ハ外務省ニ於テハ精々支

取極ハ秘密文書ニシテ右ニ付テハ芳沢公使ヨリ公表方ヲ頻ニ請求サレタル事アルモ支那ハ面目上之ヲ承諾セサリシ次第ナル處今日ト虽モ右ハ同様ナレハ該文書ノ効力カ存續スルハ勿論ナルモ之ヲ「リファード」シタル文書ヲ交換スルコ

トヲ得スト述へ居タリ更ニ宋ハ本官ノ再三述へタル主張ニ

対シ本問題ニ付我方案文第三條ノ規定ノ如キ趣旨ヲ容ルル  
「ハ事実到底不可能ナル旨ヲ繰シ中央政府トシテモ出来得  
ル丈政局ヲ安定セシメ釐金撤廢ノ範囲及実行ヲ広クシ度意  
向ナルカ實際上廢止シ得サルカ如キ地方モアリ得ストハ言  
ヒ難クスル状況ノ下ニ釐金ヲ課セントスル約束ハ中央政府

トシテ到底爲シ難シトテ第三條案文ノ趣旨ヲ附屬文書中ニ  
入ルル事ハ如何ニシテモ承認セス尚其際宋ハ此ノ前矢田氏  
トノ話合ニ於テハ單ニ釐金トアリテ沿岸貿易税ノ事ハナシ  
然ルニ今回之ヲ拡張シテ沿岸貿易税迄ヲ含ム内地税トスル  
コトニハ承諾出来スト言ヒタルニ付本官ハ英支條約附屬交  
換文中ニハ釐金ノ外常關稅及沿岸貿易税ヲモ掲ケ居ルニ非  
セヤト述ヘタルニ宋ハ右條文ヲ見テ英國ニ許シタルモノヲ  
日本ニ対シテ約束シ得サル譯無キニ付右ト同程度ノモノナ  
ラハ自分モ承諾シテ差支ナシト答ヘタリ

第四條、本官ヨリ陸境關稅ノ問題ニ付テハ經濟上ノ立直シ  
及朝鮮總督府鐵道收入減ニヨル豫算變更上其ノ他滿鮮國境  
力其ノ他ノ國境ト異リ特ニ重要ナル次第等ヲ述ヘテ種々説  
得ニ努メタル上少クトモ一年ノ豫告期間ヲ要スルコトヲ強  
調リ返シ述へ居タリ

ク主張シタル力

宋ハ結局自分トシテハ異議ナキモ實ハ此ノ點ニ付テハ外交  
部長ノ態度甚タ強硬ナレハ自分一己ノ力テハ如何トモナン  
難シト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ外交部長ノ説得ニ力ムルコ  
トヲ依頼シ置キタルカ此ノ點ハ極メテ難観ナリト述へ居タ  
リト見受ケラル尚宋ハ何ニスルモ本取極トハ附屬文書ノ  
形トスルコトヲ希望シ居タリ又貴電第一五号佛支國境關係  
ニ付テハ宋ハ先ニ佛國側ニ對シ通告シタル公文通り現在実  
行セラレ居ル旨ヲ述ヘタリ

第五條、宋ハ之モ米支其ノ他ノ條約ノ側ニ做ヒ度キ事ヲ頻  
リニ主張シタルカ本官ヨリ本條文ノ規定ハ極メテ明白ナル  
書方ニテ之ヲ維持スル方可ナル旨ヲ説キ宋ヲシテ大体我方  
案文ニ依リ研究スルコトヲ承諾セシメタリ

第六條ニ付テモ宋ハ米支條約ノ如キ形トシタキ旨ヲ頻リニ  
述へ居タリ

第七條、宋ハ日本側ニ於テ希望サルルニ於テハ之ヲ削除ス  
ルニ異存ナシト述へ居タリ（關稅取極引キ離シ締結ノ上ハ  
本條ハ無キ方宜シカルヘシ御意見アリヤ大至急御回示ヲ請  
フ）

「ハ事実到底不可能ナル旨ヲ繰シ中央政府トシテモ出来得  
ル丈政局ヲ安定セシメ釐金撤廢ノ範囲及実行ヲ広クシ度意  
向ナルカ實際上廢止シ得サルカ如キ地方モアリ得ストハ言  
ヒ難クスル状況ノ下ニ釐金ヲ課セントスル約束ハ中央政府  
トシテ到底爲シ難シトテ第三條案文ノ趣旨ヲ附屬文書中ニ  
入ルル事ハ如何ニシテモ承認セス尚其際宋ハ此ノ前矢田氏  
トノ話合ニ於テハ單ニ釐金トアリテ沿岸貿易税ノ事ハナシ  
然ルニ今回之ヲ拡張シテ沿岸貿易税迄ヲ含ム内地税トスル  
コトニハ承諾出来スト言ヒタルニ付本官ハ英支條約附屬交  
換文中ニハ釐金ノ外常關稅及沿岸貿易税ヲモ掲ケ居ルニ非  
セヤト述ヘタルニ宋ハ右條文ヲ見テ英國ニ許シタルモノヲ  
日本ニ対シテ約束シ得サル譯無キニ付右ト同程度ノモノナ  
ラハ自分モ承諾シテ差支ナシト答ヘタリ

第八條ノ效力發生期間ニ付テハ宋ハ往電第六七号ノ趣旨ヲ  
繰リ返シ述へ居タリ

(另電 I)

Shanghai.

Received, Jan. 26th a.m., 1930

Gaimudaijin. Tokio.

Shigemitsu.

Article 2.

China engages to maintain for the period of . . . years

from the date of enforcement of the present Treaty, the  
rates of duties which are enumerated in Part 1 of the  
Schedule annexed to the present Treaty as the maximum  
rate of Duties of her Import Tariff leviable on articles  
produced or manufactured in the territories of China  
and imported into the territories of Japan, as they are  
enumerated in the said Schedule.

(另電 II)

Shanghai.

Received. Jan. 26th a.m., 1930

Gaimudaijin, Tokio.

Koo No. 77(Urgent Gokuh)

January 25, 1930.

Monsieur le Minister

Present

Your Excellency:

With reference to announcements in the past of  
the Chinese Government to abolish likin, I have honour

to inquire if the Chinese Government has taken any measures to put it into effect at an early date.

I avail myself.

Your obedient servant.

Shigemitsu.

(電報)

Shanghai.

Received Jan. 26th a.m., 1930

Gaimudaijin, Tokio.

Ko. No. 78(Urgent Gokuh)

January 25, 1930.

Monsieur le Charge d' Affaires

We sent

Your Excellency:

I have the honour to acknowledge the receipt of your Excellency's note today's date and wish to inform you that on January 15th, 1930, the National High Contracting Powers issued a mandate ordering the abolition

of likin on the 10th of October 1930, and instructed the Minister of Finance to take all measures for carrying into effect the aforesaid decision.

I avail myself, your obedient servant.

Shigemitsu.

~~~~~

273 昭和5年1月26日 準原外務大臣より在中国重光代理公使宛第三号

別電 一月二十六日発幣原外務大臣より在中国重光代理公使宛公第三号

關稅條約の急速妥結方語令

我が方關稅交渉方針

本省 1月26日後10時10分発

*公第三〇號

貴電公第七五号及公第八一号ニ関シ

此際關稅條約ヲ引離シ成ル可ク急速妥結ニ達スル様措置方我方ニ於テモ希望スル所ナルニ付大体別電公第三一号ノ趣旨ニテ宋トノ話ヲ取纏方此上トモ精々御尽力アリタシ

(別電)

本省 1月26日後10時30分発

*^八第三一一号

一、税率協定ノ期間ハ三年ニテハ如何ニモ短キニ過ケルノ

ニテナラス關係者トノ議ヲ纏ムル關係モアルニ付宋ニ於テ飽ク迫我方ノ希望ヲ容レサルニ於テハ意見ヲ留保シ置カレ度シ

二、協定品目中先方ノ二分五厘引上要求ハ全部カラ容認セラレ差支ナシ

三、我方條約案第一條第一項ハ宋ノ要求通り米支條約第一條ノ形式ニ拠ラレ差支ナシ、尤モ順稅及最惠國待遇ニ關スル矣ハ之ヲ除キ置キタシ

四、第一条第二項輸出稅問題ニ關シ我方ノ重要視スル所ハ往電公第一二号(四)ノ通ナルニ付^二輸出稅ヲ成ルヘク速ニ廢止スルノ意響アルコト及^二右廢止ニ至ル迫ハ現実五分以上ノ増率ヲ爲ス意響ナキコトヲ成ル可クハ^一ハ支那側ノ一方的聲明^二ハ交換公文(公表セサルモノ^二スルモ宜シ)ニテ取付ケ置キ度キモ不可能ナラハ^二共何等カノ秘密文書ノ形式ニテモ差支ナシ

五、第二條ハ往電公第一二三号ノ趣旨ヲ以テ我方トシテモ貴電公第七六号ノ通リニテ異存ナン(「レダクシヨン」)ハ問題ハ別ナル「爲念留保シ置カレタシ」

六、第三條釐金廢止ノ問題ハ全部附屬文書トシ貴電公第七七号及公第七八号ノ交換公文趣旨モ異存ナシ但シ右交換公文ハ公表セサル「トスルモ差支ナキニ付少クトモ釐金廢止ニ至ル迄ハ二分五厘抵代稅制度ノ現狀維持ヲ何等カノ形ニテ右公文ニ附加スル様致度シ

七、常關稅及沿岸貿易稅ノ廢止ニ關スル規定ヲ設クル我方主張ハ此際拠棄スルモ差支ナシ

八、第四條陸境關稅ニ付テハ一年豫告期間ニテ満足シ交換公文ニテ解決差支ナシ尚在京佛國代理^(アヤ)大使ノ内話リヨレハ安南國境ノ特惠稅率今尚存續スル趣ナル力果シテ然リトセハ滿鮮陸境稅廢止後モ右佛國側特惠ノ廢止セラレサル限り我國モ之ニ均霑シ得ヘキ次第ナリ此ノ點宋ノ所言ト相違スルモ爲念

九、第五條ハ貴見ノ通り今後モ之ヲ維持セラレタシ

一〇、第六條ハ米支條約第一条第一項ノ例ニヨリ差支無シ^二、第七條及第八条ハ既ニ電報ノ通り

(欄外記入)
支那側ノ海關金建公布ニ對シテハ我方トシテハ現行通商条
款第三五号

約殊ニ追加條約第六條ノ規定並芳沢王間ノ現状維持ニ関ス
ル諒解違反ヲ指摘スルヲ得ヘク之ヲ實質問題トシテ見ルモ

支那側要求ノ三種ノ税率ニ付テハ官稅官廳ノ議未タ
纏ラス且支那側ノ希望ニ応スル爲ニハ結局閣議ノ決定
ヲ要スルモノナルニ付回答ハ多少遲延スヘシ
右御含置アリタシ

274 昭和5年1月26日 在中國重光臨時代理(公使)より
幣原外務大臣宛(電報)

旧正月まで宋子文との交渉纏らねば協定税率
白紙化の惧れある故現状での妥協方意見具申

公第八一号 極秘

廿五日会見ノ結果ハ大体別ニ電報セル通りナルガ其ノ際ニ

宋ハ

若シ充分妥結ノ見込ナクバ旧正月後ニ談ヲ再開スベシ

ト云ヒ出シタルガ

本官ハ

兎モ角廿七日月曜日ニ更ニ會合シテ從來話シ合ヒタル點

ヲ整理シ見ルコト可然

ト述べ之ニ全意セシメ置ケリ

右様ノ狀況ニテ若シ話ヲ纏ムルナレバ旧正月前ニ纏メ之ヲ

昭和5年1月27日 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

本省 1月27日前

〔支那開税金建問題対策方針案〕

本省 1月27日後8時発

海關金單位制の導入は現行條約に違反の嫌い
あるも開税協定交渉に資するため默認方訓令
付記 一月付

275 昭和5年1月27日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

編注 本文書は憲政記念館所蔵『重光葵関係文書』より採
録した。

新國定税率の導入は七月一日公布とし釐金の廢
止と同時に十月十日実施との新聞報道について

南京 発
本省 1月27日前

第九二號
廿六日ノ各新聞ハ稅則委員會ニ於テ起草セル新國定税率草
案ハ今同ノ關稅金建徵收ニ依リ其ノ稅額ヲ金本位ニ變更ス
ル必要アル處之ニハ少カラス時日ヲ要スルヲ以テ新税率ハ
來ル七月一日公布シ十月十日釐金撤廢ト同時ニ實施スルコ
トトナルヘキ旨報道シ居レリ御参考迄
北平、上海、奉天へ轉電セリ
.....

昭和5年1月27日 在中國重光臨時代理公使宛(電報)

支那側ノ海關金建公布ニ對シテハ我方トシテハ現行通商条
款第三五号

約殊ニ追加條約第六條ノ規定並芳沢王間ノ現状維持ニ關ス
ル諒解違反ヲ指摘スルヲ得ヘク之ヲ實質問題トシテ見ルモ

外交委員會ヲ通過セシメ置クコト必要ニシテ然ラズンバ
或ハ又協定税率ノ問題ハヤ釜敷ナリ從来纏マリタル部分適
モ壞ハルルコトナキヲ保セサルノミナラズ開稅條約丈ヲ引
離シテ締結セントスル根本ノ點ニモ破端ヲ生スルヤモ知レ
ズ
就テハ此際大局ニ鑑ミテ不満足乍ラ此程度ニテ折合フコト
得策ニアラズヤト思考セラル_(字分アキ)乍然若シ反對ノ御意見ナル
ニ於テハ大至急御回訓願度ク然ル場合ニハ月曜日ノ會合ハ
取り止メト致スベシ

支那側ノ海關金建公布ニ對シテ本問題ノ自然的解決ヲ計ルコト
ト適當ト認メラルニ付テハ貴官ハ支那側ニ對シ本件実施
ニ付テハ我方ノ正式承認ヲ要スル儀ト認ムルモ右措置ハ支
那側ニ於テ銀暴落ニ伴フ財政上ノ缺陷ヲ補填スルノ必要ニ
主權承認ノ當然ノ結果トシテ本問題ノ自然的解決ヲ計ルコ
ト適當ト認メラルニ付テハ貴官ハ支那側ニ對シ本件実施
ニ付テハ我方ノ正式承認ヲ要スル儀ト認ムルモ右措置ハ支
那側ニ於テ銀暴落ニ伴フ財政上ノ缺陷ヲ補填スルノ必要ニ

出テタルニ外ナラズト解セラレ且開税条約モ近ク成立スヘキガ故ニ此際ハ支那各地ニ於テ抗議等ノ措置ニ出ツルコトヲ差控ヘオル次第ナル旨説明セラレ以テ開税条約^(約)締結ノ促進及出来得ヘクムバ我方主張達成ノ具ニ利用セラル、コト致度シ、

尤モ三月十五日迄ハ金建実行ノ影響輕微ナル事ニモアリ本問題ノ爲特ニ條約問題ノ解決ヲ急ク必要ハ無之ニ付右爲念申添フ

南京ニ転電アリタシ

(欄外記入)

大藏省ニテハ開税增收ノ一部ヲ債務整理ニ充当セシメタキ意図ナルモ右ハ別途解決可然カト存ズ亞細亞局長ノ御裁可ニ依リ度、

(付 記)

(欄外記入)

支那關稅金建問題對策方針案
一、支那側ニ於テ一方のニ金建ヲ强行スルコトハ形式論トシテ明力ニ現行條約殊ニ追加條約第六條ノ規定ニ違反

ヨリ見テ妥當ラストノ議論アラムモ形式論トシテハ條約ノ明文ニハ必スンモ抵觸スト云フヘカラス等ノ見解モ立チ得ヘク形式論トシテハ水掛論ニ終ルナキヲ保シ難シ殊ニ英米佛等諸關係國ハ何レモ已ニ條約ヲ以テ關稅自主權ヲ承認シ其條約中ノ最惠國條項ヲ活用セムトスル意図モ最早之ナキモノノ如ク察セラルル今日我邦ノミノ條約論又ハ現狀維持論ハ效果甚タ乏シキ憾アリ

二、更ニ實質論ヨリセハ

(イ)金建ハ必ラスシモ日支經濟關係ニ惡影響アリトハ断シ難シ素ヨリ三月十五日以後一海關兩三對シ一、七五金孫兩比率ヲ以テセハ我對支輸出品ノ負擔增加約二割内外(現在ノ銀相場ヨリ推算シ)ナルハ數字ノ明示スル所ニシテ又從テ支那ノ物價ニモ惡影響シテ那ノ購買力ニモ望マシカラヌ影響アルヘキヲ豫想セラレサルニアラス從テ我對支輸出貿易ノ減退ヲ招致スヘシトノ觀察モ道理アル見方ナルモ輸出品ノ負擔増加ハ事實ニ於テハ我輸出業者ノミノ負擔ニアラス支那商人及消費者ノ負擔トナル場合モ少ナカラサル

スルノミナラス芳澤王間ノ諒解事項タル新條約完成迄現狀維持ヲ爲スヘシトノ諒解ニモ反ストノ意味ニテ強硬ナル抗議ヲ爲ス論據アリ然レトモ

(一)金建ハ開税徵收方法ノ變更ニシテ稅率ヲ變更スルモノニアラス金建後ト雖モ從來ノ海關兩ヲ以テ明示ラレタル稅率ハ依然トシテ存スル次第ナリ由來支那ニハ海關兩ナル現實ノ貨幣ナク關稅ノ支拂ニハ海關兩ト一定ノ比率ヲ有セル上海兩等ヲ時價ニ換算使用シオリタリ

(二)追加條約第六條ニハ「關稅ハ海關兩ヲ基礎トシテ計算シ且支拂ハルヘキ旨」ヲ規定シオル處金建モ海關兩ヲ基礎トシテ之ト一定比率ヲ有スル金孫兩ヲ創設シ之ト現實ニ使用スル銀兩トノ比率ヲ定ムルニ過キス

(三)納稅額カ金建後金建前ニ比シ増額セラル結果ノミヲ以テ條約違反ノ論據トハ爲シ難シ金建以前ト雖モ稅率ハ同一ニシテ而モ納稅額ハ銀貨ノ騰落ニ依リテ常ニ増減セラレタル事實アリ唯金建ナル人爲的原因ヲ支那側ニ依リテ作ルコト條約ノ精神論又ハ實質論ヲ得ス

(ロ)金建ハ結局金本位制採用ノ一前提トモ見ルヲ得ヘクヘク又我對支貿易モ一時の減退ヲ免レストスルモ金建ニ依ル取引安定ノ利益確立スル場合ハ漸次回復スト見ルヲ至當トスヘシ故ニ二割内外ノ負擔增加ヲ以テ我對支貿易上ノ脅威的影響ヲ云爲スルハ少クモ當望マシキモ其實行ハ未タ容易ノ業ニアラサル今日ニ於テハ關稅上ノ金建ノ如キモ運用宜シキヲ得ルニ於テハ我邦トシテ必ラスシモ實質的ニ反對スヘキ性質ノモノニアラス尤モ未タ金本位制ヲ採用セスシテ關稅ノ計算ニノミ金建トスルコトハ不合理ニ相違ナキモ銀暴落テフ一種ノ不可抗力的ノ今日ノ事態ニ於テ支那側ノ財政ノ安固ヲ期スルト共ニ外債支拂ノ擔保財源ヲ豊ナラシムル趣旨ニ依ル應急ノ便法トシテハ支那側トシテモ不得己立場ナルコトハ何人モ之ヲ容認スルニ難カラサルヘシ、殊ニ支那側ニテモ貿易關係ノ影響ヲ顧慮シ二月一日以後ト三月十五日以後トニ分チテ標準ヲ採リタルノミナラス現行稅率公布當

時ニ於ケル稅額即從量稅ト從價稅トノ元來ノ關係ヲ
恢復スル方針ノ下ニ金建ヲ取扱ハムトスル趣ナルヲ
以テ支那トシテモ金建ノ一事ハ他ノ場合ニ見ル如キ
横車的措置ニハアラスト認メラル節少ナカラス
三、依之觀是我方トシテハ金建ヲ真向ヨリ條約違反トシテ
抗爭スルヨリモ銀暴落ノ事態ニ直面シタル支那ノ現狀
及其立場ニ好意的考慮ヲ拂ヒテ之ヲ善導スルニ努ムル
ト共ニ之ヲ關稅條約ノ締結交渉ニ利用スルヲ此際トシ
テハ策ノ得タルモノト信ゼラル

四、正式ニ金建ヲ承認スル爲公文ノ交換ヲ爲スヘシトハ條
約論、現狀維持ノ諒解ノ手前モアリ支那側ニ異存ナク
バ其實行ハ我方トシテハ合理的ナルモ二月一日迄ニハ
到底間ニ合ハズ左リトテ支那ヲシテ金建實施ヲ延期セ
シムルモ困難ナルヘク又正式ノ交換公文ニ依ラズ非公
式ニ之ヲ承認スルノ意見表示ヲ爲スコトハ支那ニ對シ
テハ益々其ノ一方的措置ヲ獎勵スルノ結果トナリ我方
ノ立場ヲ弱クスル虞アルノミナラズ我國內關係上他日
樞密院其他ニ對スル説明ニ困難スル事情モアルヘシ故
ニ此際ハ金建ニ對シテハ彼我ノ條約關係ヲ支那側ニ一

五、右ノ意味ニ於テ重光代理公使ヲシテ適宜支那側ヲ誘導
シ關稅條約締結ノ際公文交換其他ノ方法ニ依リ金建實
行ニ伴フ我方ノ希望事項例ヘバ「金^{チカツ}兩ト現實貨幣ノ比
率ヲ三日前ニ海關ニ於テ告示スルニ當リ海關ニ於テ公
平妥當ナル標準ヲ明示スヘキ旨等ヲ確約セシムルヲ得
バ頗ル妙ナリト思考ス

六、何故ニ嚴重ニ抗議シテ阻止セサリシヤトノ批難アリト
セバ前記一ノ(一)(三)ヲ說明スルト共ニ支那側ニ於テ金
建ヲ規定スルコト迄關稅自主權ヲ拘束スルコトハ現下
ノ日支關係ノ大局上最早不適當ト認メラル旨並日支
經濟關係ヨリ云フモ金建其モノガ商取引ノ安定ニ資ス
ルコトアルハ勿論更ニ金建ヨリ漸次關係諸國ノ希望ス
ル幣制改革ノ機運ヲ作ルコトハ獎勵スヘキコトニシテ
又政策上ヨリモ關稅條約交渉中ニモアリ支那ヲ善導ス
ル意味ニ於テ嚴重ナル形式論ニ拘泥セサルヲ適當ト認

メラルル旨ヲ釋明セバ事足ルヘシト思考ス
(欄外記入)

大臣ニハ同文ヲ提出シオキタリ 武富

277 昭和5年1月28日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

開税協定に対する王外交部長の反対点につき

宋子文談話について

本省 1月28日前着 上海 発

廿七日午後宋部長ト会見ス
公第八八號

宋部長ハ先ツ王外交部長カ半日許リ上海ニ来リ居リタルニ
付其機會ニ会談シテ從來ノ談合ノ結果ヲ相談シタルカ王正
廷ハ稅率ノ協定ニ關シテハ二點ニ付意見ヲ述ヘタリ第一点
ハ協定夫レ自身ヲ條約ノ條文ニ掲クルコトニ反対ニシテ斯
ル取極ハ寧ロ交換公文等ノ形式トシ条文以外ノモノトシタ
シトノコトニテ又第二點ハ稅率ノ協定ヲ秘密取極トシタシ

トノコトナリ何トナレハ若シ之ヲ公ニスル場合ニハ他國モ
直ニ同様ノ要求ヲ爲ヘキニ付贊成スルヲ得スト云フニアリ
又陸境關稅ノ問題ニ付テハ王ハ即時撤廃ノ主張ヲ固持シ居
タルカ自分ハ佛蘭ニ對スル同様ノ取扱ヲ日本ニ對シ与ヘ
ラレサル訳ナシト述ヘ夫レナラハ三ヶ月タケハ承諾スヘシ
トノコトトナレリ

斯様ノ状況ナラハ貴下(本官)ハ南京ニ赴カレ自分ト共ニ
王部長ニ話サルルコト然ルヘシト述ヘタリ(王部長ニ於テ
異存アルコトハ既ニ本日午前中ニ間接ノ方法ニテ聞知シ居
タリ)

右ニ対シ本官ハ頗ル以外ノ事ナリ貴下カ外交部長ト密接ナ
ル聯絡ヲ執リテ自分ト交渉サレ居ルコトハ貴下ノ説明ニヨ
リテモ之迄度々承知シ居ル処アリ

且又上村南京領事ノ報告ニ依リテモ良ク其ノ間ノ事情ヲ明
カニシ居ル次第ナリ(二十五日本官ハ上村ニ対シ電話ニテ
特ニ周龍光ヲ通ジ外交部ノ方ヨリ適當ノ人ヲ上海ニ派遣シ
條約ノ起草其ノ他ニ参加セシムルコト適當ナルヘキ旨ヲ外
交部長ニ通シ置キタルカ周ハ王部長ハ本交渉進行ノコトハ
萬事承知シ居ル次第ナレハ其辺ハ何等心配ナク特二人ヲ派

遣スル迄ノコトハナカルヘシトテ交渉ノ進行ニ満足シ居ル由ヲ述ヘ居タル旨廿六日上村來滬報告ス)

又王部長トノ聯絡ハ貴方ニ於テ特ニ注意サルル様自分ヨリモ御願シ置キタル次第ナリ然ルニ今大体ノ案定マリタル後

ニ斯ル相当根本的ノ問題ニ付異論アルニ於テハ総テノ問題

ヲ逆転スルニ至ルモノト云フヘク元来我方ニ対シ税率ノ協

定ヲ北平ニ於テ約束シタルハ王部長其ノ人ニシテ(本日会

合ノ後大正十五年一月芳沢、王交換公文邦文寫シ及王正廷

來翰訳文(當方作成)ヲ宋ニ送付シ置ケリ)今日之ニ対シ

王部長ヨリ異議アル筈ハナキ訳ナリト思フ尙ホ自分ハ開税

ニ関スル條約ヲ成立セシムル爲ニハ非常ナル努力ヲ拂ヒ居

ルカ右ハ日支ノ中ノ何レノ一方ノ爲ト云フニ非ス御承知ノ

通此ノ問題ヲ解決スル事ハ總テノ問題ノ先決問題トナリ居

レル譯ニシテ税率ノ問題ニ付テ云フモ國定税率実施ハ別ト

スルモ例ヘハ金建ノ問題ノ如キモ全ク條約違反行為ナレハ

スル不愉快ナル問題ノ發生ヲ避ケル爲能フヘクンハ二月一

日前ニ調印丈ニテモ濟マシ空氣ヲ轉換スル必要ニ迫ラレ居

ル次第ニテ右ハ日支双方ノ關係ヲ考慮スル者ノ當然採ルヘ

キ途ナリト思考ス然ルニ今日提案スル自分ノ案ハ支那側ノ

ノ色ヲ示シ頻リニ事情ヲ訴ヘタリ尚税率ノ協定ヲ秘密ニス

ルノ不可能ニシテ且不得策ナル「ニハ同感ナレハ充分王部

長ノ説得ニ努ムヘシ乍併其ノ形式ヲ交換公文ニスルモ條約

上ノ効力ニ付テハ變リナシト思フカ其ノ點ニ付異論アリヤ

ト問ヒタルニ付本官ハ既ニ之モ定マリタル問題ニシテ其ノ

點ニ付変更ヲ加フルカ如キハ到底日本政府ノ承諾スル処ニ

非ルヘシ何レニスルモ以上述ヘタル諸矣(協定税率据置年限)ニ付テハ日本政府ニ於テ固キ主張ヲ有シ居ル「ヲ御承

知アリタシト述へ置ケリ

ノシモノノ内重要ノ點ハ(一)協定税率ノ期間ノ問題(二)其ノ規定ノ形式ノ問題(三)陸境關稅ノ據置期間ノ問題ニシテ主張ノ差異アル瑣末點(一)第一條頓稅除外ノ點(二)第二條附屬書ノ終リニ於ケル綿糸ノ統一稅ニ關スル支那側ノ留保(三)右附屬書ノ從量稅ニ關スル第二項削除ノ件(四)往電公第九〇號支那側返翰中ノ沿岸貿易稅ニ關スル一項削除ノ件ノ四點ニ歸着スルコトトナリタルコトヲ互ニ承認シ之等ノ點ニ付双方ノ政

府意見一致スレハ本條約モ無事ニ成立スル譯ナリトノコトトナレリ宋部長ハ廿七日夜行ニテ南京ニ赴キ明廿八日晚

特別ノ外交委員會ノ開催ヲ請ヒ前記諸點ニ就キ附議シ貰ヒ

タル上直ニ同日ノ夜行ニテ來滬シ更ニ本官ト打合セヲ爲ス

コトトナリ又張福運ハ上海ニ留リ日本側専門家ト支那側ノ

要求スル税率ニ付協議ヲ爲スコトトナレリ

本官ハ宋子文ノ態度非常ニ穩(健)ナルニ反シ王正廷ニ於

テ相當強キ故障アルコトヲ充分ニ看取シ尙南京政府部内ニ

於テモ相當ノ困難アルヘキヲ豫期シタルヲ以テ本日別ルル

ニ臨ミ更ニ關稅條約ヲ纏ムルコトカ日支ノ爲ニ如何ニ必要

ナルカラ力說シ其ノ爲ニハ此ノ際反對ヲ押切リテ責任ヲ執

ルコトカ政治家ノスヘキコトナル旨ヲ說キ支那側ノ自主權

278 昭和5年1月28日 在中國重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛(電報)

開税協定をめぐる日中間の相違点に關し宋財

政部長と確認について

上海 発

本省 1月28日後着

公第九一號(大至急、極秘)

廿七日ノ會合ノ終リニ於テ双方トモ兎モ角モ意見ノ合致セサル點カ非常ニ少ナクナレルコトヲ喜ヒテ結局右合致セサ

希望ヲ出来得ル丈容レタルモノニシテ又日本政府トシテハ承認シ得ル最後ノ案ナリ是迄ニ東京ヲシテ讓歩セシムルニハ自分等ノ努力ハ相當大ナルモノアリタルナリ之ニ対シ重大ナル変更ヲ加フルト云フ事ナラハ此ノ上日本政府ノ讓歩ヲ實現スル事ハ殆ント見込ツカスト述ヘテ今日迄ノ話合ノ衷ヲ变更スル事ノ困難ニシテ不得策ナルヲ力説シ

更ニ自分カ今南京ニ行ク「ハ單ニ健康カ之ヲ許ササル」「直ニ新聞記者ノ追跡ヲ受ケ其ノ結果條約ヲ纏ムル上ニ非常ニ不利益ノ事トナルニ付貴部長ニ於テ王正廷ヲ説得シ之ヲ纏

メ調印出来得ル様セラルレハ自分ハ最後ノ調印ノ爲ノミニ

南京ニ赴クコトシ度ク考フル次第ナリト述ヘ尚日本政府ハ三年ノ協定税率ハ殆ント無意味ニ近キニ付五年案ヲ最後迄

迄主張シ若シ右主張容レラレサルニ於テハ此ノ點ヲ最後迄

保留スル様自分ニ訓令シ來リ又協定税率ヲ交換公文トスル

「ハ之亦困難ニシテ况ヤ之ヲ秘密ニ附スルカ如キハ如何ニシテ貿易業者等ニ右ヲ知ラシムルヤノ點ヨリ云フモ技術上

不可能ノコトナリ將又陸境關稅ヲ一年トスルコトハ朝鮮總督府側ノ豫算編成上ノ理由モアリテ之以上短縮スル」能ハ

スト述ヘ置タリ、右ニ対シ宋ハ其ノ事能ノ重大ナルニ当惑

回復 希望スル二月一日若ハ其ノ以前ニ調印丈ニテモ濟マ
スコトカ如何ニ世間ニ良キ反響ヲ與フヘキカラ充份ニ説明
シ宋ノ意見ヲ質シタル處宋モ全然同感ナルコトヲ述ヘテ南
京ニ於テモ充分力ヲ盡スヘキコトヲ述ヘ居タリ尙又本日我
方ヨリ提案セル文書ハ出來得ル丈我方ニ有利ニ作成シタル
ノミナラス各點ニ對スル我方ノ主張ハ非常ニ強クシ置キタ
ルカ右ハ宋子文以外ヨリ來ルヘキ故障ニ對スル掛引上特ニ
意ヲ用ヒタル次第ナリ

279 昭和5年1月29日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長は関税協定の分離締結に反対の意
向につき注意が必要について

第九八号
本省 1月29日後着
南京 発
貴電第一二四号ニ閲シ

右貴電ハ二十八日午後七時接到シタル處既ニ外交組会議開
本官発上海宛電報第九七号

貴電第一二四号ニ閲シ

催中ノ趣ニテ會議前王ノ反省ヲ求メ得サリシモ周龍光ニ對
シテハ右貴電ノ趣旨ニ依リ我方ノ立場ヲ充分説明シ殊ニ我
方ハ宋部長ト王部長間ニ密接ナル聯絡ヲ保チ苟モ宋部長ニ
於テ承諾セルコトニ對シ後ニ至リ外交部ヨリ故障ヲ申出ス
力如キコトナキ様当初ヨリ絶ヘス注意ヲ喚起シ来レル次第
ヲ指摘シ此ノ際王部長ニ於テ異議ヲ挿ミ折角出来力ケタル
協定ヲ打毀スルカ如キコトナキ様王部長說得方申入レ置キ
タルカ二十九日朝周ハ本官ニ對シ昨夜會議後王部長ニ面会
シ相談シタルカ王部長ハ日本ト税率協定ヲ爲シタル旨公表
セハ國內ヨリ重大ナル反対ヲ受クヘキニ付税率協定ノ點ハ
交換公文ニヨリ解決シ且外部ニ發表セサルコトシタキ意
嚮ナルカ此ノ點ハ昨夜ノ會議ニテハ余リ問題トナラサリシ
趣ナルカ他方王部長トシテハ從来英米ノ如キ所謂條約國ト
ノ間ニハ純粹ナル関税条約ヲ締結セルモ伊國「デンマーク」
以下所謂條約滿期國トノ間ニハ關稅以外必ス治外法權ニ關
スル事項ヲ規定シ居ル關係上今回日本トノ間ニ單ニ關稅協
定ノミヲ切離シ調印スル「トナラハ恰モ日本ヲ條約有効國
ノ列ニ入レタルカ如キ觀ヲ呈シ從來ノ支那側ノ立場ヲ覆ス
コトナルヲ以テ關稅協定丈ヶヲ引離シ調印スル「ニハ反

対ノ意嚮ヲ有シ右ノ次第ヲ宋部長ニモ述ヘタル爲宋部長ハ
王部長ニ對シ上海ニ同行ヲ促シタルモ王部長ハ當地ニ用事
アル爲歐洲各國トノ條約締結ニ經驗アル徐謨ヲシテ宋部長
ヲ助ケシムルコトセル旨内話セリ右王正廷ノ意嚮力何ノ
程度迄表面ニ現ハレ來ルヤハ今後ノ交渉ニ依リ漸次明カト
ナルヘキモ王カ其ノ常套手段トシテ法權問題ヲ關稅協定ノ
調印問題ニ引掛ケムトスル考アルヤ注意ヲ要スル矣ナリト
存セラル

外務大臣へ轉電セリ

280 昭和5年1月29日 在幣原外務大臣より
幣原外務大臣临时代理公使宛(電報)

税率協定は条約正文中に保存したまもやむを
えぬ場合交換公文とするも可なる旨訓令

本省 1月29日発

意見ノ通税率協定ハ條約正文中に保存シタキモ不得已場合
ハ交換公文トスルコトニ付異議無シト御承知置アリタシ但

公第五一號(極秘、大至急)

貴電公八八號末段ニ關シ

公第一一七号

一、豫期ノ通歐米司長徐謨廿日午後來訪シ王部長ノ依頼ナ
リトテ

治外法權問題に関する条項を關稅協定へ挿入

方徐謨歐米司長主張の旨報告

上海 発
本省 1月31日前着

シ秘密協定トスルコトハ往電公第一二號(三)ノ通技術上
不可能ナリ

281 昭和5年1月31日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

「宋財政部長ト貴代理公使トノ間ニ關稅ニ關スル交渉力
既ニ終末ニ近付キツアリトノコトヲ知レルカ王部長ハ
關稅ニ關スル取極ノ内容ハ兎モ角トシテ其ノ形式ニ付テ
ハ異見アリ即チ關稅自主權ニ付テハ支那ノ關スル限りハ
大体実現セラレ居レリトノ考ニテ從テ支那トシテハ單ニ
關稅ニ關スル問題タケノ取極メヲナスコトヲ得サル訣ニ
テ其ノ取極メ中ニハ法權ニ關スル國際條項ヲ入ルルコト

必要ト思考シ居ルニ付右ノ點ヲ明カニセヨトノコトナリ」
ト述ヘタリ

二、右ニ対シ本官ハ今般関税交渉ニ入りタルハ実ハ支那側ノ希望ニ依ルモノニシテ一月十六日本官代理公使ノ資格ニ於テ初メテ南京ニ到着セル時王部長ノ要請ニ基キ着早々會見セリ其際王部長ハ種々希望案件ニ付話サレ先ツ関税問題次ハ法權問題、内河航行権問題、団匪賠償金問題、濟南事件、南京事件、漢口事件ノ順序ニテ説明アリタリ自分ハ當座ノ思付トシテ右諸問題ニ対シテハ何レモ交渉ニ応スルノ用意アリ乍併總テノ問題ヲ取上クル訳ニハ行カサレハ一ツツ交渉シテ纏リタルモノヨリ効力ヲ發生セシメ空氣ヲ良クシツツ他ニ及ブ事最モ「ビジネスライク」ノ方法ナルヘシト述ヘ王部長ノ贊意ヲ得タリ

其後一月十八日上海ニテ外交部長ニ會見セル際モ同様ノ趣旨ニ付全然意見ノ一致ヲ見特ニ関税問題ハ緊急ヲ要スルモノナレハ之ヨリ先ニ解決シテ効力ヲ發生セシムルコト適當ナルヘシトノ意見ニ合致セリ

之ト前後シテ宋財政部長ハ財政經濟関係ニ付日本側ト種々ノ案件ヲ控ヘ居レハ一日モ早ク関税問題ヲ解決シ度シト

ノ意嚮ヲ自分ニ表示セラレ且同部長ニ於テ完全ニ交渉ニ当リ得ル旨ヲ述ヘラレタルガ右ニ付テハ十六日南京ニ於テ王部長ニ面会ノ際モ同部長ニ於テ其ノ點ニ付同様ノ事ヲ言ハレ其ノ後モ財政部長及外交部ノ方面ニ之ヲ確カメツツ今日迄交渉ヲ進メ殆ント妥協ニ達シタル次第ナリ斯ル際ニ於テ外交部長ヨリ異議アル事ハ全ク豫期セサル次第ナリ又関税自主ハ既ニ解決セリト言ハルルモ日本トノ取極ヲ了シテ初メテ解決矣ニ達スルモノナルハ御承知ノ通ナリト述ヘタルニ

三、徐司長ハ財政部長ト話サルル事ニ付何等異議アル次第ニアラス唯苟モ條約取極メニ署名スル際ニハ其形式ニ付外交部長ニ部テ意見アルハ当然ノ「ト思フ」而シテ外交部長ノ考フル所ニ依レハ單ニ関税問題ニ関スル取極ノミニ非ラスシテ之ニ法權問題ノ條項ヲモ加ヘ且一般通商條約ノ交渉ヲ促進スル旨ノ條項モ加フル必要アリト考ヘ居ル次第ナリト述ヘ暗ニ伊國白耳義等條約改訂期限ノ到来シタル國トノ條約ト同様ナラサルヘカラサル事ヲ仄カシタリ（當方送付ノ外交部情報司編纂新訂中外條約中ニ第二部トシテ特ニ區別シアル條約參照）

四、依テ本官ハ王部長ハ條約問題ニ付テハ關稅、法權、内河航行権ノ三問題ヲ述ヘラレ通商條約促進ノ條項ナル「ハ初メテ承ル所ナリ日本ハ通商條約ノ改訂ヲ促進スル事ニ付テハ既ニ充分ノ意志表思ヲ爲シ居リ

又其ノ意思表示ヲナス事ニ付テハ別ニ異存ナキ所ナリ乍併日本ト支那トノ關係ハ頗る重大ナルモノニシテ右ハ單ニ經濟的ノミナラス政治的、思想的ニモ亦然リ其ノ利害

關係ノ錯綜セルコトハ伊、白ノ如キ殆ント利害關係ヲ有

セサル國ハ申ス迄モナク英、米、ニ比スルモ關係更ニ深

シ故ニ日支ノ關係ハ一ハ實際問題トシテ取扱フ事實ノ政

治家ノ態度ト云フヘク然ルニ歐洲ノ利害關係少キ國ニ対

スルト同様ニ考ヘ一問題ヲモ解決セスシテ直ニ其ノ故障

ヲ持出スガ如キ態度ニテハ永久ニ兩國ノ關係ノ改善ヲ期

スヘカラス然ルニ凡テノ問題ヲ實際的ニ取扱ヒ一ノモノ

ヨリ順序ニ解決シ行ク事ニ付テハ前述ノ如ク王部長モ全

然同感ナリシナリ法權問題モ日本ハ充分ノ好意ヲ有スル

モ之亦實際問題トシテハ日本ニ取り大問題ニシテ白、伊

リ從テ今先關稅問題ヲ完全ニ解決シテ之ヲ發表スルニ付本

五、而シテ其ノ後ニモ尚徐ト本官トノ間ニ同趣旨ノ事ヲ繰返シタルカ本官ハ徐司長ニ於テハ日本力法權問題ヲ遲延セシムル事ヲ恐レ居ルコトヲ充分看取シタルヲ以テ關稅條約実施セラレ一般ニ周知セラルト同時ニ (as soon as Tariff Treaty be put into force and be made public) 支那力希望スルニ於テハ直ニ法權問題ノ交渉ニ移ル用意アリ併シ其前ニ法權問題ヲ討議スルハ却テ之カ解決ノ爲ニモ好都合ニ非ストノ旨ヲ力説シ置キタルカ之ニ対シ徐司長ハ關稅條約ニ署名セサル前ニモ法權問題ノ交渉ヲナスヲ得ルヤ又ハ前記英文ノ次ニ with a view to putting their nationals under the law of the country where they reside ノ趣旨ヲ挿入シ居ルヤト質問シタルニ付本

官ハ法権問題ノ交渉ノ結果ヲ豫測セシムル文字ハ之ヲ避ケサルヘカラス且法権問題交渉ノ開始ハ関税条約ノ実施發表ノ後トスルコト最モ法権問題ノ討議ヲ圓滑ニシ其ノ目的ヲ達スル所以ナルコトヲ繰返シ述へ置ケリ

六、又徐司長ハ条約案第五條中ノ“to the signature of Treaty of Commerce and Navigation”ノ次ニ例ヘべ
“of which the negotiation will be commenced as soon as possible on the basis of reciprocity and mutual respect of sovereignty”ノ如キ文句ヲ入レ得ルヤト質問シタルニ付本官ハ“as soon as possible”迄ハ差支ナカルヘキカ其ノ以下ノ「ハ解釈ガ必スシモ一致セサルヘキニ付削除スルコトトシ度キ旨述へ置ケリ

七、最後ニ徐司長ハ自分ハ訓令ニ依リテ外交部長ノ傳言ヲ御傳ヘスル丈ニテ其ノ傳言ハ最初述ヘタル通ナリトテ冒頭ノ通り繰返シタレハ本官ハ右ハ王部長ト本官トノ直接談合ノ際自分ノ諒解セル所ト異ナルノミナラス日支ノ関係ヲ此ノ機会ニ於テ幾分ニテモ好転セントシテ努力ヲ拂フナレハ懸案ノ一ツ一ツニ解決ヲ与ヘテ進ムコトカ唯一最善ノ方法ニシテ政治家ノ執ルヘキ途ナル」ヲ

八、追テ徐ハ王ハ関税問題ハ條約ノ形トセストモ解決シ得ヘキ様思フ旨ヲ頻ニ述へ居タルヲ以テ本官ハ前ノ条約ヲ変更スルニ之ト同等ノ形式以外ノ方法ヲ用ヒテ之ヲ爲スカ如キハ技術上考ヘ得ラレス従テ條約ノ形式ヲ執ルヨリ外ニ方法無キ次第ナリト述へ置キタリ今日ノ徐謨トノ会合ニ於テ関税條約引離シノ必要ニ付テハ委細ヲ盡シタル議論ヲナシタリ之カ反響ヲ見テ或ハ財政部長ニモ会見シ更ニ我方ノ主張ヲ貫徹スル様努力スル積リナルカ本省ニ於テ先方ニ相当満足ヲ与ヘ得ル転回策アラハ御電示ヲ請ト会見スヘシト述へ置キタリ

フ

南京へ転電セリ

昭和5年1月31日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

南京における中国側会議では関税協定を秘密公文としたき意見が多数を占めたことについて

上 海 発
本 省 1月31日前着

公第一一八號（至急、極秘）

宋財政部長三十日夕本官ヲ來訪シ

南京ニ於ケル會議ハ充分成功ニ非サリシニ付實ハ王部長代理徐謨ヲシテ貴官ヲ訪問ノ上充分議論ヲ盡サシメタル上

（王部長ニ「フェアチヤンス」ヲ與ヘタル後）來訪シタル次第二テ徐謨トノ御會談ノ次第ハ既ニ承知セリト述へ更ニ

之ヲ秘密ニスルノ必要ヲ説キ多クノ者之ニ贊成シタルカ自分ハ如何ニシテ之ヲ秘密ニ附シ得ルヤ支那ハ秘密ニテモ可

ナランモ日本ハ困ルヘシト述ヘタルモ此ノ點カ問題トナリタリ就テハ綿糸布及ヒ海產等重ナル漁業品品目ノミヲ公表シ他ハ秘密ノ交換公文トスルコトニハ出來マンキヤト述ヘ次⁽²⁾ニ王部長ヨリ關稅協定ノミニテハ不可ナルヲ以テ之ニ法權問題ヲ加フヘシトノ議論出テ自分ハ之ニ反對シタリ右ノ結果王若クハ其ノ代理者ニ於テ直接貴官ト交渉スル様ニ述ヘ徐ノ來滬ヲ見タル次ナルカ王部長トハ今回ノ交渉中四回モ會見シタルモ何等右ノ點ニ言及セス又廿八日南京ニテモ午前中自分ヲ來訪シタル際何モ言ハサリシニ夕刻會議ノ席ニ於テ右ノ提案ヲナシ自分ハ非常ニ感觸ヲ害シ斯ノ如クシハ何事モ出來ストテ甚タンク王部長ヲ非難シタリト述ヘタリ右ニ對シ本官ハ今回徐ニ話シタルト同様ノ「ライン」ニテ宋ニ對シ王部長カ當初ノ諒解セル事及其ノ遣方ハ實際的ナラサルコトヲ述ヘタルニ

宋ハ王ノ遣リ方ヲ大イニ憤慨シ此ノ位ノコトカ遣リ遂ケラレヌコトアル筈ナシトテ大イニ激昂ノ色ヲ示シ進テ本件ノ談合ヲ更ニ進歩セシムヘシト申出タルニ付右様ナラハ兎ニ角明日午後更ニ會合スヘシトテ別レタリ尙本日ハ之迄宋トノ談合シタル「レジユメ」及條約草案及附屬書全部ヲ渡シ

置キタリ其ノ節宋ハ税率協定ノ五年ハ困難ニシテ又綿絲統一稅ノ點ハ英國等ニモ公文ヲ以テ諒解ヲ取付ケ居ルニ付ノ點ハ是非要求ヲ容レラレタシ又輸出稅ノ個所ハ削除セラレタシト述ヘ居タリ

南京へ轉電セリ

283 昭和5年1月31日 常原外務大臣より
在中国重光臨代理公使宛（電報）

關稅協定交渉進捗のため南京上村領事をし

て王外交部長と意志疎通を計らしめる様訓令

本省 1月31日後9時25分発

*
公第六二号

此際貴官ニ於テ宋子文ト本件談合ヲ更ニ進捗セラルトモ

結局ハ宋ヲ窮地ニ陥ラシムルニ止マリ條約ノ締結ハ期シ難

ノミナラス我方ガ余リニ條約ノ促進ニ焦慮スルカ如キキ氣

色ヲ示スニ於テハ却テ先方ノ態度ヲ益々硬化セシムルノ虞ナキカ本問題ノ取扱ハ頗ル機微ナルモノアルヲ以テ此際相

当ノ慎重ノ態度ヲ執ルヲ然ルヘク今回ノ困難ハ畢竟支那政

府部内ノ意見ノ不一致ニ基クモノト察セラルルヲ以テ追テ
當方ヨリ上村領事ヲシテ王正廷ト会見ノ上一層意志ノ疎通ヲ計ラシムル爲別ニ訓令ノ筈ナルモ不敢貴官ヨリ宋ニ對シテハ從来同氏ノ執リ來レル實際且穩健ナル態度ヲ多トスル旨ヲ述フルト共ニ本件交渉ヲ進ムル爲ニハ先ツ王ト宋トノ間ニ意思ノ疎通ヲ計ルコトノ必要ナルヲ説キ右ニ努力方篤ト申入レ置カレ度ン

南京ニ轉電セリ

284 昭和5年2月1日 常原外務大臣より
在南京上村領事宛（電報）

国民政府の意向確認の上開稅協定急速妥結方

およびその際外法權交渉商議準備を通知するも可なる旨訓令

本省 2月1日後6時5分発

*
第一三號

上海發本大臣宛電報公第一一七號ニ關シ

支那側力最近ニ至リ關稅條約問題ニ關スル態度ヲ急變シタルハ徐歐米司長王正廷ノ意嚮トシテ重光ニ傳ヘタルカ如ク

此際法權問題ヲモ解決シテ一括調印セントスルモノナリヤ將又關稅條約ヲ切離シ調印シ法權問題ニ付テハ單ニ速急交渉開始方ニ關スル何等カノ保障ヲ我方ヨリ得ルコトヲ以テ満足セントスルモノナリヤ先方終局ノ意嚮未タ不明ナルモ關稅交涉力既ニ御承知ノ如キ進捗ヲ見タル今日於儘有耶無耶ニ終ルカ如キコトハ上海宛往電第六號乃至八號ノ今回交渉開始ノ根本主旨ニモ反シ我方今日迄ノ努力ヲ水泡ニ歸スル次第ニシテ我方ノ甚々遺憾トスルトコロナルモ此儘ニ交渉ヲ先方ノ言フカ儘ニ推移セシムルニ於テハ我方ハ不必要ニ種々讓歩ノ「コムミットメント」ヲ餘儀ナクセラレ今後ノ條約交渉全体ニモ累ヲ及ホス虞ナシトセス從テ此際ノ措置トシテハ先ツ今一應的確ニ國民政府ノ意向ヲ確カメ置度ニ付貴官ハ上海宛往電公第六二號ノ趣旨篤ト御含ノ上至急王正廷ト面會セラレ本大臣ノ訓令ニ依ル旨ヲ前提トシ關稅交渉カ王部長ト重光代理公使トノ明瞭ナル諒解ノ下ニ開始セラレタルモノナルニ拘ラス今日ニ至リ王部長カ關稅條約ノ急速締結ニ故障ヲ入レラル、コトハ本大臣ノ意外トスル所ナル旨ヲ述ヘ前記上海來電重光ノ徐ニ對スル應酬振ヲ適宜敷衍反復シテ王ノ反省ヲ促サルト共ニ畢竟支那側ニ於

旨附言セラレ度

法權問題ノ討議開始ヲ強テ關稅條約ノ效力發生後ト限定ス

ル要ナキ義ト御承知置アリタシ尤モ法權問題ニ付何等ノ討議ヲモ開始セサル今日之レ以上ノ約束ヲ文書ニテ與フルコトハ我方トシテ不可能ノ立場ニ在ル旨ハ篤ト說示シ置カレ度シ尙又支那側ニハ開税條約中ノ税率協定ヲ秘密ニシオキ度意図モアルヤニ察セラルルトコロ右ニ對シテハ上海宛往電公第一二號ノ通我方ノ開税スル限税率輕減ノ約束ヲ爲ス以上之ヲ秘密ニスルコトハ我法制上不可能ノ儀ナルノミナラス我ト諸外國トノ條約ニ最惠國待遇ヲ約シアル關係上ノ秘密ニ支那ニノミ各待遇ヲ與フルニ於テハ國際信義ニモ及スルコトヘナルヘシ國民政府ガ其ノ對内關係上秘密ニシオクヲ便利トセラルル事情ハ深ク之ヲ諒トスルモ我方ノ開税スル限ハ右ノ如キ困難アルコトヲ王正廷ニ併セ說示シオカレ度シ

285 昭和5年2月(3)日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

一般原則より開税自主権・治外法権問題の分離は困難につき開税協定をアグリーメントとした旨王外交部長主張について

シ~~~~~

第一二一號(大至急、極秘)
貴電第一三號ニ關シ

南京
本省 2月3日後着

貴電ハ日曜午前接到シタルカ王部長ハ朝ヨリ外出シ終日歸宅セサリシ爲本三日王ト會見セリ

貴電第一三號ニ關シ

本官ハ先ツ閣下ノ訓令ニ依ル旨ヲ述へ右貴電御訓令ノ趣旨ニ依リ我方ノ立場詳細説明シ王ノ反省ヲ促シタル處王ハ日本側ノ條約交渉ヲ促進セントスル見地ヨリ問題ヲ「ビヂナルコト」ニ取リ運ハントスル意向ニハ自分モ贊成ナルカ國民政府ノ方針トシテ條約期限到来セル國ト條約ヲ締結スル場合ニハ必斯少クトモ開税及法權ニ關スル事項ヲ規定スルコトトナリ居リ國民政府ノ開税スル限り日本モ其ノ「カティゴリー」中ニ含マレ居ルヲ以テ此ノ際日本ト開税條約丈ヲ締結スル事ハ主義上頗ル困難ニシテ一般ヨリモ非常ナル反對ヲ受クヘキニ付自分モ甚タ困リ居ル次第ナリト述ヘタリ依テ本官ハ日本ノ支那ニ對スル關係ハ伊國、白耳義ノ如キ國ト同列ニ論スルヲ得サル事ハ政府要路ノモノノ等シク了解スル處ニシテ從テ日本トノ條約カ伊國白耳義ノ如キ國ト

二外ナラス

從テ開税條約調印ノ上ハ其ノ批准交換乃至效力發生ヲ俟ツ迄モナク法權問題其ノ他ノ條約改訂交渉ニ入ルノ用意アル次第付貴部長ニ於カレテモ右日本側ノ眞意ヲ諒トシ政府部内ノ意見取り纏メ方極力盡力アリタキ旨述ヘタルニ王ハ日本側ノ眞意ハ充分諒解セリ就テハ此ノ間ニ處シ自分ノ考フル最善ノ方法ハ正式條約ノ形式トセス

agreementノ形式トシテ此ノ際開税問題丈ケヲ解決スルニアリスクスレハ日本側ノ先ツ開税問題丈ケヲ成立セシメントスル趣旨モ通り支那側ノ形式上ノ困難モ除カルル譯ニテ即チ先ツ開税問題丈ケヲagreementノ形式ニ依リ調印シ法權問題、内河航行等ノ問題モ交渉妥結ノ上ハ一ツ一つagreementトシテ成立セシメ條約問題全部ノ纏リタル上ハ之等agreementヲ一括シテ完全ナル通商條約ヲ作ルコト現在ノ横ハレル障害ヲ除去スルニ最善ノ方法ナリト思考

articlesノ如キ辭句ヲ用ユル丈ケニテ足リ以下各條ハ條約文ト同様ニテ差支ヘナシagreementノ形式トセハ支那側ノ開税スル限り批准ノ必要ナシ若シ日本ニ於テ批准ノ必要有ラハ日本丈ケニテ批准シテ差支ヘナシト説明セルニ依リ本官ハ右ハ一便法ナリト思考スルモ或ハ日本側ノ技術上ノ困難アルヤモ知レス原案通りtreatyトセラルレハ最モ好都合ナリト述ヘタルニ王ハ開税丈ケノtreatyヲ締結シ得サルハ反復説明セル通リニシテ自分モ出來得ル丈日本ノ希望ニ副フ様agreement案ヲ考へ出シタル次第ニ付右ニテ纏メル様日本政府說得方御盡力願ヒタシト繰返シ述ヘタルニ依リ兎モ角政府ニ報告スヘキ旨答へ置キタリ

分譲解セルニ依リ之ヲ發表スルコトニハ同意スヘキモ税率
協定ヲ agreement ノ一條トスルコトハ支那側力税率協定

ヲセストノ建前ヨリ極メテ目觸リトナリ且今後各國トノ條
約締結ニ惡例ヲ貽スコトナルヲ以テ税率協定ノ條項ノミ

ハ agreement ョリ削除シ別ニ公換交文ノ形式ニテ解決シ

agreement ノ交付ト同時ニ公表スルコトシ度此ノ點モ

双方ノ困難ヲ考慮シタル上ノ妥協案ナルニ依リ^(註)狂^(註)ケテ同意
アリタキ旨述ヘタルニ依リ本官ハ第一點ト共ニ委細政府ニ
報告スヘキ旨答ヘ置キタリ右會議ヲ終リ本官辭去スルニ當
リ王ハ右ニテ關稅交涉妥協ノ上ハ直ニ重光代理公使ノ來京
ヲ請ヒ自分トノ間ニ署名調印スル考ナルニ付併セテ御報告
置ヲ願フ旨附言セリ王部長トノ會談ハ前記ノ通ニシテ我方
カ法權問題ノ商議ヲ回避シ居ルニ非サル次第ハ本官ニ於テ
充分説明シ王モ此ノ點ニ付テハ何等誤解ナキ模様ナリシニ
依リ御訓令中ノ法權問題交渉促進ニ關スル文書交付ノ問題
ニハ觸レス置キタリ

上海へ轉電セリ

287 昭和5年2月5日 币原外務大臣より
在南京上村領事宛 (電報)

アグリーメントとするも可なるも効力発生は

批准交換後十日とすべき旨訓令

本省 2月5日前1時30分発

* 第一五號

貴電公第一二一號ニ關シ

支那ノ故障ハ要スルニ形式上ノ問題ニ歸着スルモノト解セ
ラルルニ付

一、正式條約ノ形式トセズ「アグリーメント」トスル點ハ
我方ニ法制技術上ノ困難アルコト貴見ノ通ナルモ此際ノコ
ト故王ノ言フ如ク正式ノ「プレアンブル」ヲ附セス「アグ
リーメント」ト爲シ内容ハ條約文同様ニテ取極締結方同意
スヘシ

二、税率協定モ上海宛往電公第五一號ノ通交換公文トシテ
「アグリーメント」ニ附屬セシムルコト異存ナシ
三、尤モ「アグリーメント」トスルモ我方ニテハ批准ノ形
式ヲ採ルコト必要ニシテ強テ批准ヲ要セシテ效力ヲ發セ
シムル爲ニハ調印ニ先チ樞密院ノ議ヲ經テ御裁可ヲ仰クノ

286

昭和5年2月4日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛 (電報)

陸境特惠關稅撤廢につき予告期間長期化を図
る様訓令

本省 2月4日後2時30分発

公第七〇號

南京發本大臣宛電報第一二〇ノ二ニ關シ輸出稅金建徵收問
題モ結局具體化スルモノト察セラル所我方トシテハ往電
公第三五號輸入稅ニ對スル場合ト同様ノ方針ニ依リ措置ス
ル外ナキ次第ナルモ右重施^(註)ハ當業者殊ニ滿洲特產品輸出邦
商ニ及ボス影響等ニモ鑑ミ (關東長官發本大臣宛電報外第
三號參照) 成ルヘク長期ノ豫告期間ヲ設ケシムルコト致
度ニ付貴官ハ支那側ニ就キ本件ニ關スル真相ヲ確メラレ果
シテ右實施ノ意図アルニ於テハ前記往電ノ趣旨ニ依リ可然
應酬セラレ且先物取引者ノ打擊ヲ緩和スル趣旨ヲ以テ事情
ノ許ス限り成ルベク長期ノ予告期間ヲ設クル様仕向方御盡
力アリタシ

南京ニ轉電アリ度シ

要アル處右手續ハ如何ニ取急クモ「アグリーメント」及附
屬交換公文ノ妥結後相當ノ時日ヲ要スルノミナラス調印ニ
先テ此種ノ手續ヲ相當期間ニ亘リテ行フ場合ニハ自然取極
ノ内容モ新聞其他ニ洩シ我方ノ爲セル各種ノ讓歩ノ點殊ニ
稅率協定ニ於テ支那側ハ大多數ノ品目ニ付二分五厘增^(註)ノ
權利アルニ反シ我方ハ或品目ニ付現行稅率ノ輕減迄モ支那
側ニ約シタリ等ノ點ヲ指摘シ種々ノ揣摩憶說スラ生シテ右
手續モ順調ニ進行セサルカ如キ事態ヲ招來スルコトナキヲ
保シ難キ事情アリ寧口調印ナル既成事實ニ基キ正道ヲ踏ミ
テ御批准ヲ得ルコト本件取極發效上極メテ望マシキ次第ナ
リ又一方支那側トシテハ王ノ言フ如ク「アグリーメント」
トスル以上批准ノ必要之ナキコトナランモ支那側ハ調印シ
タルノミニテ一定期間後效力ヲ生スルコトトシ日本側ハ批
准ノ後效力ヲ生スルコトナルニ於テハ結局支那側ハ調印
ノミニテ拘束セラレテ最早拒否權ヲ有セサルニ反シ日本側
ハ調印後ト雖モ形式上批准ニ依ル拒否權ヲ有スルコトトナ
リ(實際問題トシテハ別ナルコト勿論ナリ) 支那側ニ於テ
本取極ハ支那ニ取りテ彼此ノ關係平等ナラストノ形式上ノ
非難起ルノ破目ヲ生スルコトナキヤフ懸念セラルル一方我

方トシテモ一方的批准ニ依ル場合ハ國內ニ於テ論議ノ種子トナル虞モ之ナシト云フヘカラズ此點ハ一應王ノ注意ヲ喚起シ取極ノ形式ハ支那側ノ希望通り「トリーテー」ノ形式

双方ノ批准交換後十日トスルコトニ打合フコト出來得レバ

ヲ避ケ「アグリーメント」ノ形式トスルモ其效力ノ發生ハ取極成立上甚好都合ナリト思考セラル以上ノ三點ノ趣旨ハ

本大臣ノ訓令トシテ至急王部長ニ御傳ヘアリ度尤モ第三點「アグリーメント」中ニ批准條項插入方ニ付テハ我方ノ一方的批准ノ場合起ルコトアルヘキ懸念ニ付一應王ノ注意ヲ喚起スル趣旨ニシテ我方ノ主張ヲ飽ク迄固持セムトスル次

第二ハアラス結局我方ノ一方的批准トスル場合ニモ將又双方共批准ヲ經サルコトトスル場合ニモ相當懸念スヘキモノアルコトヲ指摘シ特ニ支那側ヨリ調印ノ前後ニ於テ取極ノ實施ニ支障ヲ來ササラシメンコトヲ主眼トスルモノナルニ付貴官ハ其ノ御含ニテ應酬セラルト共ニ王カ前記我方ノ注意ハ支那側トシテ懸念ノ要ナントナシ貴電第一二二號中段ノ説明通我方ニ於テ批准ノ要アラバ我方丈ニテ批准差支ナシトノ意図ヲ變更セサルニ於テハ我方シテノ國內手續上ノ措置ニ付テハ尙講究ノ上電報スルコトヽスヘシ、

方共批准ヲ經サルコトトスル場合ニモ相當懸念スヘキモノアルコトヲ指摘シ特ニ支那側ヨリ調印ノ前後ニ於テ取極ノ

實施ニ支障ヲ來ササラシメンコトヲ主眼トスルモノナルニ付貴官ハ其ノ御含ニテ應酬セラルト共ニ王カ前記我方ノ注意ハ支那側トシテ懸念ノ要ナントナシ貴電第一二二號中段ノ説明通我方ニ於テ批准ノ要アラバ我方丈ニテ批准差支ナシトノ意図ヲ變更セサルニ於テハ我方シテノ國內手續上ノ措置ニ付テハ尙講究ノ上電報スルコトヽスヘシ、

就テハ右會見ノ結果至急電報アリタシ
上海ニ轉電シタリ

編注 壁原外務大臣発在中国重光臨時代理公使宛特電公第

七三号に相当す。

288 昭和5年2月5日 壁原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

中国側に海關金單位制による關稅徵收方法明

示せしむる様訓令

本省 2月5日後2時1分發
公第七八號

貴電公第一三四號ニ關シ

稅率表末尾ノ從量稅ニ關スル規定ハ稅率協定ノ本旨ニ顧ミ存置シタキモ貴見ノ通支那側ニテ金建制ヲ採用スル以上從前程ノ重要性ヲ有セサル次第ニ付之ヲ削除セラレ差支無シ尤モ支那側ハ將來海關金單位ノ純分及海關金ト海關金トノ比率ヲ勝手ニ變更シ依テ以テ事實上ノ稅率引上ヲ行フカ如キコト無キヲ保セサルニ付右御含ノ上前記從量稅ニ關スル

規定削除ノ場合ニハ金建ニ依ル徵收ヲ明カニスルモノナリトノ趣旨ニテ稅率表末尾第二項トシテ左記ノ規定ヲ插入スル様御取計アリ度シ

「本稅率表第一及前項ノ規定ニ依リ賦課セラル支那國輸入稅ハ輸入稅金建徵收ニ關スル千九百三十年一月十五日附國民政府令及同日附國民政府財政部ノ總稅務司ニ對スル訓令ノ定ムル所ニ依リ徵收セラルヘキモノトス」
尙稅率表及附屬規定ノ「レダクション」ニ付テハ他ノ案文同様後日ノ修正ヲ留保シオカレ度シ

289 昭和5年2月(5)日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

王外交部長への交渉申入れ時期について一任
方および訓令重光に一元化方意見具申

上海 発
本省 2月5日後着

貴電公第一五六號（大至急、極秘）

南京へ轉電セリ

拙電公第一五〇號（南京宛拙電第一四五號）ニテ御承知ノ
貴電公第七三號ニ關シ

290 昭和5年2月5日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

通今日南京ニ於テ閣下ヨリ直接上村ヲ通シ王部長ト交渉ヲ開カル形トナルハ懸引上ノ重大ナル不利ヲ招ク内情ナリノミナラス貴電公第七三號（南京宛貴電第一五號）ハ大體ニ於テ王ノ言分ヲ通シタル譯ナレハ本官トシテハ「トランプカード」トシテハ最モ有效ニ使用シ度キ所存ナリ（尙王カ此處迄來タル以上此ノ點ニ關シ俄ニ態度ヲ變フルコトナルヘシ）且下宋財政部長ノ地位變更ノ噂アリ旁上村ヲシテ事情ヲ取調且本官ノ代理トシテ宋ニ會見シ其ノ意図ヲ聞カシメツツアル際ニテモアリ其ノ結果ニ依リテハ豫定ヲ變へ本官南京へ急行スルコトナルヤモ計ラレス右貴電ノ趣旨ヲ王部長ニ申入ルル時期ニ付テハ本官ニ御一任アリ度ク且今後モ交渉案件ニ關スル御電報ハ少クトモ本官ヲ經由セラルコトニ御詮議ヲ請フ（特ニ南京ト當方トハ絶ヘス聯絡アリ）右ハ單ニ事務ノ統一ニ止ラス對外的現狀ノ作戦上極メテ肝要ノコトト信スル次第ナリ

王外交部長への交渉時期一任および税率協定期間
間五年の主張固執方重光臨時代理公使宛訓令

本省 2月5日後7時30分発

第一八號

重光代理公使へ左ノ通

上海發貴電公第一五六號及公第一五七號ニ關シ

南京宛往電第一五號ノ趣旨ヲ王部長ニ申入ル時期ニ付テ
ハ貴官ノ裁量ニ一任ス

統一税問題ニ付テハ明六日發電ノ筈尙税率協定期間五年ノ
主張ハ固執セラレタシ右不取敢

~~~~~  
上海發貴電公第一五六號及公第一五七號ニ關シ

上海發貴電公第一五六號及公第一五七號ニ關シ  
在南京上村領事宛（電報）

291

昭和5年2月6日

幣原外務大臣より  
在南京上村領事宛（電報）

基に税率協定期間五年固持方重光宛訓令  
対中國妥協は限界にあり日本の讓歩の大きさを

本省 2月6日後8時発

\*第一九號（極秘、大至急）

重光代理公使へ左ノ通

上海發貴電公第一二八號ニ關シ

上海發貴電公第一二八號ニ關シ

上海發貴電公第一二八號ニ關シ

税率協定期間ヲ五年トスル我方ノ主張ハ御承知ノ通支那ノ  
國情殊ニ輓近ニ於ケル各般ノ情勢ニ顧ミ長期ニ亘ル税率協  
定ノ日支經濟關係調整上必要ナルカ爲ニシテ我方カ今日迄  
各種ノ問題ニ付出來得ル限り寛容ノ態度ニ出テタルモ本件  
ノ如キ重要事項ニ付支那側ヲシテ理解アル措置ニ出テシメ  
ントスル主旨ニ外ナラス税率協定自体ニ付テ見ルモ支那側  
ノ容諾セル協定品目ガ我對支輸出貿易額ノ約四割四分ヲ含  
ム點ハ頗ル人意ヲ強ウスル義ナルモ一小部ノ品目ニノミ現  
行税率ノ措置ヲ約シ大部分ノ品目ニハ二分五厘ノ引下權ヲ  
留保シ居リ其結果昭和二年度ノ統計ヲ基礎トスレハ協定品  
目ノ我輪出總額約一億二千九百萬海關中約一億五百萬海關  
ニ相當スル品目ハ右ノ引上ヲ見ルコトトナルヘク更ニ金建  
施設ノ影響ヲモ併セ考フレハ右ハ本邦品ノ重大ナル負擔増  
加トナル次第ナリ而シテ我方ノ支那ニ許與セントスル品目  
ハ我方當初ノ腹案トハ全然異ルモノナルニ拘ラス往電公第  
七六號ノ通リ贊澤關稅品目ノ骨子トモ謂フヘキ絹織物及刺  
繡布ニ付約三割ノ引下ヲ認ムルコトトシ更ニ扇、團扇ノ稅  
率引下乃至

麻類及傘ノ税率据置ヲ約セントスル次第二テ而モ御承知通  
率引下乃至

此等品目ハ我方ニ於テ協定品トスル豫想タニセサリシ品目  
ナルガ更ニ關稅協定成立ノ結果支那ヨリノ輸入品ハ最惠國  
待遇ノ規定ニヨリ本邦ト佛伊兩國トノ協定稅率ニモ均霑シ  
得ルコト、ナルヲ思ヘハ我方ノ犠牲ハ支那側ニ比シ寧ロ大  
ナルヤノ感アリ且陸境關稅ニ付テハ朝鮮ノ鐵道財政上ノ困  
難アルニモ不拘（陸境關稅廢止後安東經由重要貨物ノ現在  
數量ヲ維持セントスルモ殆ド不可能タルヘキコトニ付テハ  
準備調書第五輯一三〇頁乃至一三三頁參照）一年据置ニテ  
満足シ金建問題ニ付テハ二割以上ノ負擔增加ヲモ忍ンデ支  
那側ノ希望ヲ容ルル等我方ノ拂ハントスル犠牲ハ何レモ今  
日ノ大勢上不已得トハ言フモ其實決シテ少シトセス尤モ貴  
電公第一四九號ノ御來示ノ通今日ノ如ク四圍ノ情勢必スシ  
モ我ニ有利ナラサル時期ニ於テ税率協定問題ヲ現在ノ程度  
迄取纏メタルハ相當満足スヘキ義ニハ相違ナキモ稅率協定  
期間ヲ三年トセンカ支那國定稅率ハ何レ來ル十月ニハ實施  
セラルヘキヲ以テ最近ノ中ニ協定ノ成立ヲ見ル場合ニハ支  
那側カ事實上稅率拘束ヲ受クルハ僅ニ二年半ニ足ラサル短  
期間ニ過キス此ノ如キ短期間内ニ國定稅率ノ一般的改訂ヲ  
見ルカ如キ事例ハ從來稀ニシテ而モ十月ヨリノ國定稅率ニ

上海ニモ轉電シオキタリ

~~~~~  
上海ニモ轉電シオキタリ

四 日中關稅協定交渉關係

292 昭和5年2月(6)日

幣原外務大臣宛（電報）

関税協定のみ分離し蔣介石の南京滞在中に協定成立を必要とする旨宋財政部長と意見一致について

公第一六三號（大至急、極秘）

本省 2月6日後着 南京 発

二月六日前宋子文ニ會見シタリ

一、宋ハ治外法權問題ヲ同時ニ解決スルコトハ王ニ於テ執拗ニ主張シタルカ大局ヨリ考ヘ寧ロ其ノ必要ナカルヘキコトヲ自分ヨリモ說得シ蔣主席ヨリモ其ノ旨ヲ説キタルカ蔵ハ必要アルニ於テハ本官ニ對シ速ニ法權交渉ヲ爲スヤ否ヤヲ質スコトシテハ如何トノコトナリシハ法權交渉モ本官ノ説明ニ依リ直ニ開始スルコト疑ナシト述ヘ次テ其ノ趣旨ヲ以テ「フオーミユラ」ヲ見出スコトナリ恰モ其ノ實際上村書記官ヨリ御話アリ王ノ意思モ日本側ニ判明シ居ルコトト思ハルト述ヘタリ依テ本官ハ自分ノ考ニテハ要スルニ關稅問題丈ヲ引離シ效力ヲ發生セシムルコトハ日支双方ノ爲有利ナリト考フルコト第一點ナリ關稅問題解決ノ點カ正間ニ知

二、從來意見合致セサル點ニ付本官ハ日本政府ハ据置キ五年ヲ固執ストノ訓令ヲ受ケ居レリ其ノ他ノ點モ日本政府ノ主張ハ從來ト變リナシ支那側要求ノ日本稅率引下ヶノ點ニ付テハ既ニ訓令來レルカ専門家ヲシテ話ヲ爲サシメタシト述ヘタルニ宋ハ之ヲ承知シ本日午后堀内ハ出來得ル丈ノ考慮ヲ爲スヘキ旨答ヘ置キタリ

タルニ依リ本官ハ自分ハ其ノ職旨ニハ異存ナキニ付出來得ル丈ケ努力スヘキ旨ヲ答ヘ午后ノ會合ヲ約シ置キタリ

タルニ依リ本官ハ右ノ點ハ已ニ交渉ト考ヘ居ル次

昭和5年2月(7) 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

王および宋兩部長との会談にて王外交部長は

別電一 二月七日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第一六九号

協定本文に対する王外交部長の説明応答要領

二 二月七日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第一七二号

付属文書に関する王外交部長の説明応答要

ラルルコト即チ次ノ問題ニ移ル準備トナルヘキコト第ニ點ナリ王部長ノ上村ニ對スル説明ニ依レハ「アグリメント」トセムコトヲ主張セラレタル由ナルカ日本ハ「アグリーメント」トスルモ批准ヲ要スル次第ナル力支那ハ批准セシテ直ニ效力ヲ發生セシムトノコトナルカ如何ナル手續ニ依ルモノナリヤ又今次交渉ノ結果ニ付テハ外交組ノ討議ヲ經タリヤ及蔣主席ハ充分承知シ居ルヤト尋ネタルニ宋ハ内容ハ王モ蔣主席モ承知シ居レリ未タ外交組ノ決議ヲ經サルモ蔣主席ニ於テ承知シ居レハ問題ナシ又「アグリーメント」ノ形式トセハ調印ト共ニ效力ヲ發生セシムルコトハ主席ニ於テ承諾シ居レハ問題ナキコトナリ居レリト説明セルガ本官ハ要スルニ自分ノ主張スル所ハ前二點ナレハ形式ノ點ハ出來得ル丈ノ考慮ヲ爲スヘキ旨答ヘ置キタリ

三、宋ハ何レニスルモ蔣主席南京滯在中一切ノ問題ヲ決定的ニ解決シ置カサレハ不慮ノ故障起ルコトナキヲ保セ

ス本日午后王外交部長ト共ニ三人ニテ一切ノコトヲ協

議シ主張ノ差ヲ明カニシ最後案ヲ作成シ各々政府ニ

「レフアー」シ直ニ訓令ヲ仰キ明日ハ字句ノ修正ヲ施

シ出來得レハ明日一杯ニ「イニシヤ」スル様ニシテ

ハ如何カト存ス其ノ上ニテ成ルヘク速ニ調印ノ運トス

ル方故障ヲ排除スルニ最モ適當ナル方法ト思フ旨述ヘ

公第一六八號

本省 2月7日前着 南京 発

六日午後王外交部長宋財政部長ニ宋ノ私宅ニテ會見セリ

先ツ王正廷ヨリ自分ノ條約ニ對スル考案ハ上村領事ニ御話

シ置キタルニ依リ御存知ト思フトノコトナリシニ依リ本官

ハ右ハ如何ナル考案ナリヤト尋ネテ王ノ説明ヲ聽取セリ即

チ「アグリーメント」ノ形トシ前文ト後文ヲ除キ條文及附

屬書ノ形トスル譯ニテ調印ト同時ニ效力ヲ發生セシムルコ

トトシ其ノ前ニ必要アラハ日本側ニ於テ批准ノ手續ヲ執ラ

ルルコトセハ可ナルヘン支那側ニ於テハ調印ト同時ニ效

力發生ノコトトシタシト述ヘタリ依テ本官ハ右考案ハ之迄

財政部長トノ話合トハ大部懸ケ離レ居ルニ依リ之ニ對シテ

贊成スルコトハ困難ナルカ特ニ調印前ニ批准ノ手續ヲ執ル

コトハ問題ニシテ調印後ニ正式ノ批准ヲ仰クコトニスルノ

必要アリト述ヘ色々應答シタルカ結局王ハ之ニ異存ナシト

ノコトニテ一應王部長ノ全體ニ對スル説明ヲ聽キタルカ

右協定本文ニ對スル説明往電公第一六九號ノ通ニシテ附屬

文書ニ對スル説明往電公第一七二號ノ通

尙税率協定ニ關スル問題ハ財政部長ト本官トノ間ニ直接話

スコトトナレリ宋子文ハ絶エス調停的態度ヲ執リ圓滑ニ話

ヲ進ムルニ努メタリ

第四條トシテハ我方提案ノ第四條ヲ挿入ス

第五條トシテ我方ノ第六條ノ末尾ヲ削除セルモノヲ挿入
St in witness where of 以下ヲ削除シ日附ヲ存置セシム

前記王ノ説明等ニ依リ得タル結果ハ大體貴電公第七三號
(上宛第一五號)ノ趣旨ニ合スル次第ナルモ本使ハ尙主義
上ニ於テモ同意ヲ與ヘサリシ次第ナルカ前文ヲ挿入スルコ
トトセハ單ニ the undersigned duly authorized have
come to the following agreement 丈リテ御差支ナキヤ大
至急御回電ヲ請フ

(別電一)

公第一七二號

南京 発
本省 2月7日前着

一、陸境關稅ニ關スル交換公文ハ先ツ支那側ヨリ當方案文

ノ如キ公文ヲ出し(附屬交換公文ハ凡テ日本側ヨリ先ツ
發セラルルコトハナリ居ルニ付之レ一位ハ支那側ヨリ先
ツ出スコトシタシ^(一)之ニ對シ日本側ヨリ回答スル様形
式ヲ顛倒シ最後ノ「and in such relinquishment」以下

ハ當然ノコトシテ之ヲ削除スルノ提案王ヨリ出テタリ
尙期間ノ起算點ハ調印ノ日ヨリトノ事ヲ固執セリ

(別電一)

南京 発

本省 2月7日前着

協定本文ニ對スル王部長ノ説明應答要領左ノ通

一、表題ヲ agreement concluded between and レシ

第一條ハ別電公第一七〇號ノ通ノ書振トシ條約ノ有效無
効ノ議論ヲ避ケ順稅ノ次ニ other like charges ^(兩)搜入シ

タルカ支那側提案ノ主ナル差異ナリ

第二條ノ税率協定ヲ公文交換ノ形式ニ依リ條約ニ附屬セ
シム從テ第二條トシテ最惠國待遇ヲ規定シ別電公第一七
一號ノ如キ提案ヲ爲シタリ第三條トシテハ我方提案第五
條ニ必要ナル修正ヲ加ヘテ其ノ儘採用ス(此際ニ王ハ通
商條約ハ絕對平等及主權ノ相互尊重ノ原則ヲ基礎トスヘ
キモノナル一句ノ附加方執拗ニ主張シタルモ右ハ撤回セ
シメタリ)

第四條トシテハ我方提案ノ第四條ヲ挿入ス

第五條トシテ我方ノ第六條ノ末尾ヲ削除セルモノヲ挿入
St in witness where of 以下ヲ削除シ日附ヲ存置セシム

右ニ對シ本官ハ調印ノ日ヨリトスルコトハ考慮ノ餘地ナ
シト述ヘ且据置期間ニ關シテハ從來ノ通一年ヲ主張セル
カ王ハ英國トノ交換公文ニハ期限ナシ佛ニ對シテハ期限
ハ明確ニ調印ノ時ヨリスル趣旨ニテ之ヲ決定セリ日本ノ
ミ特別ノ協定ヲナスハ到底出來カヌルコトヲ述ヘタルニ
依リ本官ハ朝鮮國境ノ如キハ英佛ノ國境トハ事情ヲ異ニ
スル所以ヲ詳述シ反省ヲ促シ置キタリ此ノ件ニ付テハ若
シ三ヶ月ノ期限及公文ノ形式ニ付御異存無ケレハ起算點
ハ條約實施ノ時ヨリトノ事ニ纏リ得ヘシト存ス

一、釐金等ニ關スル交換公文中ヨリ export duty ニ關スル
一句削除方王ハ强硬ニ主張セリ右ハ支那トシテ自發的ニ
實行スヘキモノニテ當然其ノ積リナルカ外國トノ約束ト
スルコトハ前例モ無キニ依リ承知シ難シトノコトナリ
本官ハ他ノ國トノ前例ナシトテ此ノ點ハ特に日本ノ重キ
ヲ置ク點ナレハ單ニ支那ノ意向ヲ表ハス趣旨ニテ財政部
長トノ間ニ右案文安結セル次第ナレハ變更ヲ承諾シ得ス
ト述ヘタルカ宋モ自發的ニ實行シタシテ頻リニ撤回ヲ
求メタリ

三、堀代理公使及王部長間ノ秘密交換公文ニ付テハ大体異

存ナシ

四、債務整理ニ對スル交換公文ハ前第三ノ秘密交換公文ト重複スルトノ議論モ出テタルカ一方ハ公表セラルルトノ點ヨリ大体此ノ公文ニハ異存ナシトノ事ナリ（之ハ公表スル分ナレハ寧口此ノ盡ニシテハ如何ト思ハル強イテ削除スヘキヤ）尤支那側返翰中國定税率實施前ナル文句ハ曩ニ反対シタル趣旨ニテ支那側ノ承諾スル所トナラス

294 昭和5年2月(8) 在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛（電報）

協定形式の件は解決するも日中間対立点について
難なる模様について
別電 二月八日着在中国重光臨時代理公使より幣原外務大臣宛第一八三号

關稅率据置期限をめぐって対立宋財政部長
は交渉の一時中止を申入れについて

本省 2月8日前着
南京 発

ハ實ハ日支ノ爲凡ユル努力ヲ試ミタル次第ナルカ遺憾乍ラ交渉繼續スルコトハ困難ト思ハルトノ話ナリシカ本官

モ日本政府ノ主張ハ自分ハ極メテ尤ノコトト思考セラル且强硬ノモノナルコトハ説明ニ依リ御解リノコトナルヘシ自分トシテモ困難ナル兩國ノ關係ヲ關稅問題ノ解決ニ依リ展開セムトノ決意ヲ爲シ過去數週間獻身的努力ヲ爲シ幸貴下モ同様ノ態度ヲ以テ交渉ニ當ラレ兔ニ角今日迄ノ結果ヲ見タル譯ナレハ右双方ノ努力ヲ無益ニ葬ルコトハ御互ニ精神上忍ヒ難キコトナリ然レ共日本政府ノ意向モ充分理由ノアルコトナレハ支那政府ニ於テ之ヲ受入レ難シトノコトナレハ交渉ハ中止スルノ外途ナント思ハルカ此ノ「アンパス」ヲ切抜クル爲更ニ一段ノ努力ヲ貴方ニ對シ望マサルヲ得スト述ヘテ差當リ本日午后ノ會議ヲ續行スルヤ否ヤニ付色々話合ヒタルカ兎ニ角三時半ヨリ王部長ヲ交ヘ三人ニテ會合スルコトニナリタリ

(別電)

南 京 発
本省 2月8日前着

公第一八二號

一、六日宋、王兩部長トノ會合ノ結果ヲ見ルニ協定ノ形式ハ大体我方ノ受入レラルヘキ形トナル見込ナルカ今日迄ノ意見ノ相違點ニ對シテハ支那側ニ於テ讓歩ノ模様ナキノミナラス税率協定中ヨリ雜類削除ノ件ハ餘程内部ノ事情アリト見ヘ宋ニ於テ強ク主張ス又輸出稅ノ件削除ノ如キモ王ト共ニ主張スル様ニナレリ

前回ニ於テモ宋ハ雜類ノ協定ニ對スル困難輸出稅ノ一句削除ニ付テモ言及シ居リタル次第ニテ上海ニ於テ一應纏

リタル内容ニ付南京政府ト相談シタル際種々ノ反対アリ右様強キ態度ヲ執ルコトナリタルモノナルヘキモ内情ハ可ナリ入組ミタルコトアル様ニ推察セラル
二、右ノ事情ノ下ニ南京宛貴電第一九號稅率協定期間ノ御訓令アリタルニ依リ本七日午后宋王兩部長トノ共同會見前ニ一括シテ宋ト懇談スルコト適當ト認メ本日正午宋ノ自宅ニ於テ會見セリ
右會見ノ内容ハ別電ノ通ナルカ宋ハスノ如ク双方政府ノ主張異ル以上ハ交渉ハ行詰リノ外（ナキ）ニ依リ他日ノ機會ヲ見テ話ヲ新ニスルコトモ一案ナルヘシ自分トシテ

公第一八三號

七日宋子文トノ會談内容（七日正午會見）

先ツ本官ヨリ特ニ伺ヒタルハ昨日ノ會議ノ結果ニ付色々研究シタリ其ノ結果ニ對スル政府ノ意嚮未タ了解スルニ至ラサルカ其ノ間ニ稅率協定期間等ニ關スル政府ノ意嚮ヲ電報シ來リタルヲ見ルニ其ノ他ノ問題ニ付テモ政府ノ最終的意嚮ヲ窮^(マズ)ハルニ付彼此綜合シテ御話シ致度キ爲ナリト前提シ實ハ昨日ノ會合ノ結果ハ遺憾乍ラ自分ニトリテハ失望ト言ハサルヲ得ス先ツ關稅協定ノ形式ノ問題ニ付テハ自分モ出來ル丈王部長ニ満足ヲ與フル用意アリ乍併之迄意見ノ相違ノ諸點ニ付テハ一モ自分ノ希望ヲ容レラレタルモノナキノミナラス王部長ハ第一條ニ於テ頓稅ノ次ニother like chargesノ如キ實質ニ關スル文字ヲ附加シ又附屬文書ヨリ輸出稅ノ文字削除ヲ提議セラレタル狀況ナリトテ第一條ノ右字句ノ如キハ又新ニ議論ヲ喚起スル問題ニテ到底承認スル能ハス輸出稅ノ點ハ單ニ支那側ノ意嚮ヲ表示スルニ過キサレハ強ヒテ之ヲ削除スル要ナカルヘク且右ハ支那側ノgood intentionヲ日本當業者ニ知ラス最良ノ策ニシテ之カ削除ノ新提案ハ贊成シ難ク是非再考ヲ請フ其ノ他最惠國

約款以下ニ對スル字句ノ點ニ付テハ更ニ審議ヲ進メ可ナリ日本政府ハ又國境貿易据置ノ年限ニ付テモ終始一貫一年主張シ居ルモノナリ而シテ夫リヨリモ更ニ政府ノ重要視スル問題ハ税率据置期間ヲ少クトモ五年トスルノ主張ナリ日本當業者ヲシテ關稅自主權ノ實現ノ新事態ニ適應スルコトヲ可能ナラシムル爲ニハ少クトモ五年ノ猶豫期間必要ナリ而モ右五年間ノ間ニハ金建制度ニ依リ相當ノ負擔ヲ增加セラルヘク更ニ多クノ品目ニ對シテハ二分五厘ノ引上ヲ認メラレ居リ日本側カ今日迄税率協定ノ交渉ニ當リ右ノ外幾多ノ讓歩ヲ爲シ來レルモ實ハ協定期間ニ付少クトモ其ノ主張ヲ實現シタキ希望ヲ有シタルカ爲ニシテ即チ之ニ依リ前記税率引上ケノ問題ニ付出來ル丈國內各方面ノ納得ヲ得ントシタル譯ナリノミナラス三年ト云フモ五年ト云フモ支那側ニ於テハ國論ノ差異ナカルヘシト思ハル故ニ自分トシテハ之等ノ問題ニ付日本ノ希望ノ通ル様貴部長ニ於テ更ニ一段ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ希望スル次第ナリトテ詳細ニ申入レタル處宋子文ハ日本政府ノ立場及困難ハ充分諒解スルモ支那側ニ於テモ非常ノ困難アリ政府ノ會議ニ於テハ二年ト決セシニ自分ニ於テ各方面ヲ說得シ漸ク今日ノ處迄漕キ着ケ時中止ノ已ムナキコトヲ述ヘ居タリ

本側ノ承認シ得ル形式ヲ案出サレテハ如何トテ各方面ヨリ議論シタルカ其ノ内ニ宋子文ハ支那ノ希望スル税率引下ケニ對シ日本政府ノ返事來レリヤト尋ネタルニ付本官ハ昨日張福運、堀内話合ノ結果ニ付テハ未タ返電ニ接セスト述ヘタルカ宋ニ於テハ交渉力現狀ノ如キニ於テハ遺憾ナカラ一時中止ノ已ムナキコトヲ述ヘ居タリ

295 昭和5年2月(8)日

在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

關稅協定交渉続行の可否につき請訓

南京 発

本省 2月8日前着

* 公第一八八號

關稅協定ニ關スル形式及實質上ノ各點ニ關スル交渉ノ結果ハ屢次ノ拙電ニ依リ御存シノ通ナリ本官トシテハ及フ限りノ努力ヲ盡シタル積リナルモ甚タ不滿足ノ點多々アリ而シテ他方右ニ依リ愈支那側ノ最後的ノ意向判明セル譯ナレハ日本政府ニ於テモ再ヒ形式及内容ノ各點ニ付至急上海ニ於テ此ノ交渉ヲ繼續スルノ可否ニ付冷靜ニ考慮セラルヘキ時

日本政府ハ又國境貿易据置ノ年限ニ付テモ終始一貫一年主張シ居ルモノナリ而シテ夫リヨリモ更ニ政府ノ重要視スル問題ハ税率据置期間ヲ少クトモ五年トスルノ主張ナリ日本當業者ヲシテ關稅自主權ノ實現ノ新事態ニ適應スルコトヲ可能ナラシムル爲ニハ少クトモ五年ノ猶豫期間必要ナリ而モ右五年間ノ間ニハ金建制度ニ依リ相當ノ負擔ヲ增加セラルヘク更ニ多クノ品目ニ對シテハ二分五厘ノ引上ヲ認メラレ居リ日本側カ今日迄税率協定ノ交渉ニ當リ右ノ外幾多ノ讓歩ヲ爲シ來レルモ實ハ協定期間ニ付少クトモ其ノ主張ヲ實現シタキ希望ヲ有シタルカ爲ニシテ即チ之ニ依リ前記税率引上ケノ問題ニ付出來ル丈國內各方面ノ納得ヲ得ントシタル譯ナリノミナラス三年ト云フモ五年ト云フモ支那側ニ於テハ國論ノ差異ナカルヘシト思ハル故ニ自分トシテハ之等ノ問題ニ付日本ノ希望ノ通ル様貴部長ニ於テ更ニ一段ノ努力ヲ拂ハレンコトヲ希望スル次第ナリトテ詳細ニ申入レタル處宋子文ハ日本政府ノ立場及困難ハ充分諒解スルモ支那側ニ於テモ非常ノ困難アリ政府ノ會議ニ於テハ二年ト決セシニ自分ニ於テ各方面ヲ說得シ漸ク今日ノ處迄漕キ着ケ時中止ノ已ムナキコトヲ述ヘ居タリ

タル譯ナリ右ノ如ク期間ノ問題ニ付テハ累述ノ如ク政府諸機關ノ確定議アレハ之ヲ覆スコトトナラハ遺憾乍ラ協定ハ不成立ニスルヨリ外ナシ此ノ點ハ如何ニ考フルモ外ニ方法ナシト考フ

第一條ノ other like charges ノ如キ文字ハ之カ削除方ニ付努力シテ見ルモ可ナルヘク輪出稅ノ問題ニ付テハ支那側ノ意嚮ハ甚タ明瞭ニシテ之カ廢止ヲ希望シ且又現行税率ヲ引上クルノ意嚮ナキコトハ充分明カニシ置クモ可ナルモ之ヲ文書ニ認ムルコトハ甚タ困難ナリ特ニ第一條自主權回復ノ精神ニ矛盾スル譯ナリ又難類ノ協定税率ニ付テハ右税率ヲ上ル意嚮ナキコトハ充分之ヲ言明シ居ルモ税率協定ノ形式ニスルコトハ如何ニシテモ政府ノ承認ヲ得ルコト困難ナル状態ニ陷レリ若シ双方ノ主張如何ニシテモ歩ミ寄リ難シトセハ交渉ヲ中止シ他日ノ機會ヲ待ツノ外ナシト思ハルト述ヘタルニ付本官ハ或ハ然ラムモ今日迄努力シ來リタル譯ナレハ更ニ一段ノ努力ヲ希望セサルヲ得ス前記ノ事項ノ外陸境關稅ノ問題ニ付テモ日本政府ハ据置期間一年ヲ固持シ居ル状態ナリ右ノ内雜類ノ稅率協定及輪出稅ニ付テハ貴方ニ於テモ内容ニ異議アル譯ニアラサレハ形式ニ付テハ何等日廷ノ地位動搖等）ナキ内ニ進行スルノ得策ナルヘキニ付屢次請訓シ置キタル前記ニ關シ何分ノ御回訓ヲ請フ

296 昭和5年2月(9)日

在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

關稅協定を交換公文にて行う事に対し請訓

上海 発

本省 2月9日後着

* 公第一九四號

關稅協定ニ關スル形式及實質上ノ各點ニ關スル交渉ノ結果ハ屢次ノ拙電ニ依リ御存シノ通ナリ本官トシテハ及フ限りノ努力ヲ盡シタル積リナルモ甚タ不滿足ノ點多々アリ而シテ他方右ニ依リ愈支那側ノ最後的ノ意向判明セル譯ナレハ日本政府ニ於テモ再ヒ形式及内容ノ各點ニ付至急上海ニ於テ此ノ交渉ヲ繼續スルノ可否ニ付冷靜ニ考慮セラルヘキ時

ニ代フルノ提議ヲ七日ノ會議ニ於テナシタル次第ナリ右提議ニ對スル御意見至急御回示アリタシ

~~~~~

297 昭和5年2月10日 常原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

批准事項を交換公文中に挿入する」とは不可

なる旨訓令

本省 2月10日後6時50分発

\*  
公第九四號

貴電公第一九四號ニ關シ

批准事項ヲ附屬公文中ニ規定スルハ我國ニ於テ全ク先例ナキコトニモアリ面白カラス旁々往電公第八六號申進ノ通我方ハ支那側最初ノ希望通り調印前御裁可ヲ仰クノ手續ニ依

ルコトト致度ニ付貴電公第一八一號王ノ提出セル交換公文案ハ之ヲ見合セシメラレタシ從テ批准事項ハ本協定ニモ附屬公文中ニモ存セシメサル代リニ本協定ノ第五條トシテ左記ノ規定ヲ挿入スルコトト致度

The present agreeement shall enter into force on

the tenth day following the date of the signature of this

貴電公第一八八號ニ關シ  
形式上ノ諸點ニ關シテハ其後既ニ電報セル通ニシテ實質上ニ付テモ綿絲統一稅、輸出稅及最惠國待遇等ノ諸問題電報濟ナル所

(一) 支那側ノ要求品目 (二) 協定期間 (三) 陸境特稅廢止豫告期間 (四) 我要求品目中ノ雜類除外等ハ何レモ互ニ相關聯セル問題ニテ要スルニ先方ノ讓歩程度如何ニ依リ我方讓歩程度ヲ決スル外ナキ次第ナルガ右 (一) ノ決定ニハ尙多少ノ時日ヲ要スヘク而モ支那側ノ言フ如ク贊澤稅全部ノ撤廢ノ如キハ主義ノ問題トシテ到底讓歩ノ餘地ナク御承知通十割稅ト云フハ國定稅率ヲ含ム次第ナルニ付國定稅率ハ現在ノ市價ニ換算シ假リニ六割ニ相當ストセバ十割稅ヨリ四割ヲ減スレバ國定稅率ト同様トナル計算ナリ故二十割稅ヨリ三割減ナル我方案ハ決シテ微溫的ナル讓歩ニアラスト御承知置アリ度依テ宋子文ニ對シテハ十割稅ノ輕減ハ奢侈稅ヲ設定シタル本來ノ趣旨ニ反シ現内閣トシテ之ニ應シ難キモ出來得ル限支那側ノ希望ニ副フ爲目下好意的ニ難キヲ忍ンデ詮議中ナル旨又夏布ニ付テモ往電公第七七號申進ノ通ノ事情ニテ關係省ハ絶對ニ引下困難ノ態度ニ出テオル

agreement and shall remain operative until the date on which the Treaty of Commerce and Navigation mentioned in Article 3 shall have come into force.

(本案ニ依レハ協定ハ調印ノ口ヲ含ム十一日田ニ效力ヲ發生スル義ト御承知アリ度)

尙貴電公第一八一號本件交換公文案中ニケ所ニ日本政府力批准ヲ行フ意味ノ文句アルモ御承知ノ通批准ハ天皇ノ親ヲ行ハセラルルトコロニシテ政府ノ權限ニ屬セス其他ニモ辭句妥當ナラサル點モアルニ付萬一支那側ニテ此種交換公文案ヲ固執スル結果我方ニテ改メテ考慮ヲ要スル場合假リニアリトスルモ右交換公文ハ直チニ其儘採用シ難キニ付右ニ御承知アリ度爲念申添フ

御承知アリ度爲念申添フ  
尙貴電公第一八一號本件交換公文案中ニケ所ニ日本政府力批准ヲ行フ意味ノ文句アルモ御承知ノ通批准ハ天皇ノ親ヲ行ハセラルルトコロニシテ政府ノ權限ニ屬セス其他ニモ辭句妥當ナラサル點モアルニ付萬一支那側ニテ此種交換公文案ヲ固執スル結果我方ニテ改メテ考慮ヲ要スル場合假リニアリトスルモ右交換公文ハ直チニ其儘採用シ難キニ付右ニ御承知アリ度爲念申添フ

298 昭和5年2月13日 常原外務大臣より 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

我方至急対応決定できざる状況につき今一度

中國側讓歩を引き出すべく交渉方訓令

\*  
第一〇三一號

本省 2月13日午7時30分発

中國側讓歩を引き出すべく交渉方訓令

299 昭和5年2月22日 在中国重光臨時代理公使より 常原外務大臣宛（電報）

国民政府部内の反対多く宋財政部長が主張を貫く」とを得ざる状況について

上 海 発  
本 省 2月22日前着

\*  
公第二三九号

二十一日午后宋子文ト會見シ先ツ閻錫山ニ對スル武器供給問題ニ付往電第二四一号ノ通應答ヲナシタル後関税問題ニ付左ノ如キ談合ヲナシタリ

宋部長ハ先ツ関税取極ノ問題ニ付テハ其ノ後南京ニ赴キ今朝王部長ト共ニ上海ニ歸來シ汽車中モ王部長ト談合ヲナシタルカ南京政府部内及王部長等ノ意見ハ依然強硬ニシテ充分ニ自分ノ意見ヲ貫クコトヲ得サリキト述へ更ニ雜類ノ點ニ付テハ「近キ将来ニ」ト云フハ文字曖昧ニテ之ヲ採用セントスル議ハ通過セサリキ

併シ此ノ次ニ行ハル税率改訂ノ際（国定税率）ニハ本件協定以上ニハ其ノ税率ヲ上ササル旨ヲ交換公文ニテ適當ニ往復スルコトハ差支ナシトノコトナレリ其ノ趣旨ハ次ノ国定税率制定ノ後ハ少クトモ一年間之ヲ繼續スルコトシ其ノ後ハ自分ノ在職中ハ改訂セサルコトヲ茲ニ申述ヘ差支ナシトノ趣旨ナリト説明シタルニ付

本官ハ右ニテハ甚タ不満足ニテ日本政府ヲ納得セシムル材

料トシテハ頗ル貧弱ナル力右以上ノ考慮ハ出来サル譯ナリヤト尋ネタルニ宋ハ種々相談シ見タルモ之以上ニハ出来サルニ付之ニテ取纏メ貰ヒタント述ヘタリ  
次ニ本官ヨリ輸出税ノ問題ヲ質問シタルニ宋ハ右ハ自分ノ手加減ニテ貴意ニ副フ様致ス考ヘナルニ付他ノ方面ニハ相談スルコトヲ避ケタリト述ヘタリ

300 昭和5年2月22日 常原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛公第二二〇号

別 電 二月二十二日発常原外務大臣より在中国重光臨時代理公使宛公第一一九號（極秘、大至急）

在中國重光臨時代理公使宛（電報）

關稅協定に關し夏布の税率協定期間陸境關稅廢止予告期間等および綿糸統一税については

綿糸に限り課稅容認方訓令

公第一一九號（極秘、大至急）  
本省 2月22日後11時35分發

關稅協定に關し妥協範囲につき訓令

公第一一九號（極秘、大至急）  
本省 2月22日後11時35分發

貴電公第二二四號ニ關シ

一、先方ノ要求品目ニ付テハ別電公第一二〇號ノ通ナル處

貴電公第二三〇號十割稅ヲ七割ニ止メ夏布ヲ半減スヘントノ貴見ニハ副ハサル次第ナルモ十割稅ハ六割迄輕減シ事實國定稅率ト同様又ハ夫レ以下ノ程度迄引下クルモノナルコト別電説明ノ通ナルヲ以テ支那側ノ希望ハ十分ニ滿タサレタルモノナルニ付夏布ハ別電ノ通一割減程度ニ止メ置キ度實ハ十割稅ノ輕減困難ナルハ數次電報ノ通ナルカ夏布ハ朝鮮トモ關係アル重要品ニシテ總督府ヨリハ鮮内產業ノ保護ノ見地ヨリ現狀維持ニスラ反對ノ意擣ヲ通シ越タルニ不拘政府ニ於テ大局上一割輕減ヲ決定シタル次第ナリ從テ右ハ支那側要求ヲ強テ值切ルコトヲ目的トシタル意味ニアラサルハ勿論實際問題トシテ十割稅ノ結果殆ント輸入杜絕シタル絹物ハ前記ノ引下ニ依リ相當ノ輸入増加ハ當然ニ期待シ得ヘク夏布ノ如キハ明治四十四年改正當時從價二割ノモノヲ一割ニ半減シタルニ不拘支那ヨリノ輸入ニ大差ナカリシモノナルヲ以テ支那側トシテハ右我方案ヲ以テ滿足スル様可然御説明アリタク尙支那側ニ於テ之ニ満足セス若シ要求品目全部ヲ撤回スルカ如キ場合貴電

公第二三〇號中段ノ御懸念アリトセハ嘗テ支那側ノ希

望シタル紙製扇ノ如キハ我方ヨリハ從價二割五分迄引下ヲ提議セラルモ差支ナク之ニ傘ノ現狀維持ヲ加ヘ以テ夏布ノ輕減程度ノ不足ヲ補フコトハ我方トシテ何等異存ナシ

二、取極内容ニ關スル問題中我方ノ最モ重要視スル稅率協定モ今日迄ノ交渉ノ經過ニ顧ミ

(一)協定期間五年ノ主張ノ達成ハ困難ト認メラルニ付御見込ニ依リ四年万已ムヲ得サレハ新國定稅率實施後三年トシテ妥結セラレ度尙出來得レハ此際右三年後モ稅率協定ヲ繼續シ得ル余地ヲ存シ置キタキニ付三年ノ期間修了ニ先チ彼我兩國政府ニ於テ商議ヲ爲シ其結果若シ協定繼續ノ合意ニ達スル場合ハ改メテ品目ヲ協定スルコトヲ得ル趣旨ノ文句ヲ議事錄ニ止ムルコトニ御配慮アリタシ

(二)雜類削除ハ往電公第一〇五號ノ方針ニ依リ取纏メ難シトセバ貴電公第二三九號宋子文ノ提案タル交換公文案ヲ承諾スルト同時ニ砂糖及毛織物（稅番一〇四、及八七）ニ付テモ（準備調書第七輯四九三頁參照）同様ノ文句ヲ議事錄中ニ存シオクコト可能ナラバ好都合ト

存ズ砂糖ニ付テハ各方面ヨリ熱心ナル希望アリ右ノ外  
貴信機密公第一號附屬議事錄案ヲ承諾セシメ得レハ更  
ニ好都合ナルモ右ハ支那側ニ於テ應諾困難ナルヘキヲ  
虞レオル次第ナリ

(三)先方ガ交換公文又ハ議定書ノ形ニ於テ約束スルヲ肯  
ムゼザル事項ヲ前記ノ通議事錄ノ形ニ於テ取纏ムルコ  
トハ從來御交渉ノ經過ニ徴スルモ相當困難カト察セラ  
ルルモ議事錄ナラバ強テ公表セズトモ可ナリトノ意味  
ニテ御努力ヲ試ミラレタク先方ニ於テ到底應諾セサル  
場合ハ見合ハセラルルモ致方ナシ

三、統一稅問題モ綿糸輸入稅ニ付留保ヲ附スル以上形式ハ  
兎ニ角トシ實質ハ内地品ノ統一稅ヲモ認ムルコトトナ  
ルニ付之ヲ單ナル輸入品限リノ留保ト解スルハ困難ト  
考ヘラルルノミナラス、内地品ノ統一稅ニ付テハ既ニ  
宋子文ト在華紡績トノ間ニ問題トナリオルニ鑑ミ兩者  
間ノ取極ヲ促進助長スル意味ヲモ含マセ往電公第九三  
號ノ通訓令シタル次第二シテ統一稅賦課ノ根據ニ關ス  
ル條約上ノ議論ヲ此際支那側ト争フ趣旨ニアラス實ハ  
客年往電第四八六號ノ當時ハ條約交渉ニ何ノ見極メモ

テ内地品ニ對スル統一稅ハ必至ノ勢ニシテ今日ノ場合  
我方ニテ之ヲ阻止スル有效ナル方策モナキ次第ナルヲ  
以テ此際我方ノ從來ノ主張及立場ヲ綿糸ニ限り變更シ  
テ寬容ノ方針ヲ採リ之ヲ我方ノ重要ナル讓歩シテ支  
那側ヲ說得シ他ノ協定問題ヲ有利ニ解决シ度キ所存ナ  
リ往電公第九三號訓令モ實ハ右ノ趣旨ニ依リ十分御利  
用アルコト期待シ居タル次第ナルカ貴官ニ於テ御交  
渉ノ上其望ナク又ハ今ハ交渉ノ時機ニアラストノ御意  
見ナルニ於テハ致方ナキニ付貴電公第二二五號ノ四ノ  
通本件留保力單純ナル輸入綿糸ノミニ對スル統一稅ノ  
留保ニシテ内地製品ニ對スル統一稅ヲ認ムル趣旨ニア  
ラサルコトヲ明ニスルコト可能ナラハ其通ニセラレタ  
シ

#### 四、輸出稅ニ付テハ貴電公第二二五號ノ通宋ノ腹案通廢止

ニ就テノ宣言ニテ満足スルコトトスヘシ、元來輸出稅

ノ廢止ハ支那トシテ實行困難ナルヘク寧ロ現實三分位

ニシカ相當セサル現行稅率ヲ增額スルモ現實五分以上  
ニナラヌ様確ヲ取付タキモ取極自体ノ決裂ヲ諾スル  
程ノ問題ニアラサルノミナラス我方ヨリ餘リ强硬ニ主

張スルコトハ貴電公第二二三號後段ノ次第ニ鑑ミ支  
那側ノ神經ヲ刺激シ取極成立ノ障害トモ察セラルルニ  
付論爭ハ今日ノ程度ニ止メラレ差支ナシ

五、陸境特稅廢止豫告期間ハ一年ノ主張ノ達成不可能ナラ  
ハ滿洲ニ於ル先物取引ハ最長六ヶ月ニ亘ルモノ多數ナ  
ル付當業者ノ利益ヲ毀損セサル趣旨ニテ六ヶ月程度  
ニ止メ度ソレ因難ナラハ最後案トシテ三ヶ月以下ニ  
ナラサル程度ニ於テ可成長期ニ妥結セラレタシ

六、其他ノ事項ニ付テハ既ニ電報ノ通ト心得ラレタキモ内  
容ニ關スル些細ノ變更ハ貴官ノ御裁量ニ一任スヘシ尤  
モ形式ノ點ニ付テハ往電公第六八號及公第一〇四號ノ  
訓令ニ依リ措置セラレタシ

#### (別電)

本省 2月22日後11時発

\*  
公第一二〇号

貴電公第一七七号ニ閲シ  
支那側要求品目ニ對シ左記ノ通譲歩シ差支ナシ尚右ハ何レ  
モ我方ノ讓歩シ得ル最大限度ニシテ此ノ上考慮ノ余地ナキ

次第ナルニ付右ノ範囲内ニ於テ適宜御交渉相成度シ

一、夏布 五丙ノ一（生地ノモノ）ノ中イノ一乃至イノ四

（幅四十六センチメートルヲ超エサルモノ）ノ現行税率ヲ各一割引下ケ且丙ノ二（生地以外ノモノ）ノ中イ

ノ一乃至イノ四（幅ノ制限ハ同上）ノ税率ハ右引下ケ

タル生地ノモノノ税率ニ夫々十二円ヲ加フルモノトス

（説明）往電ハ第七七号ノ理由ノ外朝鮮ニ於テハ麻織物ノ家内工業発達シツツアリテ同地當業者ヨリモ内地

同様関税引上方陳情アリ一般ニ大正十五年改訂ノ本件

税率ハ低キニ失シタリトノ非難アル為麻織物ノ税率引

上ハ早晚実現ヲ免レサル運命ニアル次第ナルヲ以テ此

ノ際支那品ニ對シ右引下ヲ認ムルハ我方トシテ最早専

門家ノ手ヲ離レ大局ヨリ讓歩シタルモノナリ既ニ大正

十五年ノ前後ニ於テ支那ヨリノ輸入額ニ大ナル變化ナ

キニ鑑ルモ支那側トシテ此ノ上減税ヲ要求スル理由ナ

ント謂フヘン尚貴電公第二三〇号御来示ノ通夏布ハ專

ラ朝鮮ヘノ輸入品ナルモ支那品ノ朝鮮輸入増加セハソ

レ丈内地品ノ朝鮮移出ハ減少スルモノト御承知アリ度

二、支那綱 三甲ノイ及ロヲ從價六割ニ引下

三、刺繡布 手工ノモノニ限り從價六割ニ引下

四、努力ヲ盡サレタシ

\*公第一二一號

本省 2月22日後9時30分發

往電公第一一九号及公第一二〇号ニ關シ  
貴官數次ノ御稟請ニモ鑑ミ此際急速妥結ヲ計ル趣旨ノ下ニ

前記往電ヲ以テ我方ニ於テ許容シ得ル極度ノ讓歩案ヲ訓令

シタル次第ニシテ同案中最後的讓歩ノ部分ノ如キハ政府ノ

対内的立場トシテハ殆ソト忍ヒ難キヲ此際忍バムトスル義

ナル所ニ十二日汪公使ノ本大臣ニ述ヘタル我總選舉ノ結果

ト国民政府ノ對日方針ニ關スル同公使ノ感想談及其ノ他ノ

情報ニ依ルモ支那側ニ於テハ朝野兩党ノ勝敗ニ相当ノ関心

ヲ有スルモノノ如ク若シ政府與党ニシテ絶対多數ヲ占ムル

場合ハ（唯今迄ノ處勝敗ノ數未タ確定シ居ラズ）我政局モ

安定シタリトノ感想ヲ與ヘ其結果本件取極ニ對スル支那側

ノ態度ニモ幾分我ニ有利ナル変化ヲ來スコト必シシモ絶無

ナラサルヘシトモ推セラルニ付急速妥結ノ要アルコトハ

素ヨリナガラ前記往電ノ範囲内ニ於テ可成我方ニ有利ナル豫告期間ハ三ヶ月ヨリモ六ヶ月等）ヲ以テ妥結シ我方ノ經濟的利益ノ缺損ヲ可成少クスル様貴官ニ於テ交渉上最善ノ

（説明）本品ニ對スル一般税率（從量税）ハ制定當時

從價四割ニ相當シタルモノナルコト前電ノ通ナルカ贅

澤関稅設定ノ結果大正十五年ノ一般關稅ノ改正ニ際シ

テモ何等変更ヲ加工サリシモノニシテ現ニ關係者ヨリ

ハ贅澤關稅撤廃ノ場合甲ノイ野蚕絲布ニ付テハ從價六

割四分ヲ主張シタルニ不拘右程度ニテ纏メタルモノナ

ル處贅澤關稅實施前二百余万元ノ輸入ヲ見タル支那品ハ

右実施後殆ント輸入杜絕トナリオルモ今次ノ四割減ニ

ヨリ再ヒ往年程度ニ近キ輸入ヲ見ルコトナキヲ保セス

右ハ夏布ニ付前記ノ通先方ノ要求ヲ其ノ仮容認シ難キ

モノアル為本品ニ付テハ實質上寧口不必要ナル讓歩ヲ

敢テスル次第ナルニ付六割五分程度ニテ喰止ムル方法

アラハ好都合ナリ

301 昭和5年2月22日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

民政黨の絶対多數確保との総選舉結果を背景

に關稅協定交渉を有利に運ぶべく交渉方訓令

302 昭和5年2月22日 在中国重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

日本政府は国民政府を承認しており閩錫山ヘ

の武器輸出は事實無根の旨宋財政部長に言明

について

上海 発

本省 2月22日後着

\*公第二四一号

往電公第二三八号ニ關シ

二十一日宋部長ト會見ノ際宋ハ日本政府トシテハ支那中央

政府ニ重キヲ置カレ之力健全ニ成リ行クコトヲ希望セラル

ルコトト思考スル處又實際ニ於テモ中央政府力堅固トナラ

サレハ關稅問題債務整理其ノ他ノ問題モ解決不可能トナル

譯ナリト述ヘ更ニ今回錫山ニ對シ日本側ヨリ武器ヲ供給セ

ラル由ノ報道アリトテ外交部長ノ談ト同様ノコトヲ持出

シタルニ付本官ハ日本政府トシテハ支那ノ内乱ニハ何等関係ナキモ南京政府ハ日本ノ承認シタル政府ナレハ之カ基礎

ノ固マルコトハ大イニ希望シ居ル次第ニテ其ノ點ニ付テハ何等議論ナシト思考ス御話ノ武器供給説ニ付テモ日本政府ハ充分ノ注意ヲ以テ之ヲ取扱ヒ居ル次第ニテ右ハ今朝王部長ニモ説明シ置キタリトテ往電公第二三八号本官ノ述ヘタル所ヲ繰返シ尚之ニ付貴方ニ於テ的確ナル情報ヲ有セラル次第ナラハ参考迄承知致シタシト述へ置ケリ

尚ホ右ニ續キ現下ノ時局ニ付宋ト種々意見ヲ交換シタルカ宋ハ戰局ニ付テハ先ツ心配ナカルヘキコトヲ述へ居タリ

~~~~~

303 昭和5年2月26日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

蔣介石主席が総選挙における民政勝利に祝
詞伝達方報告

南京 発
本省 2月26日前着

第一九九號

廿五日本官宋子文ト會見セル處宋ハ蔣主席ノ命ニ依ル旨前提シ「今回ノ總選挙ニ於ケル濱口内閣ノ赫々タル成功ヲ心ヨリ祝福スル」旨蔣主席ヨリ濱口總理ヘノ「メツセイジ」

トシテ御傳ヘアリタキ旨申出テタリ
右然ルヘク御取計ヲ請フ

上海へ轉電セリ

304 昭和5年2月26日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

關稅協定期限問題妥協困難なれど現状での協定成立の用意ある旨宋財政部長聲明について

上海 発
本省 2月26日後着

往電公第二四六号ニ閑シ
**
公第二四九号

二十六日晝宋子文ト會見シ先方ノ話ヲ聞キタル處大体上村領事発本官宛電報第二〇一号ノ通ナル力唯輸出税ノ問題ハ交換公文ニ依ルニ非シテ從前ヨリノ話合通り国民政府ノ沿岸貿易税撤廃聲明中ニ輸出税廢止ノ一項ヲ加フルコトトスルモノナル趣ナリ尚宋ハ目下ノ内政狀態ハ御承知ノ通ニテ各方面ノ反對多キ際ナレハ遂ニ思ヒ通ニ之ヲ説得シ得サリシ次第ナリト述へ更ニ六ヶ月ノ豫告案モ結局ハ三年ナル

305 昭和5年2月27日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

現状での關稅協定交渉妥結方意見具申

上海 発
本省 2月27日前着

往電公第二四五〇号
**
往電公第二四九号ニ閑シ

本件交渉ハ右往電ノ通リノ狀態ニテ之以上我方ノ希望ヲ認メシムルヲ得サルコト明白トナリタルニ付政局ノ現狀ニモ顧ミ此ノ程度ニテ纏ムルコトスルモ尚「レダクション」等ノ問題ニ付更ニ交渉ヲ要スル點鮮カラサル處右ニ閑シテハルニ付之ニテ宜敷クハナルヘク早ク取極成立セシメ度キ諭ナル旨ヲ明カニシタルニ付本官ハ更ニ内政狀態今日ノ如キ際南京政府ニ於テ果シテ直ニ協定ヲ成立セシムル用意アリヤノ點ニ付念ヲ押シタル處宋ハ其ノ用意アリト之ヲ肯定シ尚自分ハ二十八日金曜日夜南京ニ赴ク豫定ナレハ其ノ際同行セラレ得ル様都合ヲ付ケラレ度キ旨ヲ述へタリ

スルコトト致スヘシ

306 昭和5年2月28日 币原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

税率協定期間三年等現状での交渉妥結方訓令

本省 2月28日後5時発

*
公第一二六号

貴電公第二五〇号ニ閔シ

数次ノ貴電ニ依ルモ尚詰合ヲ遂ケオラレサル事項モ残リオ

ルニ付南京ニテノ交渉ハ貴見ノ通相当困難ナルヘシト察セ

ラルルモ我方ノ意図ハ往電公第一一九号乃至公第一二二号

ノ通ナルニ付右ノ範囲内ニ於テ妥結方此上共精々御尽力ア

リタシ尚(一)雜類ノ協定(二)輸出税(三)税率協定ノ期間ハ最早貴

電(公第二四七号及公第二四九号)ノ程度ニテ取纏メラルル外

ナシト思考ス

~~~~~

307 昭和5年3月7日 在中國重光臨時代理公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

王・宋両部長と打合せの結果上海にて関税協定最終案作成の予定について

別電一 3月7日着在中国重光臨時代理公使より幣

往電公第二五六号ニ閔シ

外交、財政両部長ト打合ノ結果先方ノ都合ニテ7日前上海ニテ會見スルコトナリ同日本官ハ堀内ヲ帶同王部長及

宋財政部長（徐謨列席）ト會見シタリ右交渉ノ經過要領別

二電報ノ通尚明八日會見ノ上ハ大体最終案ノ作製ヲ見ルヘ

キニ付至急御審議ヲ請フ其ノ上ニテ南京ニ至リ「イニシヤ

ル」ヲ附スル事ト致度シ

\*  
公第一二六二号

往電公第二五六号ニ閔シ

本省 3月7日後着

上海 発

~~~~~

三月八日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第二六四号

協定案を交換公文とすることに中国側難色について

日本側最惠国約款案文

原外務大臣宛公第二六三号

原外務大臣宛公第二六五号

三月八日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第二六四号

三月八日着在中国重光臨時代理公使より幣

原外務大臣宛公第二六五号

王部長による最惠国約款修正案

~~~~~

(別電一)

上海 発

本省 3月7日後着

\*  
公第一二六三号

~~~~~

表題及前文ニ付テハ支那側ハ表題ヲ往電(公第一六九号)ノ通リ（即チ Agreement concluded between the Empire of Japan and the Republic of China ノシテモ寧ロ前文ヲ

無クスルカ又ハ極メテ簡単ニスルコトヲ熱心ニ主張シタル

力結局表題ハ右ノ通トシテ前文ハ日本ノ案即チ南京宛貴電八七号ノ(イ)全文 Plenipotentiaries ハ Representatives ム改ム)ヲ採用スルコトニ折合ヒタリ

第一條 我方ハ今日ニ於テモ尚米支條約第一條ト同様ノ案文ヲ提出シテ右ハ本官ト宋部長トノ間ニ一應纏リタル案ナ

ルコトヲ説明シテ其ノ採用方ヲ主張シタルカ支那側ハ條約ノ根本論ヨリ之ニ反対シ往電(公第一七〇号)ノ形式（但シ It

is agreed ノ代リ）Japanese and Chinese Government agree ルハ且 other like charges ワ除キタルモノ）ノ案ヲ支持シテ讓ラス依テ本官ハ日本ノ立場ハ伊太利其ノ他ノ立場トハ異ナル譯ニテ

第三條、最惠國約款ニ付テハ豫テ別電(公第一六四号)ノ通ノ案文（為念全文電報ス）王部長ニ手交シ置キタル處（往電

(公第二三六号参照) 其ノ後之ニ對スル對案トシテ別電公第一六五号ノ通ノ修正案文ヲ上村領事ヲ通シ送付シ來リタルカ之ニ付本日ノ会合ニ於テ王部長ヨリ右ハ出來得ル限り日本ノ案ヲ尊重シタル案ナレハ御承知置キ有リタシト述ヘタリ

支那側ハ第一項第二項第三項中ヨリ頓稅ヲ除キ頓稅ニ付テハ第四項ニ依リ全部「カバー」サルモノナル事ヲ主張スルト共ニ我方提案第二項ノ末尾第三項ノ末尾及第四項ノ末尾ノ変更ハ何レモ内国產品若クハ内国船舶等ト比較シタル内国待遇ニ閑スル規定ナル處右ノ趣旨ニハ結局異議ナク且現ニ内国品又ハ船舶ト差別待遇ヲナス意向ヲ有セサルモ此等ノ趣旨ハ閑稅取極ノ問題ニ非シテ一般條約締結ノ際ノ交渉ニ讓ルヘキ問題ナレハ其ノ時ニ取扱フ事トシタシト主張シ本條文ヨリ前記諸點ノ削除セラルヘキモノナルコトヲ繰返シ述ヘタリ

我方ニ於テハ右字句ノ存置ノ必要ナル所以ヲ詳細ニ亘リテ説得スルコトニ力メタルモ支那側ハ最近迄前記ノ態度ヲ主張シ居タルニ付内国品若ハ船舶ト差別的待遇ヲナサストノ點ニ付テハ支那側ノ主張モ十分明カニナリ来レル譯ナルニ繰返シ述ヘタリ

附属交換公文

第一、陸境關稅問題ニ付テハ我方最初ノ案ヲ提出シテ其通過ニ努メタル處支那側ハ此ノ問題ニ付テハ先ツ支那側ヨリ

往電公第一七二号ノ(一)ノ通本官宛ノ文書ヲ提出シ本官之ニ回答スルノ形式トスルコトヲ主張シ議論ノ結果結局右支那側主張ヲ採用スルニ於テハ豫告期間ハ本條約実施後四ヶ月

トスルコトヲ承諾スヘシトノコトトナリ

第二、釐金廢止ニ閑スル件ニ付テハ前段ヘ Mr. T. V. Song

Minister of Finance ノ字句ヲ削除シ其ノ次ノ字句ア The course of our negotiation regarding the customs tariff question It was stated that the Chinese Government • •

トシ第一項末尾ノ括弧内ヲ削除スハコトニ落合く(轉出稅)ハ勿論削除セリ)

第三、塘王正廷交換公文ノ效力ニ閑スル秘密交換公文ハ我方ノ案ニテ異議ナカリキ

第四、債務整理問題ニ付テハ支那側ハ出來得ル丈發表セラルヘキモノノ範囲ヲ少クシ故障ノ起ヲサル様シタシトノ趣旨ヨリ字句ノ削除及修正ヲ希望シ居レリ本問題ニ付テハ前記第三ノ公文ト重複スル點モアレハ豫テ御來示ノ趣旨

付或ハ此ノ邊ニテ議論ヲ止ムル事トスルモ差支ナキヤニ思考シ居レリ

又第一項ニ「頓稅及其ノ他ノ閑連事項」ナル字句ヲ入ルル事ニ付テハ我方ノ説得ノ結果支那側モ之ヲ承諾シタル力第ニ亘ルモノナリトテ其ノ挿入ヲ肯ンセサルモ右ハ重大ナル點ニモ非スト思考ス

尚第一項ノ中頃ニ“levied on or granted to imports and • •” ナアルヲ “Applied to import and • •” ナスルコトトナリ

第四條ハ往電公第一八四号ノ第三條ヲ其ノ假採用ス

第五條日、英、支本文ニ閑スル條文ハ從来通

第六條效力期間發生時期ニ付テハ批准交換後十日ノ案ト署名後十日ノ案ト二ツ提案シテ色々從來ノ議論ヲ繰返シ見タルモ結局最後ノ條文ヘシテ “the present Agreement shall enter into force on the tenth day following the date of signature thereof” ルベハコトムニ條約ノ效力存續ニ閑スル規定ハ第四條ノ規定ニモ顧ミ之ヲ削除スルコトトナリ

ニモ從ヒ支那側ノ希望ヲモ斟酌シテ次回ニ決定スル手筈ナリ

(別電II)

Shanghai, 1930.

Rec'd., March 8th a.m., 1930

Gaimudaijin, Tokio.

Koo No. 264-1 (Very Urgent, Gokuh)

The Government of either Japan or China shall reciprocally grant to the other and the nationals of the other country, in customs duties, draw backs, transit duties and all other similar internal charges, levied on (or granted to) imports and exports of articles, as well as in tonnage dues and in all matters connected therewith, treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to its own nationals or to the government and the nationals of any other foreign country.

Articles produced or manufactured in the territories

of either Japan or China, and imported into the territories of the other, from whatever place arriving shall receive,

in customs import duties, drawbacks tonnage dues, transit

duties and all other similar internal charges, and in all

matters connected therewith, treatment not less favourable

than that accorded or to be accorded to like articles

produced or manufactured in any other foreign country

and imported into the territories of the other or to like

articles produced or manufactured in the territories of

the other.

Articles produced or manufactured in the territories of either Japan or China and exported to the territories of the other shall receive, in customs export duties, drawbacks, tonnage dues, transit duties and all other similar internal charges, and in all matters connected therewith, treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to like articles produced or manufactured in the same territories and consumed there-in or exported to any other foreign country.

to its own nationals or to the government and the nationals of any other foreign country.

Articles produced or manufactured in the territories of either China or Japan, and imported into the territories of the other country from whatever place arriving, shall receive, in customs import duties, drawbacks, transit duties and all other similar internal charges, and in all

matters connected therewith treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to like articles produced or manufactured in any other foreign country.

Articles produced or manufactured in the territories of either China or Japan and exported to the territories of the other country, shall receive, in customs export duties, drawbacks, transit duties and all other similar internal charges, and in all matters connected therewith, treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to like articles produced or manufactured in the same territories and exported to any other foreign country.

In regard to tonnage dues and all matters connected therewith vessels of either Japan or China shall receive in the territories of the other treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to the national vessels or to the vessels or any other foreign country.

End.

Shigemitsu.

(密電)

Shanghai, 10.05 p.m. 7th March 1930

Rec'd 11.40 p.m. " " "

Gaimudaijin, Tokio.

Ko No. 265-1 (Very Urgent, Gokuh)
The government of either China or Japan shall reciprocally grant to the other government and to the nationals of the other country, in customs duties, drawbacks, transit duties and all other similar internal charges, applied to imports and exports of merchandise, treatment not less favourable than that accorded or to be accorded

In regard to tonnage dues and all matters connected therewith vessels of either China or Japan shall receive in the territories of the other country treatment not less favourable than that accorded or to be accorded to the vessels of any other foreign country.

Shigemitsu.

308 聰程の年々月日 関税協定

中日関税協定に關する議論決定

* 昭和五年三月十一日閣議決定

中支通商條約改訂問題中関税事項に付テハ本年一月十一十四
日閣議決定ノ方針ニ基キ重光代理公使ニ支那側面照ムヘ開
示總且極秘裡ニ商議ヲ進メ彼我主張ノ相異ノ為幾多ノ曲
折ヲ經タルカ今般左記ノ通彼我ノ間ニ漸ク意見ノ一致ヲ見
タニ

1、関税及頓税ノ関へ支那ノ自主権ヲ認ムルコト

1、我國ノ對外重要輸出品士綿絲布、綿製品、海產物及雜
貨類等ノ主要ナル品目ニ付支那ヲシテ三年間（雜貨類

ハ一年間) 現行税率ノ据置乃至從價二分五厘迄附加引上ノ権利ヲ留保シタル据置ヲ約セシメ之ニ對シ我方ハ三年間支那ヨリノ輸入品中現ニ贅澤関稅タル十割稅ヲ課セラレ居ル支那絹及刺繡布ノ税率ヲ從價七割迄引下クルコト及夏布(支那麻)ノ現行税率据置ヲ約スルコト

三、支那ヲシテ釐金、常關稅、沿岸貿易稅其他一切ノ内地通過稅ヲ成ル可ク速ニ廢止スル意図ナル旨ヲ表明セシメ且右釐金ノ廢止ニ至ル迄、現行抵代稅制度ノ存置及其税率ノ現狀維持ニ關スル客年一月ノ協定ヲ確認セシムルコト

四、鮮滿國境特惠稅率ハ四ヶ月ノ猶豫ヲ以テ廢止スルコト

五、關稅頓稅及之ニ關聯スル一切ノ事項ニ付最惠國及內國待遇ヲ相互ニ約スルコト

六、無擔保及不確実擔保債務ノ整理ニ付支那側ヲシテ昭和四年一月ノ協定ヲ確認セシムルト共ニ支那側ノ國定稅率實施豫定期タル本年十月一日又ハ其以前ニ債權者會議ヲ開催スヘキ旨ヲ約セシムルコト

尚以上ノ各事項ハ日支間關稅ニ關スル取極(「アグリーメント」)トシテ條約ト同様ノ形式及效力ヲ有スル取極本書並之ニ附屬スル彼我ノ交換文書中ニ收容スルコトニ協議纏リタルトコロ本取極ノ眼目トスル協定稅率ニ關シテハ支那側ヲシテ我對支重要輸出品中ノ主要ナル品目ニ付稅率ノ拘束ヲシテ得タルモ砂糖、毛織物、人絹交織品等ハ遂ニ之ヲ逸シ且協定期間モ短カキニ失スル憾アル外輸出稅廢止ノ主張モ達成シ居ラズ且滿鮮國境特惠關稅廢止ノ猶豫期間モ四ヶ月トナレル等遺憾ノ點尠カラサルモ今次交渉ノ經過ヲ查スルニ此際是以上ノ保障乃至主張ノ達成ヲ望ムコトハ到底不可能ニシテ今後ハ時ヲ經過スルニ伴ヒ此ノ程度ノ妥結スラモ益々困難トナルヘキ虞アルニ付支那關稅問題ニ對スル我國ノ國際的立場ニ顧ミ將又現在ニ於ケル支那ノ國情乃至日支國交改善ノ大局ヨリ此際トシテハ前記ノ程度ニテ本取極ヲ締結スルコト寧ロ得策ナリト認メラル仍テ既ニ彼我代表者間ニ妥結ヲ見タル取極案及交換文書案ニ對シテハ不敢「イニシアル」ヲ附スルコトトシ我方トシテハ御裁可ノ手續ヲ執リタル上正式調印セシムルコト致度シ

印の旨報告

南京
本省
3月12日後着
發

公第二九七号

従電公第二九六号ニ關シ

關稅協定案及附屬文書ハ十二日午後六時半「イニシアル」ヲ終了セリ但シ「イニシアル」ノ日附ハ前電ノ通十一日附トシタリ

310 昭和5年3月13日 币原外務大臣より
在中国各公館宛(電報)

三月十二日日中關稅協定で合意について

本省 3月13日後8時発

合第一〇号

日支通商條約改訂問題中關稅事項ニ付テハ本年一月以降光代理公使ト支那側當局トノ間ニ極秘裡ニ商議ヲ進メ彼我

三、支那ヲシテ釐金、常關稅、沿岸貿易稅其他一切ノ内地通過稅ヲ成ル可ク速ニ廢止スル意図ナル旨ヲ表明セシメ且右釐金ノ廢止ニ至ル迄ハ現行抵代稅制度ノ存置及其税率ノ現狀維持ニ關スル客年一月ノ協定ヲ確認セシムルコト

四、鮮滿國境特惠稅率ハ關稅協定實施後四ヶ月ノ猶豫ヲ以テ廢止スルコト

五、関税頓稅及之ニ關聯スル一切ノ事項ニ付最惠國及内國

待遇ヲ相互ニ約スルコト

六、無担保及不確実担保債務ノ整理ニ付支那側ヲシテ昭和

四年一月ノ協定ヲ確認セシムルト共ニ支那側ノ國定稅

率実施豫定期タル本年十月一日又ハ其ノ以前ニ債權者

會議ヲ開催スヘキ旨ヲ約セシムルコト

尚以上ノ各事項ハ Agreement concluded between the

Empire of Japan and the Republic of China ト題スル取

極本書竝ニ之ニ附屬スル彼我ノ交換文書中ニ収容セラレオ

リ右取極及附属文書一切ハ我方ニ於テ樞密院ノ御諮詢ヲ聖

御裁可ヲ仰ギタル後双方正式調印ヲナシ調印ノ日ヨリ十一

日目ヨリ実施スルコトトナリオレリ

右調印ハ早クモ四月上旬頃トナル見込ナル処調印迄ハ取極

ノ内容ヲ一切發表セサル彼我ノ約束ナルニ付右御承知置ア

リ度シ

尙前記取極中ノ協定稅率ニ付御互ニ相手国ノ貨物ニノミ之

ヲ適用シ他国ノ均霑ヲ許ササルコトトナリ居ルカ如ク思考

シ居ル向モアルヤニ傳ヘラレ居ル處右ハ何等カノ誤解ニ基

クモノニシテ事實ハ一般條約中ニ見ル稅率協定様^(同次)最惠國待

遇ヲ有スル他国ノ貨物モ均シク均霑シ得ルモノニシテ何等
排他的規定ニ非サル次第ナリ為念
「至急情報」通轉電アリタシ
311 昭和5年3月18日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)
王外交部長より治外法權問題等解決方申し入
れについて

上海 本省 3月18日前着

公第三一八號

十七日王外交部長ト會見打解ケタル談話ヲ交換シタルカ

王ハ關稅問題無事終了ノ上ハ速ニ次ノ問題ニ移リタキ處自

分ハ法權問題ト團匪賠償金問題トニ依リ着手シタシ條約問

題トシテハ關稅問題ノ外ニハ主ナルモノハ法權問題ト内水

航行權ノ問題ノ二問題ノミナリ

ト述ヘタルニ付本官ハ自分力代理公使トシテ最初ニ貴部長
ト會見セル際ニ貴下ハ條約問題中ニ前記三問題ヲ述ヘラレ
其ノ他ノ交渉問題トシテハ團匪賠償金問題及濟南、南京、

漢口ノ三事件ヲ擧ケラレタルコトヲ記憶ス(南京事件ヲ持
出ス爲メニ述フ)自分ハ何レモ最モ實際的方法ニ依リテ之
カ解決ヲ促進スルニ異議ナシ條約問題中法權問題ニ移ルコ
トモ之亦主義上何等異存ナシ^(ニまかく)併シ法權問題ト一概ニ言フ

モ日本トノ關係ハ重大ナル利害關係ヲ伴フ複雜ナル問題ナ
ルニ付自分ハ漫然之ニ着手スルヨリモ充分ノ準備ヲ以テ之

ニ望ミタク考ヘ居レル次第ナルカ貴方ノ腹藏ナキ意見ハ之
ヲ歡迎スヘント答へ更ニ

團匪賠償金ノ問題ハ貴方ハ既ニ東京ニ於テ交渉ヲ試ミラレ

タルカ如ク文化事業ノ取極メカ汪公使ニ依リテ爲サレタル

關係上右ハ至極適當ノ處置ト思考スト述ヘタルニ王部長ハ

都合好^(宜)シケレハ夫レニテモ可ナルニ付御都合ヲ伺ヒタシ何

レニシテモ右ハ法權問題ト並行シテ交渉シタキ意図ナリト

ノコトナリシニ付本官ハ汪公使ト東京外務省トノ往復以外

ニ更ニ交渉ヲ爲サレタキ希望ナルニ於テハ東京ニテ之ヲ續

行セラレテハ如何自分トシテ右ハ實際的ト考フル旨答へ置
ケリ

312 昭和5年3月19日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛(電報)

關稅協定交渉の結果より氣付きたる国民政府

狀況に対する所見

上海 本省 3月19日後着

公第三二三號(極秘)

今回ノ關稅協定交渉ノ結果得タル氣付キノ點左ノ通御參考
ニ供ス

一、元來南京政府自身トシテモ對外關係ニ於テ緩和的態度

ニ出ツルコトハ國民黨ノ成立及其ノ性質ニ鑑ミ特ニ内

政上ノ狀態ヨリ甚々困難トスル處ナルカ殊ニ黨部及政

府ニ何等實勢力ナキ王正廷ヲ頭トスル外交部ニ於テハ

常ニ輿論ノ潮流ニ副ヒ最急進的政策ニ出ツル狀態ニシ

テ外交部ハ如何ニシテ巧妙ニ急進的ナル對外政策ノ實

諸事御打合セノ爲機ヲ見テ一時歸朝ヲ願出ツル意図ナリシモ支那側トノ關係上此ノ際本官ノ當地ヲ離ルルハ適當ナラ

公第三六九號（極秘）

吉田次官及有田局長ヘ

上 海 発
本省 3月31日後着

一時帰国の意向あるも治外法権等打合せ事項多きため離任出来ざる故本省要部の派員方請訓

昭和5年3月31日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

ルノ違ナク珍シキモノハ誇張又ハ作製シテ報道シ右ハ支那新聞ニ掲載セラレ又ハ輿論ノ注目スル處トナリ折角ノコトモ無責任ナル新聞報道ニ依リテ破壊セラルルコト多々アリ交渉案件ニシテ日本新聞報道ノ種トナル場合ニハ最早交渉ハ甚タ困難ナルカ又ハ不可能トナルノ虞アルコトヲ豫期セシムルノ狀況ナリ我新聞通信ノ現狀改善ハ對支關係ニ於テ餘程考慮ヲ要スルコトト思考セラル

313

スト考ヘラルニ付テハ打合事項多キ（特ニ治外法権交渉方針等）折柄本省要部ノ當局ヲ目立タサル方法ヲ以テ當地ニ派遣方大臣ノ許可ヲ得ル様御取計ヒ御願ス

314 昭和5年4月4日 通商局第二課

金銀為替の変動を理由とする大阪川口商人の引揚閉店について

付記 四月二十八日付通商局第二課

「大阪川口商人引揚ノ原因ニ關スル件」

大阪川口商人ノ引揚閉店ニ就テ（昭五、四、四、四、）

一、主トシテ對滿洲邦品輸出ヲ取扱ヘル在阪華僑川口商人ハ近來金銀爲替ノ激動ニ依リ營業困難ニ陥リ續々本國へ引揚ケツツアル模様ナルカ右商人ノ引揚ハ關西當業者ニ取り仕入商ヲ喪失スル次第ナルニ付關西中小商業者間ノ問題トナリ居レル模様ナリ

二、今本件ニ對スル關西商人ノ意図ヲ推測スルニ元來此川口商人ハ其ノ取扱高不明ナルモ一般ニ本邦對北支貿易ノ七八割ヲ占ムヘシト傳ヘラレ大阪市役所產業部ニ於

現ヲ期スルカノ技術的機關タルノ現狀ニシテ國家ノ全局ヨリ見テ適當ナル妥協政策ヲ持シテ政府部内ヲ纏ムルノ力ナキ模様ナリ而シテ右ノ如キ政府部内ノ狀況ヲ熟知セス單ニ外交部ノ右態度ヲ以テ支那側ノ主張ヲ判断スル他國ニ對シテハ外交部ハ大體其ノ政策實現ニ成功シツツアル現狀ナリ

二、南京政府部内ニ於テハ勢力爭ヒハ依然トシテ行ハレ蔣介石ヲ中心トスル宋家一派ノ勢力ハ胡漢民等ノ黨部理論派ノ勢力ヲ斷然壓迫シ居ルハ濟南事件交渉以來經驗セル處ニシテ王正廷ノ如キハ單ニ蔣介石ノ意図ヲ迎ヘ宋家トノ聯絡ニ依リテ其ノ地位ヲ保チ居ル次第ナルニ付（今回ノ交渉ニ於テモ此ノ點ヲ如實ニ示セリ）

茲⁽²⁾ニ後ノ交渉ニ於テモ注意ヲ要スルハ表面外交部ト折衝スルハ當然ノ事ナルモ特ニ蔣介石ハ勿論各方面ノ裏面ノ實勢力ニ對シテ聯絡交歎シ外交部ヲ牽制シツツ交渉ヲ理論的ヨリ幾分ニテモ實際的ニ導キ我方ノ有利ノ地歩ヲ造ルニ努力ノ必要アリ此ノ點ニ付テハ直接間接ニ黨方面ニ於ケル我方各種ノ機關ヲ充實シ適宜平素ヨリ其ノ利用ヲ計ルヲ要ス

三、支那側トノ交渉ハ前述セル通ノ内政上ノ關係及個人關係ノ作用等ヨリ實ニ機微ヲ要シ緩急自ラ機會ヲ促へ進行ヲ計ルヲ要ス從テ交渉開始前ニ詳細ニ準備研究ヲ盡シ出先ニ對シテハ政府ノ意見ヲ最終的及各程度ニ分チ詳知セシメ出先官憲ノ實際ノ運用努力ニ依リテ機會ヲ逸セス最大ノ要求貫徹ヲ期スルコトシ交渉開始後ハ大綱以外ハ努メテ之ヲ出先官憲ニ委スルコト然ルヘク特ニ中央ハ勿論關係官憲ニ於テハ對外的ニハ統一的態度ヲ以テ終始一貫スルヲ要スルハ素ヨリニシテ苟モ特ニ支那ニ對シテハ隙ヲ與ヘサル様終始此ノ點ヲ注意スルヲ要ス

四、⁽³⁾支那側ハ政府及黨部ニ於ケル會議組織ノ運用上方針態度ノ審議決定ニ極メテ機敏ニシテ大局ノ諸點ヨリ専門技術ニ亘ル點ニ至リテモ最敏速ニ處理スルノ特徴アリ我方ニ於テモ之ニ對應スル充分ノ用意ヲ要スヘシ

五、輿論新聞報道ニ關シテハ支那側ハ南京政府ノ勢力ノ及フ限り殆ト完全ニ「コントロール」シ居ル狀況ナルカ日本側ニ於テハ全然其ノコトナク同時ニ各新聞ノ競爭及特種漁リノ爲其ノ結果ノ國家ニ及ホス影響ヲ考量ス

テハ各般ノ點ヨリ一億一千萬圓ナリト推算シ居レルニ
徵シ大阪對支關係商工業上重要ナル地位ヲ占メ居レル
次第ナルカ更ニ其ノ取扱品カ多種多様ニシテ而カモ小
額取引多ク從テ關西ニ於テハ内地中小商工業者ニ對シ
其ノ存立ニ至大ノ關係ヲ有スル顧客トナリ年々邦品ノ
買付ヲ促進シ其ノ取引振ヲ見レハ當業者ニ代リテ爲替
運送等ノ危險ヲ負擔シ加フルニ支拂確實ニシテ而カモ
現金取引多キ爲關西中小商工業ハ一般ニ右川口商人ヲ
歡迎シ大阪中小商工業界ノ代表者タルニ川氏ノ如キハ
大阪商人ノ對支直接賣込即チ仲介華僑排除論等ハ机上
ノ空論ナリト稱シ川口商人ヲ謳歌シ居レル狀態ナルヲ
以テ未タ本件ニ關スル之等關係者ノ言議ヲ聞知セスト
雖モ恐ク川口商人ニ代ル顧客ノ出現セサル限り關西ニ
於テハ川口商人ノ衰退ヲ喜ハサルヘシ

三、次ニ在滿邦商ノ本件ニ對スル意図ヲ推測スルニ川口商
人ノ活躍ハ即チ在滿邦商ノ貿易進出抑損ノ原因ヲナン
居レルヲ以テ川口商人ノ衰退ハ之等邦商ニ取りテハ正
ニ貿易進出ノ活機ヲ與ヘラレタルニ等シキ理ナルカ之
追特ニ本件ニ關スル言議ヲ聞知セサルモ別添「國民」
〔省略〕

(四)前記事情ニ依リ關西當業者トシテハ川口商人ノ衰退ニ
對シ何等之ニ代ル仕入商ノ進出ヲ翹望スル次第ナル
右ニ付テハ差詰在滿邦商ニ俟ツノ外ナク而シテ在滿邦
商トシテハ滿鐵ノ支援ヲ受ケ居リ全滿ニ分佈シ比較的
の信用機能ヲ具ヘ居レル滿洲輸入組合ノ如キハ先ツ手頃
ノ對象タルヘク從テ前述同組合トノ間ニ貿易振興策ヲ
協議セルハ相當意義アル次第ナルカ翻テ考フルニ右組
合ハ元來滿鐵社員組成ニ係ル消費組合ニ對立シ在滿邦
人ノ消費ニ應スルヲ目標トシテ企圖セラレ其ノ成立ニ
當リ滿鐵ノ支援ヲ受ケ營業目的ヲ邦品ノ對支人方面賣
込ニ迄推擴セルモノニシテ關係者ハ所謂雜貨業者多ク
トモ想像スルコトヲ得ヘシ

而カモ成立後僅々二個年ヲ經過セルニ過キス（其ノ支
人方面發展ノ實情モ不明）從テ相當訓練ヲ經タル貿易
商トシテ之ヲ認メ得ヘキヤ否ヤ疑ナシトセ次ニ右組
合以外ノ邦商如何ト云フニ其ノ既ニ對支人取引ニ從事
セルモノハ相當營業擴張ヲ期セラルヘシト雖モ急速發
展困難ナルト共ニ大規模ノモノニ在リテハ煩雜多種ナ
ル川口商人取扱品ニ染手スルヤ否ヤ疑問アリ更ニ其ノ
他ノ一般邦商ハ所謂友喰的ノモノニシテ問題トナラス
斯ク觀シ來レハ差當ノ關西當業者トシテハ川口商人ニ
代ルヘキ仕入商ヲ迎フルノ望ミモ薄ク又在滿邦商トシ
テハ貿易進出ノ活機ニ臨ミテ充分活動シ得サル事情ニ
在リト見サルヲ得ス

次ニ當業者ノ立場ヲ離レ日支貿易ノ見地ヨリ見ルニ
別添「關東廳來報ニ依レハ滿洲支那商ハ日支爲替ノ變動
ヲ恐レ日本内地直接仕入ヲ廢シ爾今上海方面ヨリ邦品
ヲ間接ニ仕入レムトスル傾向アリトノ趣ナルカ果シテ
然ラハ邦品需要ハ存續スル次第ナルニ付簡單ニ考フト
キハ先ツ對支輸出ノ不振ハ可無之理ナリト雖モ苟モ間
接注文トナレハ取引事情ニモ大ナル變化ヲ來タスト共

ニ產地ト消費地トノ密接ナル連絡ヲ失フヘキヲ以テ果
シテ前述一億一千萬ノ對支輸出ヲ保持シ得ヘキヤ否ヤ
大ニ疑アリ況ヤ取引ノ發展輸出ノ增進暢達ハ之ヲ期ス
ルコト愈困難ナルヘシ從テ右ノ間接取引ハ對支輸出上
決シテ樂觀スヘキ事象ニアラス

然ラハ其ノ悲觀ノ程度如何ト云フニ本邦對滿輸出品ハ
(一)必需品ナルコト(二)價格上殆無競爭品タルコト(三)支
那人工業ノ急速發展ハ期シ難キコト(四)直接仕入ハ必
要有利ナルニ付一部支商力沒落又ハ手ヲ引クトキハ
之ニ代ル支商ノ出現ヲ促カス動機トモナルコト(五)爲
替激變期ニハ一般ニ危險ヲ感シテ關係貿易商ハ警戒
メラレ從テ現在ニ於ケル川口商人ノ衰退沒落ヲ以テ
永久的ノ川口商人ノ衰滅ト認メ難キ事情アルコト

等ニ顧ミ貿易ハ一時的不振ハ免レースタルモ決シテ深刻急激ナル輸出不振ヲ將來スルモノトハ思料サレス
五、以上ノ所見ヲ綜合スルニ川口商人ノ衰退ニ依リ關西當業者ハ直接取引ノ顧客ヲ喪失スルト共ニ本邦對支輸出ハ一時的不振（主トシテ雜貨）ヲ將來スルヲ免レースルシ在滿邦商トシテハ直ニ貿易進出困難ナリト雖モ茲ニ貿易進出ノ機運ニ際會セル次第ナリ

六、^(七)外務省トシテハ差詰メ在滿邦商保護並日支通商増進ノ見地ヨリ在滿邦商ノ貿易進出ニ付テハ相當便宜ヲ供與スルノ要アリ

(欄外記入)

引揚原因ヲ更ニ調査致度原因次第ニテハ考究ヲ要スヘキモノアルヘシト存ス　吉田

(付記)

大阪川口商人引揚ノ原因ニ關スル件（昭五、四、二八）大阪川口商人ノ引揚原因ハ別添参考書類並關東廳來信等ヲ綜合スレハ川口商人ノ本店タル在滿支那商力銀暴落ニ因リ

出附加税ノ徵收ヲ開始スルヤモ計ラレス右ハ我方トシテ之ヲ容認スルノ外ナキ次第ナルニ付右御含ミノ上貴地邦商側ニ於テ本件誤解ナキ様豫メ内々御手配置相成度シ尚右協定ハ大体本月下旬頃正式調印ノ運トナル見込、
本大臣訓令トシテ牛莊及關東長官へ轉電シ参考トシテ在滿各領事及青島へ轉電アリタシ
上海、北平、南京へ轉電セリ

316 昭和5年4月22日　太田関東長官より
幣原外務大臣宛（電報）

輸出附加税徵收につき中國側をして猶予期間

設定方請訓

関東庁　4月22日後發

本省　4月22日後着

貴大臣發在安東領事宛電報第八號ニ關シ

外第一九號

御來訓ノ次第内々關係當業者代表ニ對シ篤ト申聞ケルト共ニ支那側トシテハ或ハ日支關稅協定成立ノ曉輸出附加稅ハ新稅ニ非ストノ建前ヲ以テ臨ミ即時徵收方開始シ來リ何等

爲替上不測ノ損失ヲ招ケルニ依リ右爲替關係ノ危險損害ヲ免レムカ爲大阪ニ於ケル金圓ニ依ル仕入ヲ廢セムトスルニ在ルモノト認メラル尤モ右滿洲支那商中ニハ滿洲一般ノ支那商工業者カ近來奉天票累年ノ下落並銀價最近ノ暴落等ニ滿洲ハ十數年來ノ不況襲來シ居レルヲ以テ此種ノ破産休業等ニ基因シテ川口派遣員ヲ引揚歸國セシメタルモノ又ハ商店員ノ川口派遣ヲ見合セルモノモアルコトト思料セラル

315 昭和5年4月15日　幣原外務大臣より
在安東字佐美領事宛（電報）

中國側において關稅協定成立後輸出付加稅徵

収開始するやも知れず内々手配方訓令

本省　4月15日後6時発

第八號

貴信普通第一三〇號ニ關シ

往電合第一一〇號ヲ以テ申進置キノ通近ク日支關稅協定成立後ハ關稅ニ關スル支那ノ自主権ヲ承認スル次第ナルニ付支那側ハ從來貴地及大連牛莊ニ於テ我方ノ阻止シ来レル輸

ノ猶豫期間設定等ノ便法ニ付考慮ヲ肯セサルヤモ計リ難キニ付豫メ夫々然ルヘク措置方一應懶憚シ置キタルカ我方ヨリ見レハ右稅ハ新稅トシテ取扱ハルル次第トモ存セラルルノミナラス若シ即時徵收ヲ開始セラルルニ於テハ申ス迄モナク既約定先物取引ニ付當業者トシテハ不測ノ損害ヲ蒙ル譯（ト）相成ルヲ以テ既ニ關係者ヨリ請願ノ次第モアリ支那側ヲシテ一、右實施ノ場合ニ實施期日ヲ稅關告示後先物約定ノ期限タル五ヶ月後トセシムルカ二、少クトモ現在一般先物約定ノ大部分カ三ヶ月ヲ期限トスル實情ニ鑑ミ之ヲ三ヶ月後トセシムルカ（本年七月迄ノ重要物產既約定現在高約四千三、四百萬圓ノ見込）三、少クトモ右實施期日前ノ既約定取引ニ付テハ附加稅ヲ一律免除セシムル等當業者ノ損害緩和方ニ付御考慮仰キ度ク尙何分ノ儀御回電ヲ請フ北平、上海、南京、青島、在滿各領事へ轉電セリ

317 昭和5年4月23日　幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

中國側に關稅協定につき危惧の念を抱かせぬ
様留意して帰國方訓令

本省 4月23日後1時50分発

第二一〇号（極秘）

次官ヨリ

貴電公第三六九号ニ閑シ

貴官帰朝ノ為メ支那側ニ於テ通商條約改訂ニ閑スル我方針ニ對シ危惧ノ念ヲ懷クカ如キコトアリテハ面白カラサルモ本省トシテハ成ル可ク直接貴官ヨリ報告ヲ得度希望シ居ル次第付誤解無キ様支那側ヲ納得セシメ得ルニ於テハ關稅協定調印ヲ了シタル上ニテ約一週間位滯在ノ積リニテ一時帰朝セラレタシ

318 昭和5年4月25日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

日中關稅協定成立と同時に輸出附加税徵収さ

れぬ様宋子文に考慮申入れ方訓令

本省 4月25日後7時発

太田関東長官發本大臣宛電報外第一九號ニ閑シ

關稅自主權ヲ認メタル以上輸出附加税ヲ賦課セラルモ彼

公第二一四號

本省 4月25日後7時発

太田關東長官發本大臣宛電報外第一九號ニ閑シ

關稅自主權ヲ認メタル以上輸出附加税ヲ賦課セラルモ彼

319 昭和5年4月27日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

満洲において輸出附加税即時導入せざる旨宋

子文諒解について

本省 4月27日後着

公第四一九號

本省 4月27日後着

上海 4月27日後発

貴電公第二一四號ニ關シ（滿洲ニ於ケル輸出附加税ノ件）

四月廿六日宋子文ニ面會シ御趣旨ノアル處ヲ申入レタルニ
宋ハ本件ハ芳澤公使トノ間ニ長ク協議セラレ同公使ハ六ヶ

月支那側ハ三ヶ月豫告期間ヲ主張シ終ニ折合付カサリシ次
第ナル處關稅協定ノ主要ノ一目的ハスル滿洲丈ケノ變態ヲ

是正セムトスルニ在リ即チ成ルヘク速ニ他地方ト同様右附
加稅ヲ一律賦課ノ意嚮ヲ有セシ次第ナリトテ關稅交渉ニ入

ル當初ノ主張ヲ繰返シタルカ本官ハ右ニ對シ前述ノ通日本
側ハ何モ關稅協定成立ノ今日權利トシテ之ヲ主張スルノ意

嚮ヲ有スルニアラス關稅協定ニ對シテハ日本樞密院ニ於テ
幾多非難アルモ日本政府トシテハ銳意其ノ通過ニ努メ居ル

次第ナルカ唯滿洲貿易ノ實狀ヨリ日支通商ノ爲此ノ種ノ課
稅ニハ相當期間ノ「ノーテイス」ヲ與ヘラルコト適當ト
思考スル次第ニシテ且協定成立ト同時ニ增稅ノ措置ヲ執ラ
ルルハ殊更ニ神經ヲ刺戟シ面白カラサルニ付徐ニ遂行セラ
ルルコト可然右ハ支那政府ニ對スル日本側ノ信用ヲ増シ双
方トモ好都合ナルヘシト說キタルニ宋ハ御趣旨ハ充分諒解

セルニ付自分ノ關スル限り貴意ニ副フ措置ニ出ツヘキモ一
應必要ノ向ニ協議ヲ遂クルコトトスヘシト答ヘタルニ付本
方モ自ら右ハ支那政府ニ對スル日本側ノ信用ヲ増シ双
方トモ好都合ナルヘシト說キタルニ宋ハ御趣旨ハ充分諒解

是申入ヲ爲スヘキ筋合ニアラサル次第ナルモ滿洲方面ノ實情ニ照シ本協定實施後直チニ附加税ヲ徵收スルカ如キコトアリテハ在溝邦商ノ打擊少ナカラサルヘキニ付我方ヨリ權利トシテ主張スルニハアラサルモ日溝貿易ノ現状ヲ甚シク阻害セサル趣旨ニ於テ前記關東長官來電ノ實情ヲ披瀝シテ支那側ニ於テモ相當ノ考慮ヲ拂ヒ即時実施ヲ見ルカ如キコトナキ様可然宋子文ニ御懇談ノ上結果固電アリタン實ハ本件輸出税即時賦課セラレ日溝貿易ヲ阻害スルニ至ラサルヤトノ危惧ハ枢密院方面ニテモ論議スルモノアリ旁々支那側ヨリ何等力ノ言質ヲ得置クコト必要ナル次第ナルニ付右不取敢電報ス

320 昭和5年5月1日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

満洲における徵稅猶予期間六ヶ月延長方宋子

文に申し入れについて

上海 5月1日後発
本省 5月2日前着

公第四二六號

徃電公第四一九號ニ關シ

徃電公第四二三號宋部長ト會談ノ後宋ハ種種考へ見タル力
御承知ノ通從來ノ滿洲ニ於ケル變體ヲ除ク爲今回ノ協定ヲ
遂ケタル次第ナレハ此ノ上遷延スルハ支那側トシテ堪ヘ難
キ所ナルモ自分トシテハ折角ノ御申入ナレハ出來ル丈ケノ
事ヲ致度ク關稅協定成立ノ今日ナルモ特ニ一ヶ月ノ豫告期
間ヲ與フルコトニ取計フヘシト述ヘタルニ付本官ハ實ハ先
日モ御話シタル通本邦當業者ハ商取引ノ必要上六ヶ月又ハ

七ヶ月ノ猶豫期間ヲ切望シ居ル次第ナレハ一ヶ月ニテハ如何ニモ效果ナキ様思ハル何レニスルモ貴下ノ好意アル措置ニ一任スヘキニ付出來ル丈ヶ長期ノ期間ヲ與ヘ當業者ノ希望ニ副フ様努力アリ度キ旨ヲ述ヘタルニ宋ハ貴意ニ副フ様

充分努力スヘシト言ヒタリ
奉天、安東、關東廳ニ轉電セリ

請シタル趣ニ付御参考迄報告ス

追テ本件ハ本月末開催ノ豫定ナル日本商工會議所臨時總會ニモ議案トシテ提出スル趣ニ付爲念申添フ

記

支那ノ釐金、常關稅、沿岸貿易稅、通過稅並ニ之ト類似ノ内國課金廢止方ノ件

321 昭和5年5月1日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛
釐金等の内國課稅廢止實施に關し国民政府監視方奉天商工會議所決議について

機密公第三二(五號) 昭和五年五月一日 (5月6日接受)
在奉天
(5月6日接受)

奉天
昭和五年五月一日

總領事 林 久治郎〔印〕
外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿
支那ニ於ケル釐金其他課金廢止方ノ件

奉天商工會議所ハ客月二十六日議員會ヲ開キ左記建議案ヲ議決シ同日總理、外務、拓務各大臣及關東長官宛夫々ニ電

右當所議員會ノ決議ニヨリ建議ス

322 昭和5年5月6日

日中關稅協定

(續) 日本帝國ト支那共和國トノ間ニ締結セラレタル協定

昭和五年(一九三〇年)五月六日南京ニ於テ調印

昭和五年(一九三〇年)五月七日告示

日本國政府及支那共和國國民政府ハ各自ノ代表者ニ依リ左ノ諸條ヲ協議締結セリ
第一條
日本國及支那國ノ政府ハ日本國ノ領域内及支那國ノ領域内ニ於ケル物品ノ輸入及輸出ニ對スル税率、戻稅、通過稅並ニ噸稅ニ關スル一切ノ事項ガ夫々日本國及支那國ノ法令ニ依リ專ラ規律セラルベキコトヲ約ス

第二條
日本國及支那國ノ政府ハ物品ノ輸入及輸出ニ對シ適用セラル
關稅、戻稅、通過稅及他ノ一切ノ同様ノ内國課金ニ關スル一切ノ事項ニ右ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ日本國及支那國ノ船
ハ他ノ何レカノ外國ノ政府及其ノ國民ニ與ヘラレ又ハ與ヘ

日本國及支那國ノ政府ハ物品ノ輸入及輸出ニ對シ適用セラル
關稅、戻稅、通過稅及他ノ一切ノ同様ノ内國課金ニ關スル一切ノ事項ニ右ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ日本國及支那國ノ船
ハ他ノ何レカノ外國ノ政府及其ノ國民ニ與ヘラレ又ハ與ヘ

ラルベキ所ニ比シ不利益ナラザル待遇ヲ互ニ他方ニ對シ及
他方ノ國ノ國民ニ對シ相互ニ許與スベシ
日本國又ハ支那國ノ領域内ニ於テ生產セラレ又ハ製造セラ
レタル物品ニシテ他方ノ領域内ニ輸入セラルモノハ其ノ
何レノ地ヨリ到ルヲ問ハズ輸入稅、戻稅、通過稅及他ノ一
切ノ同様ノ内國課金ニ關シ竝ニ右ニ關スル一切ノ事項ニ關
シ他ノ何レカノ外國ニ於テ生產セラレ又ハ製造セラレタル
同様ノ物品ニ與ヘラレ又ハ與ヘラルベキ所ニ比シ不利益ナ
ラザル待遇ヲ受クベシ
日本國又ハ支那國ノ領域内ニ於テ生產セラレ又ハ製造セラ
レタル物品ニシテ他方ノ領域ニ輸出セラルモノハ輸出稅、
戻稅、通過稅及他ノ一切ノ同様ノ内國課金ニ關シ竝ニ右ニ
關スル一切ノ事項ニ關シ同一ノ領域内ニ於テ生產セラレ又
ハ製造セラレタル同様ノ物品ニシテ他ノ何レカノ外國ニ輸
出セラルモノニ與ヘラレ又ハ與ヘラルベキ所ニ比シ不利
益ナラザル待遇ヲ受クベシ
噸稅及之ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ日本國及支那國ノ船
舶ハ各他方ノ領域内ニ於テ他ノ何レカノ外國ノ船舶ニ與ヘ
ラレ又ハ與ヘラルベキ所ニ比シ不利益ナラザル待遇ヲ受ク

二	一	項目 番號	品 名
漁獲物及海產物	綿製品	千九百二十九年ノ支那國輸入稅表ニ於ケル番號	輸入稅表ニ於ケル番號
二二七、二二八、二三一	一九六、乃至二〇五、二〇六、二二三、二二六、	一九九、二〇二、	一乃至二〇、一二乃至二四、三二乃至三四、二六乃至三三、三七、三八、四〇、四三、四六、四七、五一、五三、五八、五九
二	二	二	二

第一 部

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
ニ存ジ候
本使ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラルヲ得バ幸甚ノ至
ルモノニ對シ右期間内課セラル輸入稅ノ最高率トシ
テ維持スベキコト

昭和五年（千九百三十年）五月六日南京ニ於テ
支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷 閣 下

重 光 葵

六六六(四) 掛置時計及一單位ニ組立テラレタル「ムーヴ
メント」（一打ニ付價格四十海關兩ヲ超エザル
モノ）

六七七(八) 海狸毛又ハ毛以外ノ材料ニテ作ラレタル「フエ
ルト」製ノ帽子（一打ニ付價格十五海關兩ヲ超
エザルモノ）

七〇六 魔法鑑及同部分品（一打ニ付價格十五海關兩
ヲ超エザルモノ）

七〇九 電氣機械及同部分品

四	三	小麥粉
雜	二八〇	
品		
六八五、七〇六、七〇九、七〇	三〇二、五六七、五六八、六〇三 乃至六〇五、六一二、六四七、 六五二、六六六、六七七、 九、七一〇、七一五	

本表第一部ニ掲ゲラル番號ハ千九百二十九年ノ支那國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ掲ゲラルト同一ノ物品ヲ示ス但シ左記番號ハ其ノ下ニ列記セラル物品ノミヲ示ス

六五二(四) 護謨製ノ短靴及長靴並ニ全部又ハ一部護謨ニテ作ラレタル履物

ベシ

第三 條

前記諸條及本協定附屬交換公文ニ掲ゲラル規定ハ日本帝國ト支那共和國トノ間ニ成ルベク速ニ商議セラレ且締結セラルベキ通商航海條約ニ包含セラレ且其ノ一部ヲ構成スペシ

第四 條

本協定ノ日本語、支那語及英吉利語ノ本文ハ慎重ニ比較セラレ且照合セラレタリ但シ右本文間ニ意義ノ相違アル場合ニ於テハ英吉利語ノ本文ニ表示セラルル意義ニ據ルベシ

第五 條

昭和五年五月六日即チ支那共和國十九年五月六日南京市ニ於テ本書二通ヲ作成ス

支那國駐劄日本國臨時代理公使 重 光 葵
支那共和國國民政府外交部長 王 正 廷

第一附屬書

一 前記協定ノ實施ノ日ヨリ起算シ支那國政府ハ本翰ノ附屬表第一部ノ第一、第二及第三項目ノ下ニ課セラル稅率ヲ三年間又右附屬表第一部ノ第四項目ノ下ニ課セラル稅率ヲ一年間日本國ノ領域内ニ於テ生產セラレ又ハ製造セラレタル右諸項目ニ屬スル物品ニシテ支那國ノ領域内ニ輸入セラルモノニ對シ右夫々ノ期間内課セラル輸入稅ノ最高率トシテ維持スベキコト但シ支那國政府ガ稅率ノ引上ニ關シ右附屬表ニ於テ爲シタル留保ニ從フベキモノトス

二 日本國政府ハ前記協定ノ實施ノ日ヨリ三年間ハ本翰ノ附屬表第二部ノ三項目ノ下ニ課セラル稅率ヲ支那國ノ領域内ニ於テ生產セラレ又ハ製造セラレタル右諸

昭和五年（一九三〇年）五月六日南京ニ於テ
昭和五年（一九三〇年）五月七日告示
帝國臨時代理公使ヨリ外交部長宛往翰

協定稅率ニ關スル交換公文

昭和五年（一九三〇年）五月六日南京ニ於テ

昭和五年（一九三〇年）五月七日告示

帝國臨時代理公使ヨリ外交部長宛往翰

七一〇 玩具及遊戯品

七一五 車輛 別號ニ掲ゲラレザル「ヴェロシピード」
 (例ヘバ自轉車等、一箇ニ付價格四十海關兩ヲ
 超エザルモノ)

本表第一部ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ前記稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ記載セラレタル稅率ト同一タルベシ但シ側線ヲ附セラレザル番號ニ屬スル物品ニ對スル稅率ニ關シテハ支那國政府ハ前記稅率ヲ從價二分五厘ヲ超エザル範圍内ニ於テ引上グルノ權利ヲ留保スルモノトス從量稅率ニ付テハ右ニ規定セラルル引上ハ前記稅表ニ於ケル稅率ガ決定セラレタル原課稅價格ヲ一律ニ又ハ千九百二十八年ニ稅率シテ行ハルベシ

改訂委員會ニ依リ採擇セラレタル課稅價格ヲ一律ニ基礎ト

支那國政府ハ輸入關稅以外ニ輸入綿織絲(番號第五十二)ニ對シ消費稅ヲ課スルノ權利ヲ留保ス

項目番號	品名	現行日本國輸入稅表ニ於ケル番號
一	夏 布	二九九、五(幅四十八センチメートルヲ超エタルモノヲ除ク)
二	絹 織 物	丙ノ一、イノ一乃至イノ四
三	刺 繡 布	三〇三、三ノ甲、イ及ロ 三〇八(手工品ニ限ル)

本表第二部ニ掲ゲラルル番號ハ別ニ明記ナキ限り現ニ實施中ノ日本國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ掲ゲラルルトニ實施中ノ日本國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ記載セラルル稅率ト同一タルベシ又本表第二部ノ第二及第三項目ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律ニ依リ現ニ課セラルル稅率ニ比シ三割ヲ減ゼラルベシ

本表第二部ノ第一項目ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ現ニ實施中ノ日本國輸入稅表ニ於ケル該當番號ノ下ニ記載セラルル稅率ト同一タルベク又本表第二部ノ第二及第三項目ニ掲ゲラルル物品ニ對スル稅率ハ贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル法律ニ依リ現ニ課セラルル稅率ニ比シ三割ヲ減ゼラルベシ

第二附屬書

鮮滿陸境特惠關稅ノ廢止ニ關スル交換公文

昭和五年(一九三〇年)五月六日南京ニ於テ
 昭和五年(一九三〇年)五月七日告 示

帝國臨時代理公使ヨリ外交部長宛往翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ本日附ノ左記貴翰ヲ受領スルノ光榮ヲ有シ候

第三附屬書

釐金等ノ廢止ニ關スル交換公文

昭和五年(一九三〇年)五月六日南京ニ於テ
 昭和五年(一九三〇年)五月七日 告 示

支那國ト日本國トノ間ニ本日署名セラレタル協定ニ關シ

本部長ハ右協定ノ實施後四月ノ期間ノ滿了ト同時ニ、支那國ト日本國トノ間ノ陸境ヲ通過シテ輸入セラレ又ハ輸出セラルル物品ニ對シ從來課セラレタル支那國關稅輕減率ガ廢止セラルベク且輕減セラレザル關稅率ガ右物品ニ對シ適用セラルベシトノ本部長ノ了解ヲ貴下ニ於テ日本國政府ノ爲ニ確認セラレンコトヲ要求スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ前記了解ガ正確ナルコトヲ日本國政府ノ爲ニ確認スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月六日南京ニ於テ

重光葵

本使ハ支那國政府ノ前記意図ヲ實行スル爲支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ執ラレタルカ又ハ執ラルベキカニ付閣下ニ於テ本使ニ通告セラルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月六日南京ニ於テ

重光葵

第二部

第四附屬書

債務整理ニ關スル交換公文

昭和五年（一九三〇年）五月六日南京ニ於テ

昭和五年（一九三〇年）五月七日 告 示

帝國臨時代理公使ヨリ外交部長宛往翰

以書翰啓上致候陳者本使ハ日本國債權者ニ支拂ハルベキ支

那國ノ無擔保及不確實擔保ノ債務ノ多數且多額ナルニ鑑ミ

ル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候右目的ノ爲債權者ノ代表者

ノ會議ガ支那國政府ニ依リ最近ノ期日ニ於テ招集セラルベ

キコト本國政府ニ依リ提言セラレ候

本使ハ支那國政府ニ依リ如何ナル措置ガ前記整理ヲ實施ス

ル爲執ラレタルカ又ハ執ラルベキカニ付閣下ニ於テ本使ニ

通知セラルルヲ得バ幸甚ノ至ニ存ジ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年（千九百三十年）五月六日南京ニ於テ

重 光 葵

編注 本文書は「條約彙纂 第一卷改訂版（日本国及各國間諸条約）」より日本文の往翰のみを採録。

323 昭和5年5月6日 在中国重光臨時代理公使より

幣原外務大臣宛（電報）

323 昭和5年5月6日 在中国重光臨時代理公使より

關稅協定が滿鐵の課稅上の特權並び材料關稅

免除等に影響を及ぼさぬよう留意方について

上海 5月6日前發 本省 5月6日後着

公第四五一號

滿鐵ニ於テハ撫順烟臺石炭ニ對スル課稅上ノ特點（撫順烟臺炭礦細目議定書第一、二、五及七條）並ニ滿鐵材料關稅免除（東支契約第七條及善後條約附屬協定第八條）ノ如キ關稅上ノ特殊取極力今回自主權承認ノ結果其ノ效力ヲ失フカ如キコトアラハ影響極メテ重大ナルヲ以テ右ニ關スル本官ノ意向ヲ承知シ度ク且ツ^次關稅交渉中右特殊取極力影響ヲ受クヘシトノ論議アリシヤ或ハ留保等ヲ附シタルコトアリ

ヤ又ニ支那カ輸出稅ヲ甚タシク引キ上ケサルコトニ付何等カノ保障アリヤ承リタントテ當地滿鐵大淵ヲシテ伺ヒ出テシメ居ルニ付本官ヨリ（一）ニ付テハ右ノ點ハ政府ニ於テモ本件準備當時ヨリ充分研究シタルモ自主權承認ハ條約ノ解釋

上當然前記ノ如キ特殊取極ニ影響ヲ及ホスヘキ筋合ニ非ラサレハ交渉ニ際シテハ我方ヨリ特ニ此ノ點ヲ提起セス萬一問題トナルトキハ右ノ條約論ニテ進ム方針ヲ採リタル次第ナルカ交渉中本件ニ付何等問題起ラス尙此ノ際滿洲邦人ニ於テ本件ヲ喧シク言フ様ノコトアラハ却テ支那側ノ注意ヲ喚起シ爲ニ不必要ニ問題ヲ起ス惧アル故滿鐵ニ於テモ其ノ邊ハ充分注意スル様申聞ケ置キ（二）ニ關シテハ交渉中支那ハ輸出稅ノ五分以上ニ引キ上クル意向ナキ旨非公式乍ラ宋財政部長ヨリ言質ヲ得居ル旨話シ置キタリ

北平、天津、奉天、安東へ轉電セリ

324 昭和5年5月30日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

子文談話報告

貴電第一八四号ニ閔シ

325 昭和5年5月31日 幣原外務大臣より
在天津田尻総領事代理宛（電報）

国民政府による銀價回復は期待困難について

本省 5月31日後6時發

輸出附加稅徵收は七月一日開始に決定との宋

当地為替銀行筋ノ意見ニ依レバ銀價ハ最近ノ急激ナル崩落ニ対シ目先キ多少ノ反撥ヲ豫想セラル、モ著シキ恢復ハ望ミ薄ニテ先行キ大勢軟弱ノ歩調ヲ辿ル可シト云フ蓋シ價格割安ノ為メ銀山ノ休鉱スルモノヲ生ジ支那亦各種ノ対策ヲ講ズル等多少強氣ノ材料アルモ世界的ノ需要萎縮、在銀過多、及供給過剩ノ大勢ニ対シテハ顯著ナル效果ヲ期待シ難ント云フニ在リ

326 昭和5年6月(8日) 在青島川越總領事より
幣原外務大臣宛(電報)

銀価暴落により日本商の不況深刻化の状況に

第一一四號

先月來低落特ニ甚シキ銀相場ノ爲當方ニ於テハ月末來支那人錢莊五軒閉店シ尙數軒ノ破産ヲ豫想セラル(市中ニ約二十軒ノ錢舗アリ)當地取引所錢莊部ハ去ル三日五十四圓八十錢ノ暴値解合ヒヲ行ヒ辛シテ多數關係者ノ破綻ヲ免カレ

えたきについて

閩東府 発

本省 6月10日後着

第三一號

満鐵ノ現ニ有スル各種課稅上ノ特權ハ其ノ權限ニ鑑ミ日支關稅協定第一條ノ規定ニ依リ何等ノ影響ヲ受クヘキモノニ

非ス原則トシテ右諒解ノ下ニ諸般ノ實際問題ニ考慮ヲ加ヘ

差支ナキモノカト存セラル處今般同社ノ意見満鐵ヨリ具申ノ次第アリ別便郵送シ置ケルカ右ニ關シ貴省ノ御方針承知致シ置キ度ク然ル處數日前安東ニ於テ同地稅關長ヨリ同

驛々長ニ對シ輸出満鐵石炭ニ對シテハ總稅務司ヨリ特ニ免除方訓令ナキ限り七月一日以降附加稅ヲ徵收スヘキ旨申出

タル處本件ニ付驛長ニ於テ直接稅關長ト接洽スルカ如キハ諸般ノ關係上面白カラスト思考シタルニ付不取敢之カ中止

方同社ニ命シ置キタルカ申ス迄モナク本件ハ獨リ輸出石炭ノ課稅問題ニ止マラス又安東驛限リノ問題ニ非ス其ノ影響

スル處甚大ナルヘキニ付之力措置方ニ付篤ト御考慮ヲ迎ア(和)テ

ルコトト致シ度

タル處氣配大體ニ於テ軟弱ナリ(當地取引所ノ取引ハ相對賣買ナルニ付取引所自體ニ付テハ懸念ナシ)輸入貿易ハ銀安ノ上昨今ノ時局ニテ奥地需要杜絶ノ爲一向ニ振ハス本邦ヨリノ輸入ハ半減シ居レリ輸出亦銀相場落着力ス且ツ世界的不況ノ爲海外ノ註文少ナシ雜貨營業モ漸次不況ニ傾キ殊ニ消費者ハ金建ノ日本商店ヨリ支那商店ヘト移リツツアル爲本邦商店特ニ悲況ニアルカ如シ邦人紡績工場モ津浦隴海線ノ不通等時局ノ影響ヲ主因トシ現物ノ奥地賣行皆無ニテ滯貨ニ惱ミ居レリ尤モ昨今相場稍反^(和)激ノ徵アルヘシ方面ノ時局意外ニ早ク北方ノ手ニ依リ解決セラルヘシトノ氣待ニ基ク先物ノ思惑買ニ依ルヘシ要スルニ當地經濟界ノ不況ハ相當深刻化シ來リ一般ノ最自由警戒ヲ要スル時機ニ到達シ居ルモノト認メラル上海、天津へ轉電セリ

327 昭和5年6月(10日) 太田関東長官より
幣原外務大臣宛(電報)

輸出付加稅徵收は満鐵の各種關稅上特權に影響するところ甚大につき其の措置方考慮を加

上海、北平、南京、安東へ轉電セリ

閩東府 発

本省 6月11日後着

在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

中国側は撫順炭に対し輸出付加稅徵收の積極的意向を持たぬと思われるについて

328 昭和5年6月11日 上海 6月11日後発
本官發安東宛電報第一號

貴官發大臣宛第三四號ニ關シ

本件ニ對スル我方ノ態度ハ往電合公第一四一號(大臣宛公

第四五一號)ノ通ニ有之元來撫順炭ノ輸出稅率ヲ特定シタルハ單純ナル關稅協定ト異ナリ滿洲五案件解決ノ一部トンテ又満鐵カ撫順炭鑛產稅及釐金等内地稅免除ノ代償トンテ毎年五萬圓ノ納付金ヲ支拂フ等ノ義務ヲ有スル規定(日支條約集四〇七頁乃至四一二頁)ト不可離ノ關係ヲ有スルモノニシテ右規定ヲ改正セサル限り支那カ自主權回復ノ當然ノ結果トシテ一方的ニ之ヲ變更シ得サル筋合ナルコト支

那力各國トノ自主權回復條約ノ締結後ニ於テモ各國關係ノ鐵道材料ノ關稅免除ノ取扱ヲ變更シ居ラサルニ徵スルモ明白ナリ又前記貴電ニ依ルモ貴地關稅當局力積極的ニ本件石炭ニ對シ附加稅ヲ徵收スルノ意嚮ヲ有セサルヤニ思考セラルヲ以テ貴官ハ前記ノ趣旨御含ノ上稅關長ト話合ヲ附ケルコトト致サレ度シ

外務大臣、北平、奉天、牛莊、關東廳長官ニ轉電シ南京ニ暗送セリ

329 昭和5年6月11日 帰原外務大臣より
在間島岡田總領事宛

抗議付納付の輸出付附加稅および陸境關稅の払

戻しは期待出来ぬ趣について

通一機密第一八八號

昭和五年六月十一日

外務大臣男爵 帰原 喜重郎

在間島

總領事 岡田 兼一殿

抗議付納付ノ輸出附加稅及陸境關稅拂戻方ニ関スル件

330 昭和5年6月14日 在安東森岡領事より
幣原外務大臣宛（電報）

撫順煙台炭に關し付附加稅徵収との稅關長通知
に対し實力阻止を免かれぬものとして準備中
について

安 東 6月14日後発
本 省 6月14日後着

331 昭和5年6月15日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

輸出付附加稅徵収に關し實力行使を前提として
の交渉には反対の旨意見具申

上 海 6月15日後発
本 省 6月15日後着

第四〇號 本官發上海宛電報
第一六號 往電第一四號ニ關シ

貴電第一七號ニ關シ（輸出附加稅徵収ノ件）

當地稅關長ハ總稅務司ヨリ關務署ハ撫順煙台炭ニ對シテ輸出附加稅ヲ徵收スルコトニ決定セル旨回訓ニ接シタル趣ヲ

以テ本十四日公文ヲ以テ當地驛長ニ對シ右ノ次第ヲ通知スルト共ニ若シ抗議ヲ提出セラルニ於テハ日本公使ヲ介シ國民政府ニ交渉アリタキ旨照會シ來レリ

就テハ抗議方閣下ノ御配慮ヲ煩度ク當方ニ於テハ實力阻止ヲ免カレサルモノトシ準備中ナリ

大臣、北平、奉天、牛莊、南京、關東長官へ轉電セリ

日支關稅協定實施ノ結果客年二月以来貴地方支那稅關ニ於テ徵收シ居ル輸出附加稅及陸境關稅（三分一減廢止）中前者ハ去五月十六日ヨリ又後者ハ来ル九月十六日ヨリ夫々條約上正當ノモノトシテ取扱ハルヘキ次第ノ處右ニ關聯シ今般朝鮮總督府側ヨリ前記不當課稅ハ孰レモ抗議付ニテ納付セラレ居リ且間島稅關側ニ於テハ之ヲ別勘定トシテ一般關稅ト區別シ居ル趣ナルニ付此際何トカンテ關係者ニ拂戻サシムル様支那側ト交渉アリ度旨申出アリ右ニ付當方トシテハ本件課稅實施當時ノ経緯、他地方トノ振合其他各般ノ事情ニ顧ミ今更支那側ト交渉スルモ其ノ目的ヲ貫徹スルコト頗ル困難ト思考シ居ル次第ナルモ總督府側ヨリノ折角ノ申出ニテモアリ一應稅關側ニ對シロ頭ヲ以テ右御申入ノ上好意的考慮ヲ加フル様談合ヲ遂ケラレ結果御回報相成度尚本件拂戻ニ付關係當業者ヲシテ期待ヲ懷カシムルカ如キコトハ面白カラサルニ付右交渉ハ外部ニ漏レサル様御留意相成度爲念

本信写送付先、在上海重光代理公使

那力各國トノ自主權回復條約ノ締結後ニ於テモ各國關係ノ鐵道材料ノ關稅免除ノ取扱ヲ變更シ居ラサルニ徵スルモ明白ナリ又前記貴電ニ依ルモ貴地關稅當局力積極的ニ本件石炭ニ對シ附加稅ヲ徵收スルノ意嚮ヲ有セサルヤニ思考セラルヲ以テ貴官ハ前記ノ趣旨御含ノ上稅關長ト話合ヲ附ケルコトト致サレ度シ

外務大臣、北平、奉天、牛莊、關東長官へ轉電セリ

大臣、北平、奉天、牛莊、南京、關東廳へ轉電セリ

332 昭和5年6月17日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛

石炭付加税問題により日本の満州権益が損な
われぬ様メーズ總稅務司に申し入れについて

上 海 6月17日後発
本 省 6月18日前着

公第五九五號

十六日「メーズ」往訪青島宛往電第一一號ノ件ニ引續キ本官ヨリ安東稅關長ハ日本ノ滿洲ニ對スル關係ヲ承知セスト見ヘ頗ル無理解ノ措置ヲ行ヒ困リ居レルカ右ハ安東ニ於ケル石炭輸出附加税ノ問題ナリト述ヘタルニ「メ」ハ右ハ自分モ承知シ居レリトテ更ニ總稅務司ノ地位ノ困難ナル所以ヲ縷述シ自分ハ支那政府ノ意嚮ヲ離レテハ何モ仕事出來ス現ニ天津稅關差押ヘノ問題ニ付テモ板挾ミトナリ非常ニ誤解ヲ受ケ居ル次第ナリトテ恰モ石炭輸出稅問題ニ付テモ同様ナリトノ意嚮ヲ仄カス如クナリシヲ以テ本官ハ總稅務司

ノ地位ノ困難ナルコト及御説明ノ次第ハ良ク諒解シ居ルモ今日特ニ訪問シタルハ貴下力單ニ取次カレタリト想像セラル支那側當局ノ意嚮ヲ聽カソカ爲ニアラスシテ重要ナル責任アル總稅務司ノ地位ヲ占メラル貴下ノ意見ヲ承ラン力爲ニ來レル次第ナリ

石炭輸出稅ノ問題ハ日支間ニ於ケル特別ノ條約及契約等ニ依リ定メラレ居リ之等條約及契約等ハ滿洲ニ於ケル日本ノ特殊地位ヲ構成スル基礎的組織ノ重要ナル一部ヲ形成スルモノニシテ今回ノ關稅協定ニ依リ理論上將實際上何等左右セラルヘキモノニ非ス此ノ關稅協定カ萬一斯ル滿洲ニ於ケル日本ノ特殊ノ地位ヲ動搖セシムル結果ヲ來スカ如キ場合ニハ恐ラク其ノ成立ヲ見サリシナルヘシ即チ本問題ニ付テハ本官ハ極メテ明確ナル意見ヲ有スルモノナルカ安東稅關長ハ不幸ニシテ日本ノ之等ノ關係ヲ考量セス且又條約ノ問題ヲモ研究スルコトナク不當ノ措置ヲナシ同地ニ於ケル日本人ノ感情ヲ無益ニ刺激スルコトトナリ居レリトノ趣旨ヲ強ク述ヘタルニ「メーズ」ハ尙自己ノ措置ニ付縷々陳辯シタルモ本件ニ關スル事態ヲ初メテ良ク理解シタルモノノ如ク前記ノ御趣旨ハ充分了解セルニ付明日迄猶豫アリタク自

分ニ於テ努力ノ上直ニ其ノ結果ヲ御返答致スヘシト答ヘタリ

北平、南京、牛莊、安東、奉天、關東長官ニ轉電セリ

333 昭和5年6月17日 在安東森岡領事より
幣原外務大臣宛（電報）

石炭付加税問題に対しても実力阻止
で臨むべき旨意見具申

安 東 6月17日後発
本 省 6月18日前着

第四六號

往電第一九號ニ關シ
本官發上海宛電報第二二號

今夜稅關長ヨリ口頭ヲ以テ御申入ノ儀ハ篤ト考慮ヲ加ヘタ

ルカ國民政府ノ方針カ附加稅徵收ニ決シタル今日稅關長ノ立場上之ニ違反スルコトモ出來難ク就テハ妥協ノ方法トシ

テ七月一日ヨリ向フ三週間ヲ限り問題ノ石炭附加税ヲ「チ
エツク」ニテ稅關ニ「デボジット」セシメ上海ニ於テ交渉

ノ結果徵收免除ニ決セル場合ニハ之ヲ返還スルコトニ取計

334 昭和5年6月18日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

石炭付加税問題につきメーズ總稅務司より差
し当たり現状維持の旨回答について

上 海 6月18日後発
本 省 6月18日後着

上 海 6月18日後発
本 省 6月19日前着

公第五九七號

往電公第五九五號ニ關シ

十七日午前「メーブ」來訪自分ハ本問題ニ關シ目下斯ル措置ヲ執ルノ不得策ナルコトヲ理由トシテ關務署ヲ說得シタル處關務署ニ於テハ條約問題ニ付テ種々議論ハアリタルモ差當リ（for the time being）現狀ノ儘トスルコトトナリタリト回答シタルヲ以テ本官ハ for the time being ト言ハルモ自分ハ石炭輸出稅ニ關スル從來ノ取極又ハ契約力更新サレサル限り當然現狀ヲ維持スルモノナリト諒解スト特ニ念ヲ押シタルニ「メ」ハ要スルニ目下時機ニアラストノ口實ヲ以テ取止メタル次第ナリト説明セリ

安東、奉天、北平、南京へ轉電シ牛莊、關東廳へ暗送セリ

335 昭和5年6月18日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）
幣原外務大臣より
供託輸出正稅払い戻しにつき間島の交渉経過

をみて當方で交渉をすすめる旨について

尙本件供托金中三分ノ一減ノ分ニ付テハ關稅協定ノ規定ニ照ラン我方ニテ納付ノ一義務ナキモノト解セラル處冒頭貴信輸出附加稅ト同様ニ取扱ハルルハ何等特別ノ理由アル次第ナリヤ

336 昭和5年6月20日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）
幣原外務大臣より
石炭付加稅問題解決の旨安東税關長等へ内訓

發出方總稅務司に申し入れ訓令

本省 6月20日後6時25分発

公第二七三號

貴電公第五九七號ニ關シ

貴官ノ御尽力ニ依リ差當り問題ノ解決ヲ見タル次第ノ處將來此種問題ノ發生ヲ避クル為此際總稅務司ヨリ安東竝ニ同

一件事情ノ下ニアル當口大連等ノ稅關長ニ對シ内訓ヲ發スル等何等適當ノ措置ヲ講セシムルコト、致度ニ付テハ右支那側ト交渉方可然御取計アリ度既ニ御配慮中ノコト、ハ存スルモ為念申進ス尚安東發貴官宛電報第一七號本溪湖炭ニ付テモ既ニ御手配済ナルヘキモ前記申入ト同時ニ併セテ先方ノ注意ヲ喚起シ置カレ度シ

本電ヲ安東奉天北平ニ又貴電ト共ニ牛莊關東廳ニ轉電セリ
南京ニ轉電アリ度シ

公第六〇四號

六月十一日附間島總領事宛通一機密第一八八號貴信ニ關シ

本件、四月二十三日附川越總領事發本官宛機密第五六號公信青島ニ於ケル供托輸出附加稅拂戻シノ件ト關係アリ青島ノ問題ニ付テハ既ニ財政部當局ニ非公式ニ申入レ居リ宛力モ牛莊ニ於テ支那商人ト稅關トノ間ニ同様ノ問題アリタルヲ以テ右結果ヲ見タル上當方ニテ交渉ヲ進ムル心組ニテ荒川領事ニ查報方申進メ居ル際ナレハ（六月十一日附機密公第八二號拙信參照）間島ニ於ケル交渉力我方ニ有利ニ解決セサルカ如キコトアラハ面白カラナルニ付本件ハ前記牛莊ヨリ何分ノ報告アリタル上ニテ開談スルコト可然ト認メラルニ付右様御計ヲ請フ

尙本件供托金中三分ノ一減ノ分ニ付テハ關稅協定ノ規定ニ照ラン我方ニテ納付ノ一義務ナキモノト解セラル處冒頭貴信輸出附加稅ト同様ニ取扱ハルルハ何等特別ノ理由アル次第ナリヤ

通一普通第七四號

昭和五年八月七日 外務大臣男爵 壁原 喜重郎

在支
臨時代理公使 重光 葵殿
支那輸出稅改訂方ニ關スル件

先般大豆輸出稅改訂說ノ真相並輸出稅率表ノ一般的改訂計画進捗ノ狀況等調査方ニ關シ往電公第三〇五號ヲ以テ申進メタルニ對シ貴電公第七四五號ヲ以テ御回報ノ次第アリタル処輸出稅改訂方ニ關シテハ王正廷及宋子文力日支關稅協定交渉當時其ノ他ノ機會ニ於テ屢次言明シ居ル次第モアリ（貴電公第一八六號、公第二一五號、公第二三九號及公第四八一號等參照）且貴電公第七四五號張閩務署長ノ内話等ニモ顧ミ支那側ニ於テハ近キ將來ニ於テ現行輸出稅率ヲ著

シク増率スル意向ナキヤニ思考セラル、モ税率ノ急激ナル
引上ハ貿易上影響スル所歎カラズ殊ニ時節柄切詰メタル採
算ヲ以テ取引ヲ為シオレル我在支輸出等ノ打撃鮮少ナラズ
ト推察ニ付本件改訂計画ニ関シテハ此上トモ十分警戒ヲ加
ヘラル、ト共ニ改訂輸出税率ヲ實施スルカ如キ場合ニハ豫
メ支那側ニ可然御交渉ノ上實施前十分ノ猶豫期間ヲ存セシ
ム一方公布前ノ契約品ニ対シテハ現行税率ヲ適用セシム
ル様適當御配慮相成様致度此段申進ス

338 昭和5年9月16日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

輸入税率改訂は日中関税協定を尊重する内容
にて立法院通過次第これを実施する旨の張福
運務處長内話について

上海 9月16日後発
本省 9月17日前着

公第九〇一號

往電公第八六四號ニ關シ
其ノ後引續キ張福運等ニ就キ内々確カメタルモ改正案力立
ルトノ意ナリヤ一応才確メ置キアリ度シ。

確ナル情報入手ニ御注意アリ度ク尚新税率ノ内容ニ關シテ
ハ貴電公第九〇一號宋子文ノ談話ニ依レハ我方トノ協定關係ヲ嚴重ニ尊重シ居ルトノコトナルカ、右ハ我方トノ協定
品目ニ關シテハ協定税率ヲ其低新国定税率トシテ採用シ居
ルトノ意ナリヤ一応才確メ置キアリ度シ。
尚新国定税率ハ複稅制ヲ採用シ居レリトノ支那新聞記事ア
ル處右併セテ御查報アリ度シ

南京へ轉電アリ度シ

340 昭和5年10月14日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

新税率案は北京評価価額に比し特に増減せる
ものでないと認められることについて

上海 10月14日後発
本省 10月14日後着

公第九九〇號

往電公第九八九號ニ關シ

張ノ談話ヨリ判断スルニ十月八日附機密公第二三九號公信
送附ノ草案ハ相當根據アルモノト思ハルル處協定税率トノ

法院ニテ審議中ナリトテ夫レ以外ノ事情ハ不明ナリシカ往
電公第八九六號宋ト會談ノ節輸入税率改訂ノコトハ如何ニ
ナリ居ルヤト尋ネタルニ宋ハ税率案ハ現ニ立法院ニテ審議
中ナルカ内容ハ日本トノ協定關係ヲ嚴重ニ尊重シ居リ立法
院ヲ通過スレハ自分ニ於テ之ヲ實施スルノ權能ヲ附與セラ
ルユコトトナルヘク之ニ依リ釐金廢止ノ財源ヲモ造ル積リ
ナリト語リタリ右ハ大體十月十日ヨリ實施センコトヲ目標
トシ居ルモノト思ハル

北平ニ轉電シ南京ニ暗送セリ

339 昭和5年10月10日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）
幣原外務大臣より

新関税率の公布と実施期日に關する正確な情

報入手方訓令

本省 10月10日後10時29分発

公第三八五號

貴電第五三一號ニ關シ

新關税率ノ公布並実施ノ期日ニ關シテハ成ル可ク速ニ正確
ナル報道ヲ入手シ度キ當業者側ノ希望アルニ付此上トモ適

關係ニ付テハ十月六日附商務官發公信商機密第二五六號ノ
如ク右草案ハ北京評價價格ニ比シ些少ノ出入アルモ何レモ
一孫ノ百分ノ一位ニ過キス右ハ單ニ計算上ノ相違ニ止マリ
特ニ增減セルモノニアラスト認メラル御参考迄

南京へ暗送セリ

341 昭和5年10月22日 在中國重光臨時代理公使宛（電報）
幣原外務大臣より

中国の新輸入税率に我方解釈による計算方法
の採用方およびこれが不可能ならば海產物に
ついて税率適當修正方訓令

本省 10月22日後9時17分発

公第四〇〇號

貴電公第九九〇號ニ關シ我方ニ於テハ協定品目中二分五厘
引上ヲ許容セル從量稅品ニ付キ引上ヲ實行スル場合ニハ右
引上ノ部分ノミヲ現行稅率基礎價格又ハ北京課稅價格ヲ基
礎トシテ算出シ之ヲ現行稅率ニ加算スヘキモノト解シ居ル
次第ナルカ（五月七日附通一合機密第五七〇號附屬品目明
細表参照）貴信公第二三九號添附ノ新税率案ニ依レハ

一、商務官公信第二六五号計算ノ通支那側ニテハ大体北京課税價格ヲ基礎トシテ夫々税額全部ヲ算出シ居ルカ如シ（支那側作成ノ日支税率協定支那訳文ニ依レハ支那側ニテハ右様解釈シ居ルヤニ思考セラル）之力為協定品目タル海產物中ニハ從来ニ比シ二倍乃至三倍ノ増額トナルモノアリ

二、商務官計算ニ依レハ前記一ノ方法ニ依ルモ尚少ナガラ二分五厘ヲ超過シ居ルモノ少カラズ（約九品目）

三、現行税率据置ヲ約セル品目ノ税率追モ北京課税價格ヲ標準トシテ変更シ居レリ

右ハ孰レモ嚴格ナル解釈論トシテハ明ニ協定違反ニシテ支那側ガ其假之ヲ發表スルニ於テハ我方ハ内外ニ対スル立場上ヨリスルモ之力修正ヲ要求セサルベカラズ斯クテハ面倒ナル交渉ヲ續クルコトハナル次第ナルニ付貴官ハ適當ノ方法ニ依リ基礎價格採用ニ關シ支那側ノ採リタル方針ヲ此際更ニ詳細聽取セラル、ト共ニ前記（一）（二）（三）ノ諸点ハ我方解釈通り之ヲ修正セシメ後日問題ヲ惹起セシメサル様可然御配慮アリ度尤モ右ノ中（一）ハ協定從量税品目ノ全部ニ付我方解釈ニ依ル計算方法ヲ採用セシムルコト不可能ナラハ先方ヨ

（三）貴電三ノ點ニ付テモ之レ亦全然問題ノ餘地ナキ次第ナレ
リ新税率案ヲ内密ニモ送付シ越サマル今日交渉上多少ノ困難ハアルヘキモ少クモ海產物ニ付テハ適當ノ修正ヲ加ヘシムル様御配慮アリタシ
北平ニ轉電セリ南京ニ轉電アリタシ

342 昭和5年10月31日 在中国重光臨時代理公使より
輸入税率改正については中國側にも根拠あり、海產物に限り修正方に關し張福運と折衝について

本省	上海	10月31日後着
公第一〇三八號		
貴電公第四〇〇號ニ關シ		
（一）當方ノ研究ニ依レハ大體ニ於テ海產物ハ別トシ綿布ニ付テハ北京税率カ草案税率ヨリモ高キモノ二十品目其ノ内我方重要品タル綿「フランネル」染「シャーチング」「ドリルジーンス」五枚縞子等ハ相當ニ高キニ對シ前者力後者ヨリ低キモノ二十五品目其ノ内相當低キモノハ貴電三ニ當ル綿絲ヲ除キ捺染ノ「ドリルジーンス」及縞子ノ正當ナル理由ヲ詳細ニ亘リテ説明シタル處		
張ハ當惑ノ様子ニテ條文ノ解釋ニ關スル貴下ノ説明ハ好ク諒解シ得タリ然レトモ支那側ニ於テ初メヨリ前記ノ解釋ニ基キ前述ノ方法ニ依リ税率ヲ算出シ右税率ハ目下立法院ニテ審議中ナレハ若シ貴方算出ノ税率ト相違アルモノトセハ如何ニセハ宜シキヤ卒直ニ貴下ノ意見ヲ問ヒ度シト述ヘタルヲ以テ堀内ヨリ嚴格ナル條約論トシテハ協定税率ノ全體ニ亘リ前記我方ノ方法ニ依リ算出シタル税率ニ合スル様修正ヲ要求スヘキ筋合ナルモ貴方ノ事情ヲモ諒トシ著シク異ナルモノニ付テノミ修正セラレナハ些少ノ相違ハ默認スル様自分ヨリ代理公使ニ建言スヘク又右修正ノ理由トシテハ現行税率ヲ著シク引上クトキハ豫期ノ收入ヲ得難シ等適當ノ理由ヲ付ケ得ヘシ何レニスルモ折角日支間ノ好感情ヲ齎シタル本件協定ニ付後日面倒ナル論議ヲ惹起スルカ如キハオ互擔當者ノ恥辱ナレハ右様充分ノ努力ヲ盡サレタシト述ヘタルニ張モ右ニハ同感ナレハ宋部長及専門家トモ相談ノ上出來得ル限りヲ盡スヘク何分ノ儀回答スヘシト答ヘタリ		

ハ差ノ大ナルモノニ付テハ出來得ル限り修正方ヲ申入レ
置キタリ

四尙人參及砂糖ニ付テモ關稅交渉中ノ經緯ヲ話シ貴電公第

三四九號及砂糖業者ニ對スル宋子文ノ非公式諒解ニ付夫々

先方ノ注意ヲ喚起シ置キタリ

條約解釋論及比較表郵報ス

南京ニ轉電セリ

343 昭和5年11月28日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

張福運に対し協定税率につき條約論は別とし
て原案修正方および日中両案が大体一致する
旨財政部より声明方依頼について

上 海 11月28日後発
本 省 11月28日後着

往電公第一一三九號（極秘）

往電公第一〇三八號ニ關シ

其ノ（後）堀内ヲシテ引續キ張福運ト折衝セシメ居ル處去
ル十九日兩人會議ノ節張ハ本月初立法院財政分科會ノ友人

二對シ我方ノ條約論ト協定税率表（海產物及綿糸）ヲ示シ
同分科會ノ考付トシテ出來得ル限り我方ノ税率ニ合致スル
様原案ノ修正方ヲ懇談シタル處同友人ハ中國側ノ解釋モ充
分理由アレハ立法院トシテハ必スシモ日本側ノ解釋ヲ認メ
難シトノ意見ナリシモ張ヨリ條約論ハ別トシ折角圓満ニ出
來上リタル關稅協定ニ關シ技術上ノ點ニ付議論ヲ起スハ兩
國國交上遺憾ナレハ條約論ニ觸ルコトナク原案修正方ヲ
依頼シ該友人ハ盡力方免ニ角承諾シタルカ張トシテハ相當
ノ望アルモ其ノ成否未タ言明シ難シト語リ居タルニ付堀内
ヨリ尙一層ノ盡力方ヲ希望スルト共ニ

分科會力張ノ意見ヲ採用セサル場合ニハ代理公使ヨリ別ノ
方法ヲ取ル必要アレハ立法院ニテ税率決定前成ル可ク速ニ
成否ノ見込ヲ通知セラレタキ旨依頼シ置キタリ

〔²南京發本官宛電報公第一六〇號ニ依リ二十七日堀内ヲシ

テ張ヲ南京ニ訪ネシメタル處張ハ二、三日前前記友人ヨリ
分科會ノ參考人トシテ招請セラレタル張ノ部下ニ對シ全院
會議前ノ今日確定ニ説明シ難キモ同院ニ於テハ多分張ノ
意見ヲ採用スルコトナルヘシト語リタルヲ以テ自分トシ
テハ確約シ難キモ本件ハ大体御希望通り解決シ得ルモノト

編注（）見当らず。

344 昭和5年12月2日 在中国重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

新税率案の立法院通過と日本側意見が同案中
に採用されていると諒解する旨の張福運書面
について

上 海 12月2日後発
本 省 12月2日後着

往電公第一一四九號（極秘）

往電公第一一三九號ニ關シ

張福運ヨリ堀内ニ對シ一日附機密書面ニテ新税率案ハ既ニ
立法院ヲ通過シタルカ貴方ノ意見ハ右新税率案中ニ採用セ
ラレタリト諒解スル旨並ニ本件ヲ宋部長トノ間ノ問題トス
ル必要ハ最早之無キモノト認ムル旨通報シ越セリ
福運ノ説明ニテ大體安心出來ル様ニモ認メラル處尙注意
中ナリ（張トノ關係ハ發表セラレサル様ニ願フ）

南京ニ暗送セリ

345 昭和5年12月3日 在中国重光臨時代理公使宛（電報）

幣原外務大臣より

中国側新税率案の内示と我方意見採用交渉方訓令

本省 12月3日後8時24分発

貴電公第一一四九號ニ關シ

張ヨリノ通報中ニ我方ノ意見ガ新税率案ニ採用セラレタリ

トアルハ貴官從来ノ御報告ニ鑑ミ協定品目中ノ海產物及綿

糸ニ付我方計算ニ合致スル様原案ヲ修正シタルノ意味カト

シタル處（二）右以外ノ品目中二分五厘引上ヲ認メタル

モノニ就テハ大体從来ノ新税率案ヲ其候採用シタルモノナ

ルベク又（二）現行税率据置ノ分ハ全部変更ヲ加ヘザル事

思考スル處（二）右以外ノ品目中二分五厘引上ヲ認メタル

モノニ就テハ大体從来ノ新税率案ヲ其候採用シタルモノナ

表後我方ヨリ何等正式申入ノ必要アルヤモ知レサルニ付我
方意見ノ採用セラレサル品目ノ税率ニ付我方ヨリ之ヲ容認
シタルガ如キ印象ヲ与ヘサル様御注意アリタク御如才ナキ
コト乍ラ申添フ

南京へ轉電セリ

346 昭和5年12月5日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛（電報）

新税率案の内示は不可能なるも我方計算方法

を採用と張福運が堀内に談話について

本省 12月5日後着 上海 12月5日後発

公第一一六四號

貴電公第四四四號ニ關シ

（一）四日堀内ヲシテ張福運ニ就キ往電公第一一五一號立法院
ニ於テ我方ノ意見ヲ採用シタル結果如何ナル税率ヲ決定
シタルヤヲ確カメシメタル處張ハ立法院ニ於テハ條約ノ
解釋論ハ別トシテ協定品目ノ全部ニ付我方ノ計算方法ヲ
採用シタルコトヲ其ノ後確カメタルヲ以テ單ニ海產物及

オルモ積出主義ニ依ル猶予期間ヲ認メラルヘキ旨報シ居ル
処右ニ閏シ御聞込ノ次第モアラハ電報アリタシ

南京へ轉電アリタシ

348 昭和5年12月14日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）

裁厘による各省財源不足は中央において収支
状況を斟酌の上補填する旨財政部の上申によ
る行政院通令について

南京 12月14日前發 本省 12月14日後着

第九二一號

行政院ハ財政部ノ上申ニ基キ十三日附ヲ以テ各省政府ニ
對シ大要左ノ如ク通令セル趣ナリ

釐金ハ從來各省政府歲入ノ主要ナルモノナルカ裁釐實行ニ
關スル明令布告後各省政府ハ現狀ヲ維持スヘク釐金ニ代ル
ヘキ財源ヲ要求シ或ハ鹽稅附加稅又ハ特種稅收ヲ省政府ニ
歸屬セシメンコトヲ頻々トシテ申出ツツアル處斯くてハ財
政ノ統一ヲ阻害スルノミナラス遂ニハ裁釐ヲ有名無實トン

公第四四七號

新輸出関税実施は一月一日との報道あり積出

主義による猶予期間設定に付き確認方訓令

本省 12月8日後7時32分発

六日南京發聯合ハ新輸出入稅率實施期日ハ一月一日トナリ

其ノ弊害昔日ヨリモ更ニ甚タシカルヘク依テ裁釐實行ニ先

子左記原則ヲ確定シテ紛糾ヲ斷チ以テ進行ヲ計ルヘシ

(甲)鹽稅正稅及附加稅ハ共ニ國稅ノ主要ナルモノニ付湖南湖

北省ノ如ク中央ニ歸屬スヘキ附加稅ハ勿論ノコト其ノ他ノ

省ニシテ從來省ニ歸屬セルモノモ一律ニ中央ノ歸屬トシ以

テ鹽稅ノ統一ヲ期シ同時ニ之カ整理ニ資ス

(乙)特殊消費稅ハ元來中央ノ稅收ナルヲ以テ中央ニ於テ主管ノ局ヲ設ケ全國ノ稅法ヲ劃一シ以テ良稅タラシムルコトヲ

期ス

(丙)各省政費ノ不足ニ對シテハ中央ニ於テ各省ノ收支狀況ヲ斟酌ノ上夫々補助ス云々委細郵報

上海ヨリ公使及商務參事官へ轉報アリ度シ

上海、北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

349 昭和5年12月16日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛(電報)

民国二十年一月一日を以て厘金および厘金類似の稅捐とその徵稅機關を廢止し延期を認め

ない旨宋財政部長通電について

南京 12月16日後発

本省 12月16日後着

第九二二號 財政部長ハ十五日附ヲ以テ大要左ノ如キ通電ヲ發セリ

民國二十年一月一日釐金及釐金類似ノ一切ノ稅捐ヲ廢止シ

各省ハ如何ナル理由アルモ之カ延期ヲ請求スヘカラサル次

第八襄ニ第四次全體會議ノ決議ニ基キ命令ヲ發セラレ居リ

本部ハ既ニ各省財政廳財政特派員各鐵道貨捐局各郵包稅局

總稅務司各海關常關監督ニ對シ全國ノ釐金及釐金變名ノ統

稅、統捐、專稅、貨物稅、鐵路貨捐、郵包稅、落地稅並ニ

各種稅捐中釐金ノ性質ヲ含ムモノ將又海關ノ五十里外ニ於

ケル常關稅及其ノ他内地常關稅(陸路邊境ニ於テ徵收スル

國境輸出入稅ヲ除ク)子口稅又ハ復進口稅等ハ本年十二月卅一日限一律永遠ニ廢除スヘキ旨通令シアリ從テ二十年一

月一日以降是等稅捐ノ各徵收機關ハ絕對ニ存在スルコトヲ

許サヌ若シ利益ヲ圖ル爲何等名目ヲ立テ右實行ノ遷延ヲ計

ル者アランカ法令及輿論ハ共ニ許ササルヘシ本部ハ民衆ノ

苦痛ヲ除キ黨國ノ大計ノ爲如何ナル困難アルモ本件計畫ヲ

シ又裁釐後ノ財源補填策トシテ特種消費稅出廠稅及營業稅ノ三種ノ新稅ヲ起スコトハシ其徵收手續及稅率等ニ關シ審議ヲ進メツハアル趣ニモアリ實際ハ兎モ角尠クトモ名義上ハ明年一月ヨリ裁釐ヲ實施シタル建前ニテ進ムコトハナル場合ヲモ豫想シ得ル次第ナリ然ルニ我方トシテハ御承知ノ通釐金撤廢ノ上ハ二分五厘抵代稅制度ノ廢止ヲ約シ居ル關係アリ國民政府ニ於テ全國ニ亘リ釐金其他之三類似ノ一切ノ通過稅廢止ノ曉ハ抵代稅ノ撤廢ヲ認メ差支ナキモ實質ヲ伴ハザル名義上ノ裁釐ニ依リ直ニ抵代稅制度ノ廢止ニ同意スルコト能ハザルハ勿論裁釐後ノ財源補填策トシテ前記各種ノ新稅ヲ賦課スルコトハナラバ右ハ關稅自主權承認不承認ノ趣旨ニ副ハザルモノト謂フベキノミナラズ條約關係ヨリスルモ綿糸消費稅ノ如キ特殊ノモノ以外ハ之ガ承認不承認ノ問題ヲ生スル次第ナリ旁々國民政府ガ明年一月以後裁釐問題ヲ如何ニ處理スルヤハ今後ニ於ケル我方ノ對策トモ關係アルニ付貴官ハ至急國當局ニ付裁釐計劃(裁釐後ノ財源補填策ヲ含ム)ノ內容全國各省ニ於ケル裁釐實施ノ見込等詳細御聽取相成ルト共ニ大體前記ノ趣旨ニヨリ我方ノ立場ヲモ説明シ置カレ度結果回電アリタシ

350 昭和5年12月19日 帽原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛(電報)
上海ヨリ公使へ轉報アリタシ
上海、北平、漢口、廣東、奉天、天津、青島、濟南ニ轉電セリ

本省 12月19日後6時25分発
公第四六一號
國民政府の裁厘計画等調査および我方立場説
明方訓令

上海発本大臣宛電報第七一七號及南京發本大臣宛電報第九二二號ニ閔シ
國民政府成立後一再ナラズ期日ヲ限リテ釐金ノ撤廢ヲ声明シタルニ拘ハラズ今日迄之ガ實現ヲ見ルニ至ラズ宋子文今次ノ通令ノ通り明年一月一日以後愈々之ガ撤廢セラルベキヤモ尚疑問ナキ能ハサル次第ナルガ第四回全体會議ニ於テハ今后如何ナル事情アルモ右期限ノ延期ヲ許サヅル旨決議

上海へ暗送シ漢口、南京、廣東へ轉電アリタシ
北平、奉天、天津、青島、濟南へ轉電セリ

351 昭和5年12月22日 币原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）
在上海總領事來電第七二五號及在哈爾賓總領事來電第二七三号ニ關シ
裁厘實行が全國に及ばない限り抵代税制度維持方訓令

本省 12月22日後9時30分發
公第四六七號（至急）

在上海總領事來電第七二五號及在哈爾賓總領事來電第二七三号ニ關シ
海關ニ於テ明年一月一日ヨリ移出入子口半税ノ廢止ヲ告示
シタルハ所謂二分五厘抵代税制度ノ廢止ヲ意味スルモノト
思考スル處我方力裁釐ト同時ニ抵代税制度ノ廢止ヲ約シタルハ裁釐カ全國的ニ實行セラレタルコトヲ条件トスルモノナルコト往電公第四六一号ノ通ナルニ若シ地方ニ依リテハ依然釐金類似ノ諸税ヲ課徵シナガラ（漢口來電第六七一號奉天來電第五九九號及芝罘來電第一〇〇号参照）此際直チニ抵代税制度ヲ廢止スルニ於テハ事態ハ裁厘前ニ比シ反ツ

ノ實情ハ本部ト同様困難ナルモノアラムモ一致協力此ノ難關切抜ケニ努力スルト共ニ此ノ際積極的ニ地租ノ整理及營業税ノ實施ヲ行ヒ收入ノ不足ヲ補フコトシ度シ云々尙財政部長ハ同日附ヲ以テ全國各徵稅機關ニ對シ釐金及釐金類似ノ各種稅金撤廢ニ伴ヒ一月一日以降ハ絕對ニ此ノ種徵稅機關ノ存在ヲ許サス若シ何等辭柄ヲ設ケテ之力撤廢ヲ遷延シ私利ヲ計ラムトスルモノ有ラハ故意ニ黨國ノ大計ヲ破壞スルモノトシテ斷シテ假借セサルヘシ各機關ハ本訓令接到次第其ノ執行狀況不取敢電報スヘシト訓令セリ
委細郵報
上海ヨリ公使ヘ略送アリ度シ
北平、上海、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電
セリ

352 昭和5年12月24日 在南京上村領事より
幣原外務大臣宛（電報）
第九四〇號
往電第九二二號ニ關シ
財政部長ハ二十三日附ヲ以テ大要左ノ通電ヲ發セリ
國民政府カ一昨年釐金ヲ國家收入トシ地租ヲ地方收入ニ變更セルハ裁釐實行ニ伴フ損失ヲ中央ニ歸セシメ以テ目的ヲ貫徹セムト決心セル所以ニシテ財政部ノ收入ハ之力爲毎年

353 昭和5年12月24日 在中國重光臨時代理公使より
貴電公第四六一號及貴電公第四六七號ニ關シ
廿三日堀内ヲシテ張福運ニ確メタル結果左ノ通
一、釐金廢止ハ宋部長ノ確乎タル信念ニ基キ明（年）一月一日ヨリ愈實行サルルコトトナリ居リ四川省ヲ除ク全國ニ行ハルル筈ニテ從來釐金ノ弊害最甚シカリシ河南安徽山東等ニ於テモ問題ナカリヘク又地方ノ反對ノ如キハ（堀内ヨリ貴電公第四六七號各地ノ反對ヲ述ヘタルニ對シ）宋部長ニ於テ斷然之ヲ排除シ來リ地方歲入減ノ補償トシテハ毎月中央ヨリ一定額ヲ補助スルコトナリタリ

二、右補償金ノ財源トシテハ中央ノ稅トシテ統稅（綿絲、

燐寸、「セメント」) 及特別消費税(木材、陶器、紙、茶)ヲ地方税トシテ營業税ヲ新設スルコトトシ前者ノ

二税ハ中央ニ於テ目下籌備中ナルカ今ノ處一月一日ヨリハ實施シ難ク釐金廢止ヨリハ相當遲レテ實施セラル

ルコトナルヘク夫レ迄ノ補償金ハ關稅其ノ他ノ中央收入ヨリ捻出セラルヘシ

三、境内ヨリ抵代税ノ廢止ト釐金廢止乃至補償税ノ新設トノ關係ニ就キ貴電ノ趣旨ヲ説明シタルニ對シ張ハ釐金廢止ハ抵代税同様一月一日ヨリ全國的ニ實施セラレ補

償税ハ之ヨリ遲レテ實施セラルル次第ナレハ斯ノ如キ故障ハ起ラサルヘク萬一輸入商人ニ不便ノ點アレハ其ノ場合充分考量シ得ヘシト述ヘタリ

北平、奉天、天津、青島、濟南、漢口、廣東へ轉電シ南京へ暗送上海へ轉報セリ

354 昭和5年12月27日 幣原外務大臣より
在中國重光臨時代理公使宛(電報)

裁厘に伴う補償税新設に際し條約問題等惹起
せぬよう国民政府に注意喚起方訓令

本省 12月27日後10時11分発

公第四七六號

貴電公第一二六六號ニ關シ

國民政府力萬難ヲ排シテ明年一月一日ヨリ裁釐ヲ實行セン

トスルノ決意ハ諒トスヘキモ地方ノ事情ニ依リテハ必スシモ中央ノ意思通リニ動クコト不可能ナルカ如ク、張福運力

補償税ノ新設ヲ釐金廢止ヨリ相当遲レテ實施スルノ意図ヲ漏シタルハ裁釐ノ即時一律的實行ノ困難ナル事情ヲ暗示スルト共ニ他方国民政府ハ一月一日ヨリ裁釐シタルノ故ヲ以

テ抵代税存置ノ理由ヲ失ハシメ補償税ハ抵代税廢止後ニ於テ之ヲ實施セントスル腹トモ推セラレサルニアラス就テハ

張ニ於テ萬一輸入商人ニ不便ノ点アラハ其ノ場合充分考慮シ得ヘシトハ謂ヒ居ルモ往電公第四六七號我方ノ主張ハ充

分宋子文等ニ徹底スル様此上共御配慮アリ度ク尚補償税ニ付テハ往電公第四六一號ヲ以テ申進置ノ通ノ條約關係モア

リ支那側現下ノ財政狀態ニハ同情ヲ惜マサルモ我方ガ默認スルニ於テハ今後或ハ課稅物品ノ種類ヲ増加スルト共ニ漸

次稅率ノ引上ケラモナスコトナキヲ保シ難ク他方我方力開

稅協定交渉ニ於テ特ニ綿糸ノミニ付消費税ヲ認メタル當時

ノ經緯ハ御承知ノ通ナルニ付本件補償税ノ新設ニ依リ條約問題ヲ惹起セサル様適宜先方ノ注意ヲ喚記^(起記)シ置キ後日我方ニ於テ本件ヲ適當ニ指導シ得ルノ素地ヲ作り置クコト極メテ肝要ト思考セラル本問題ノ推移ニ付テハ當業者方面ニ於テモ尠カラス憂慮シ居ル次第ナルニ付貴官ハ前記御含ミニ依リ先方當局ト折衝セラレ交渉ノ模様ハ隨時電報アリ度シ本電南京、漢口、廣東へ轉電シ貴電吉林、哈爾賓へ轉電アリ度シ

北平、青島、濟南、天津、奉天、吉林、哈爾賓へ轉電セリ

到着主義ニ依リ實施スルコトニ大体決定セル旨ヲ内話シ尙右ノ次第及出所ハ新聞ニ出テサル様特ニ注意アリタント述ヘタル趣ナリ就テハ當業者ニ内示等ノ場合右ノ點特ニ御留意相成タシ

北平、在支各總領事(成都ヲ除キ香港ヲ含ム)南京、蕪湖、九江、長沙、重慶、汕頭、廈門、安東、牛莊、長春、芝罘、關東廳ニ轉電シ上海へ轉報セリ

355 昭和5年12月27日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

新税率は十二月三十一日公表、二月一日実施
月一日より実施することについて

本省 12月27日後発

とメーズ總稅務司が横竹に内話について

公第一二七九號(至急)

356 昭和5年12月31日 在中國重光臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

厘金廢止に合わせるため新輸入税率を急遽一月一日より実施することについて

本省 12月31日前着

公第一二九三號

往電公第一二九〇號ニ關シ

國民政府部内ニ於テハ一月一日ヲ主張スルモノアリタルカ大體ニ於テ新税率ノ實施期日ヲ二月一日ト決定シ居タルコトハ屢次電報ノ關務處長及「メーズ」等ヨリ得タル情報等

ニヨリ明力ナル處今回一月一日ニ變更シタルハ全ク突然ノ
決定ニシテ「メーズ」ノ如キハ往電公第一二七九號ノ手前
進ンテ商務官ニ内報シ來リ又張福運モ堀内ニ對シ實ハ昨日
突然宋部長ヨリ一月一日ニ決定ノ旨承知セリト話シ居タル
位ナリ斯ノ如ク新税率ノ實施期ヲ早メタルハ實ハ政府ニ於
テハ一月一日ヨリ釐金廢止ヲ斷行スルコトシ統一稅消費
稅モ亦種々ノ曲折ヲ經タル後釐金廢止保障ノ爲一月一日ヨ

リ實行スルコトニ決シタル處我方當業者側ハ統一稅ハ輸入
稅ト均衡ヲ保ツヘキモノニシテ之ト同時ニ實施セラルヘキ
モノナレハ輸入稅ノ實施以前ニ之力實施ヲ認ムル要無シト
ノ態度ヲ執リタルカ右ハ本件急速實施ニ變更ノ一理由ニ非
スヤトモ認メラル何等御参考迄

付 綿系統一稅問題

357 昭和5年1月24日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿系統一稅導入の場合輸入稅に上乗せして課
稅するや否や確認回電方訓令

本省 1月24日発

公第一一號（極秘、至急）

貴電公第四八號ニ關シ綿系統一稅ハ内國品ニ對シ一割ヲ課
スル場合ニハ外國品ニ對シテハ輸入稅ノ外輸入稅ト右統一
稅トノ差額即チ輸入稅ヲ七分五厘トスレハ二分五厘ノ統一
稅ヲ賦課スルノ意ナリヤ或ハ輸入稅ノ外更ニ内國品ト同様
一割ノ統一稅ヲ課スルノ意ナリヤ右ハ前者ノ意味ナルヘシ
ト推セラルモ爲念御確メノ上回電アリタシ

358 昭和5年1月25日

幣原外務大臣宛（電報）

綿系統一稅は關稅の他に内地產品と同一額を
賦課するものとの宋子文の説明について

上海 発

本省 1月25日前着

公第六五號（大至急、極秘）

貴電公第一一號ニ關シ

二十四日宋ニ直接確メタル所ニ依レハ輸入綿系ニ對シテハ
關稅ノ外ニ内地產品ト同一額ノ統一稅ヲ課スル次第ニテ外
國品ハ關稅ヲ拂ヒタル上ニテ國內品トナルモノニ付其ノ上
ニテ内國品ト全ク一樣ニ課稅セムトスルモノナリト説明セ
リ尙宋ハ右ハ船津ニ於テ再度モ歸朝シ當業者並ニ政府ニ說
明シタル由ナレハ東京方面ニテハ其ノ事情ヲ充分諒解シ居
ラル筈ナリト思フト述ヘタリ右ハ從來ノ船津ノ説明トハ
聊カ異ナル點モアルヤニ思考セラルニ付更ニ研究スヘキ
モ不敢敢

359 昭和5年1月29日

幣原外務大臣より
在中国重光臨時代理公使宛（電報）

綿系統一稅に対する中國側留保は内地通過稅
廃止に関する取締の趣旨より反対故内地課稅
問題は後日に譲り當業者の私的契約の範疇で